麻原尊師の真理入門セミナー

STEP TO 真理

Shinri

★

宇宙の法則編

オウム真理教

麻原尊師の真理入門セミナー

STEP TO 真理 *Shinri*

宇宙の法則編

★

AUM Public Relations Editorial Staff

ようこそ! 真理の世界へ

こころの問題、内側の世界に関心のある人が、どんどん増えてきている現代。何でも手に入る豊かな時代だからこそ、物だけでは本当に幸せになれないことに、やっとみんなが気づき始めたのかもしれません。自分の外側ではなくて、内側にこそ真実の幸福が潜んでいると――。

仏教の開祖、サキャ神賢（釈迦牟尼）をはじめとして、いにしえの多くの聖者たちは、その魂の幸福を求めて、厳しい修行を志してきました。その結果、解脱し、悟りを開き、全宇宙の構造、それを支配する法則、そして〝真実の自分〟を知ったのです。そして、多くの人々に、本当の自由・幸福・歓喜をつかむための真理の法則を説いたのでした。

しかし、日本では、激しい修行をし、解脱に到達した人がいなかったがために、悲しいことに、サキャ神賢の教えさえ、完全に歪められて伝えられているのが現状です。そんな中で、魂の真の自由を求めて八年間

も生死をかけた修行をされ、最終解脱に至ったのが、オウム真理教開祖・麻原彰晃尊師でした。

尊師は、今、この日本において絶対的な真理を説き明かされています。いにしえの偉大な聖者方が説いた真理が、現代の生きた言葉で甦ったのです。

本書は、その麻原尊師の真理の世界に初めて触れる方のために、基本となる教えを編集してつくられました。第一章は、宇宙創造のプロセスから全宇宙の構造までを明かす「大宇宙の構造」、第二章はわたしたちの幸福・不幸を決定している「カルマの法則」、そして、第三章は、ズバリ「輪廻転生」です。

本書によって、皆さんが、真理の世界の扉を開き、そして、より広大深遠な真理への旅に向かわれるのなら、それはもう、心からの喜びです。

C O N T E N T S

STEP TO 真理

Shinri





★上位非形状界――心の実態の世界
★認知経験滅尽――最高の世界はここ!!
★宇宙は何度も創造される
★宇宙はこれからどうなる?
★守護神はどこのヒト?
★幽霊はなぜ現われるのか

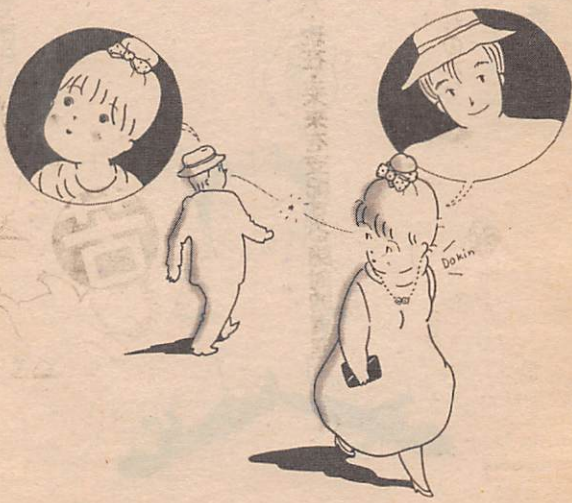


第2章 カルマの法則

★過去・現在・未来を支配する絶対的真理

★これがカルマの法則だ!
★なぜ、わたしたちは生まれたときから不平等なのか?
★苦しみを与えると、苦しみが返る
★功徳を積めば、悪業を積めば
★同じことをしても、違う結果が返ってくるのは?




Dokin

★嘘をつく本当の怖さは

★意味のない言葉をしゃべると、ものを達成できない

★悪口で地獄に落ちることも！

★人を仲たがいさせて、自分は自閉症

★心においても戒めを守れ

★今悪いから、ずっと悪いのか？

★〝カルマ落とし〟は素晴らしい

★天へ至る妻、地獄に至る妻

★貪りをシャットアウトすれば、ガンは治る！

★堕胎のカルマは必ず返る

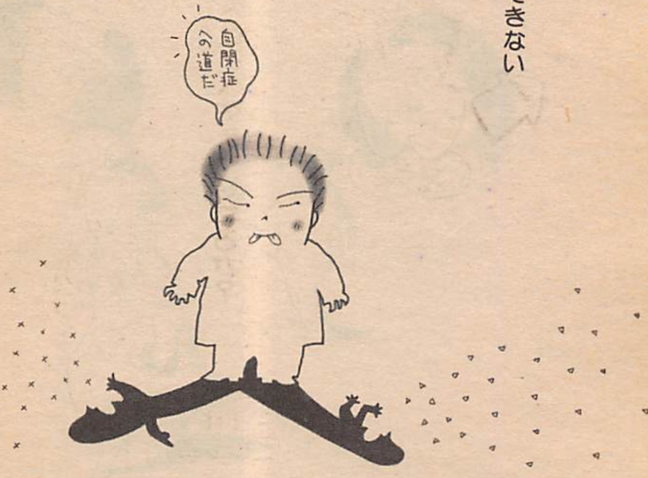
★〝カルマが落ちる〟ことの医学的証明

★カルマからの解放、それがニルヴァーナだ

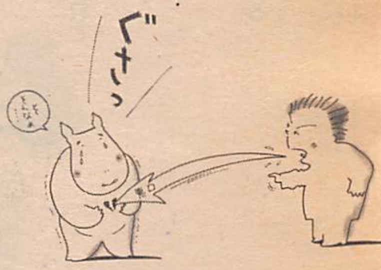
体験――カルマの法則は存在する！

●財施の実践で、盗まれた以上のお金が

●悪口は、心を切り刻むような苦痛が返る



- 罵倒には罵倒が返ってくる
- 恐ろしい悪口の清算
- まさにそのままのシチュエーションで……
- 頭ばかりぶつけた理由は?
- 叩きたくないのに叩いてしまう……



第3章 輪廻転生

★あなたはどこへ生まれ変わるか?

★絶対的真理、輪廻転生

★輪廻転生の長いスケールで考えろ!

★日々の行ないが転生を決める

★来世は決定されている!

★転生を決めるカルマ

★苦しみの輪廻を超える




いいことも
したんだから
人間に転生
させなさい!!
うーん


ギャアー


ん?


今の

第1章

大宇宙の構造

★これが真実の世界！

宇宙は多重構造

この全宇宙は、愛欲界（欲界）、形状界（色界）、非形状界（無色界）、そして大完全煩悩破壊界（マハー・ニルヴァーナ）に分類することができる。

愛欲界とは、今現在わたしたちが生きているこの世も含まれ、熱優位の粗雑な物質でできている世界である。

形状界とは、音優位の微細な物質でできた世界で、上位形状界と下位形状界に分かれている。そのうちの下位形状界が、愛欲界と重なっている。重なっているとは、通じ合っているという意味である。

非形状界とは、光優位のデータの世界である。これは、上位・中位・下位と三つに分かれている。そのうちの下位非形状界が愛欲界、下位形状界と重なっており、中位非形状界が上位形状界と重なっている。上位非形状界となると、他のどの世界とも重なっていない。上へ行くほど、透明な光が強くなり、光が情報として存在している。

これらの世界は、どこも下から上に行くに従って、そこに存在する魂の密度が低くなっている。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）

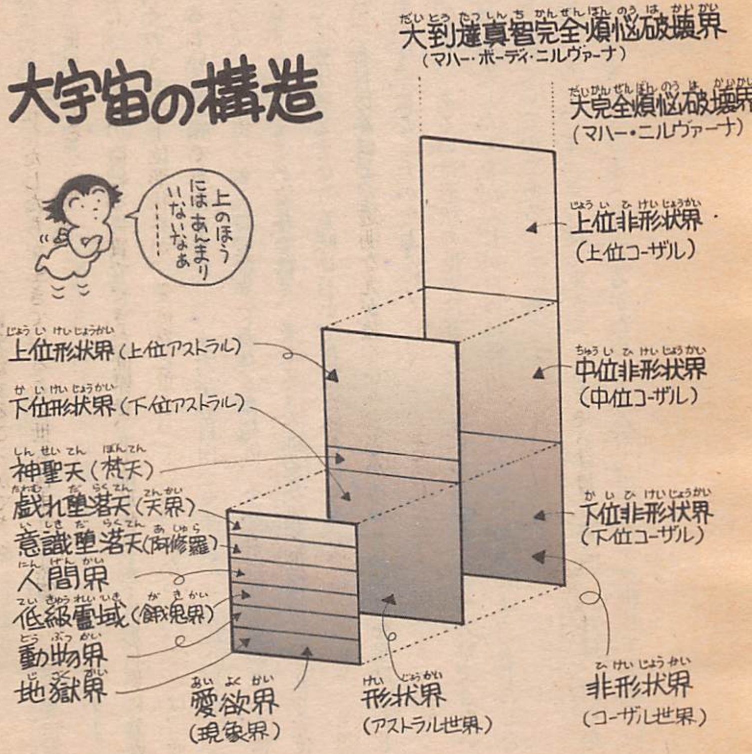


S T E P

●第１章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



わたしたちの本質は何か

もともとわたしたちの本質である真我は、無始の過去においては、そのものは自由で、幸福で、歓喜であった。この、まず真我の特性についてお話ししよう。

真我の特性の絶対自由とは何かというと、これは非形状界（無色界）、形状界（色界）、そして愛欲界（欲界）の三つの世界に対して、自在に身体をつくり、現われることもでき、あるいは、そこから自在にまた元の世界へ帰ることができたという意味において自由だったのである。

当然、この自由は、死の自由を意味し、また生の自由を意味した。これはどういうことかというと、つまり、例えば愛欲界に身体を創造し、その身体が必要がなくなると、自分の意志によってその身体を捨て、そしてまた元の完全煩悩破壊界（ニルヴァーナ）へ帰ることができるという意味において自由だったのである。

そして、第二番目の絶対幸福だが、これは、いっさいのカルマ※の制約を受けないということにおいて幸福だったのである。

この愛欲の世界、あるいは形状の世界はカルマの法則から脱却することはできない。このカルマは、わたしたちをがんじがらめに縛り、そのカルマの力によってわたしたちは幸福を奪われているのである。……（略）……

近ごろの若者たちが、ギャグっぽく生きているという実態がある。これは、明らかにギャグのデータをたくさん入れているがために自分の人生をギャグ化して生きているのである。

※カルマ＝第２章参照。

●第1章●
大宇宙の構造
これが真実の世界！

つまりこのように、情報からわたしたちは自由ではないのである。そしてこれは不幸なのである。

ところが、真我の特性は、いっさいの情報の影響を受けないのである。確かに、瞬間瞬間経験はしているのだが、この経験が根づかない。根づかないことによって、一つ一つの行為や言葉の働きだけが存在し、過去の経験からいろいろな感情が働くということはないのである。つまり、真我の特性の幸福とは不幸でないという意味において幸福なのである。

では、絶対歓喜とは何であろうか。歓喜とは何かというと、もともとわたしたちの真我は、喜びのエネルギーを漏らすことによって願望をかなえていく。つまり、願望がかなうということは喜びのエネルギーが減っていくということである。そして、喜びのエネルギーが減る代わりに、苦しみのエネルギーが増大してくる。これが、わたしたち人間なのである。

そして、これらの三つの状態、本来これらの三つの状態に安住していることが幸福であるはずなのに、三グナの干渉を受けることによって、そこへ巻き込まれてしまったのである。

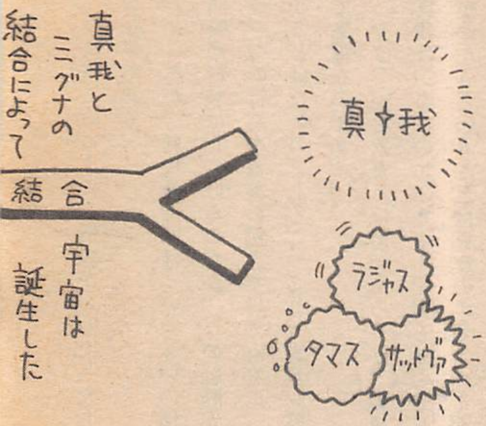
（『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』より）

真我と三グナ

三グナとは何であろうか。これは、ラジャス、タマス、サットヴァといわれている三つのエネルギーである。ラジャスとは熱エネルギーを意味し、タマスとは音のエネルギーを意味し、サットヴァとは智慧（ちえ）、光のエネルギーを意味している。

これら三つのエネルギーが真我（しんが）に干渉した。そしてこの三つのエネルギーのダイナミックな動き、美しさ、光に干渉した真我は、その中へと没入する。そのとき、ものすごい大きな爆発が生じた。これが、現代物理学でいうビッグバンなのである。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）



●ビッグバン理論とヨーガ理論

初めに光の大爆発があった。そして、光子が衝突し、素粒子ができ、原子ができ、星が生まれ、星雲が生まれた。これが現代物理学の宇宙創造の理論〝ビッグバン・セオリー〟である。

ヨーガ理論によると、この宇宙は我々の住む「現象界（げんしょうかい）（愛欲界（あいよくかい））」と、現象界より高次元の「アストラル世界（形状界（けいじょうかい））」、さらに高次元の「コーザル世界（非形状界（ひけいじょうかい））」の三つに大きく分けることができる。そして、現象界は熱エネルギー

S　T　E　P

●第１章●
大宇宙の構造
これが真実の世界！



（ラジャス）が、アストラル世界は音（振動）が、そしてコーザル世界は光（サットヴァ）が優位の世界である。

そして、この三つの世界は連動している。コーザル世界で想念が生じた後、アストラル世界にそれに対応するイメージが現われ、その後、現象界に事象が生じる。逆にいえば、もし、時間をさかのぼることができたなら、アストラル世界やコーザル世界にたどり着くことができるはずだ。

この推論は、ビッグバン理論と見事に一致する。時間をさかのぼって、宇宙の初期の状態を見てみよう。初めに、光子同士が衝突し、振動とともに光子から素粒子になる中間の状態を経て、素粒子ができ、同時に熱が放出された。時間を逆にたどると、「熱」を伴った素粒子があり、その後衝突により激しく「振動」している中間状態があり、そのさらに後「光（光子）」だけの世界があった。それぞれが、現象界、アストラル世界、コーザル世界であることは明らかである。

異次元に行くには?

まずね、チベットの仏教でいわれている五法身(ごほうしん)について話さなければならない。いいですか。まず、マニプーラ・チァクラのところに「変化身(へんげしん)」が宿るといわれています。変化というのは、「変化」の身体ですね、変化身。

そして、アナハタ・チァクラのところに、「法身(ほっしん)」。法身というのは「法律」の法ですね。法身が宿るといわれています。

それからヴィシュッダ・チァクラのところに、「報身(ほうしん)」。「報いる」身体ですね。報身が宿るといわれています。…(略)…

そしてアージュニァー・チァクラのところに、「本性身(ほんしょうしん)」。本当の「本」に――bookの本ですね――それから性質の性、本性の身体の身、本性身が宿るといわれています。

そして、サハスラーラ・チァクラのところに、「金剛身(こんごうしん)」。金は「金」ですね、剛は「岡にりっとう」と。金剛の身体が宿るといわれています。いいですか。…(略)…

この金剛身イコール、「真我(しんが)」だとお考えください。いいですか。真我の真は、「真実」の真に「我」です。これは同じ意味合いを示しています。いいですか。

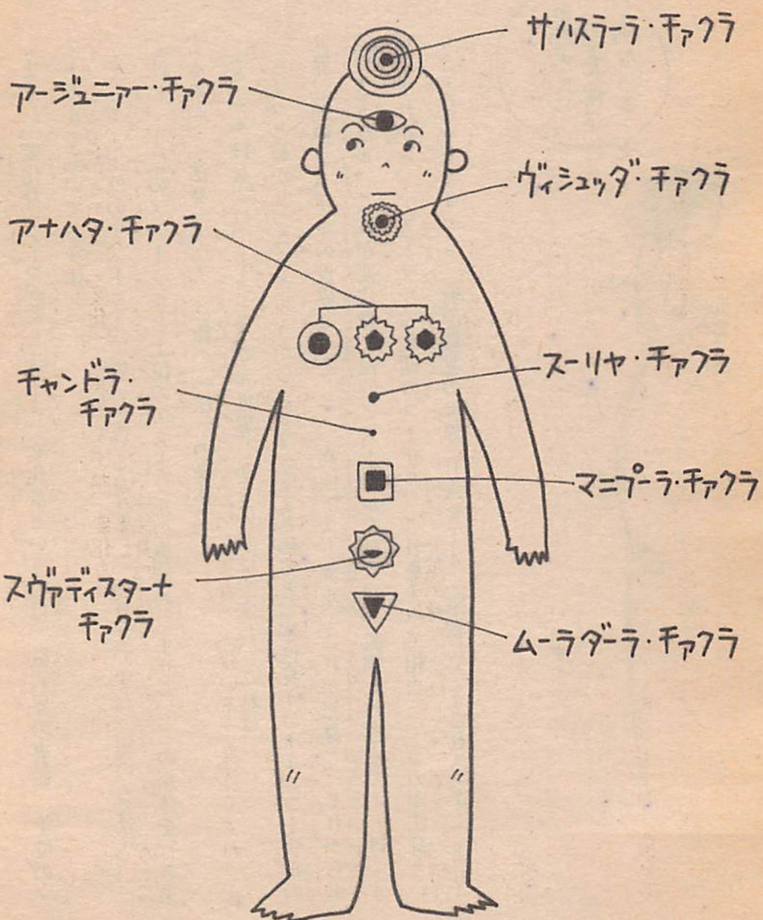
そして本性身と、それから法身ですね、つまりアージュニァー・チァクラとアナハタ・チァクラ、この二つはコーザルの世界の身体だとお考えください。釈迦牟尼(しゃかむに)の言葉を借りるならば、それは「無色界(むしきかい)」というふうに表現することができます。…(略)…

そして、報身と変化身、これはアストラル世界の身体だとお考えください。

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



はい、じゃあこれをもっと詳しく言いましょう。

まず、「変化身」から説明しますよ。変化身というのは、欲六界の裏側、下位のアストラルで働いてる身体と。

そして、上位のアストラルで働いている身体を、「報身」ですね。報いる身体。

次に、下位のアストラルと上位のアストラルの裏側のコーザル、この全体を行き来するのが、「法身」です。法律の「法」の身体です。

で、「本性身」は、もうコーザル世界しかないわけですね、これは。

ちょっとわかりづらいだろうから。もう一度まとめると、本性身イコール、コーザルの世界、純粋コーザルの世界と。そして、高位アストラル、これが報身と。それから低位アストラル、これが変化身。低位アストラルを欲六界の裏側だと考えてるわけですね。それから、アストラルの裏側のコーザル、これをすべて担当してるのが法身ということになります。

（麻原彰晃の世界　ＰＡＲＴ４『宗教にだまされるな！』より）



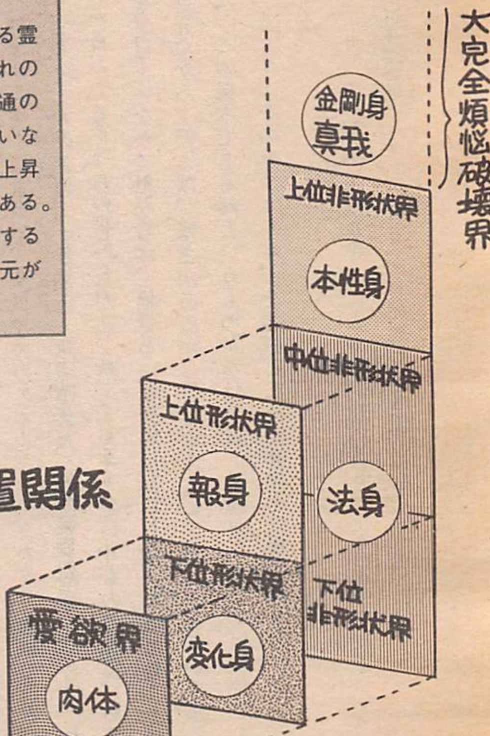
●第1章●
大宇宙の構造
これが真実の世界！

●チァクラとは？

チァクラとは人間の身体にある霊的センターで、だれでもそれぞれの場所に持っている。しかし、普通の人はそれが眠った状態で働いていない。修行によるクンダリニーの上昇とともに開発されていくものである。

チァクラは身体の下部に位置するものに比べ、上部へ行くほど次元が高くなっている。

三つの世界と五つの身体の位置関係



三グナがつくり上げた六つの世界

この宇宙の創造において、わたしたち真我と、そして自性というものしか存在していませんでした。いいですか。そして、自性、言い方を換えるならば、三グナだね、仏教的な言い方をするならば根本意識、この根本意識と、そして真我とのぶつかり合いによって、交わりによってね、三つのエネルギー状態が生じたわけだね。まあこれは、根本自性を三つにわけてもいいわけだけれども、それはどちらでもよろしい。要するに、それがラジャス、タマス、サットヴァという三つのエネルギーです。そして、その三つのエネルギーが、わたしたちの六つのチァクラをつくり上げたわけだ。それはいったい何だと。

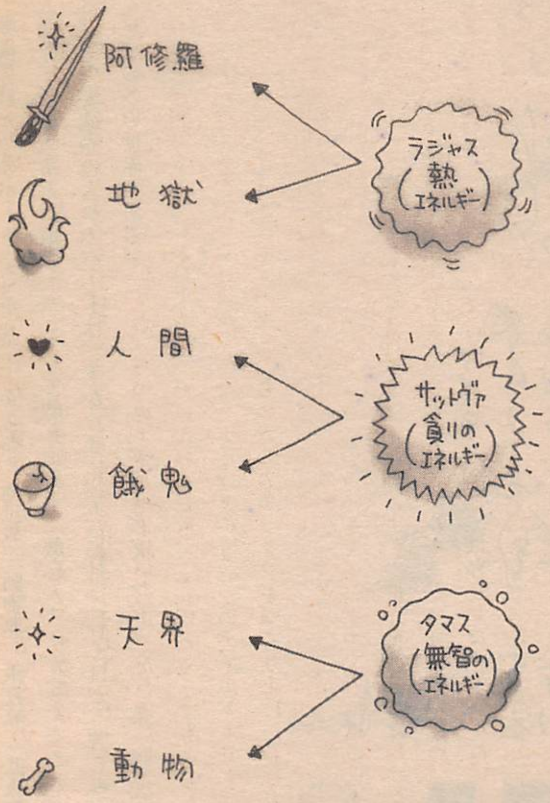
まず、熱エネルギーによって、ラジャスのエネルギーによって、地獄の世界、そして闘争を背景とした阿修羅（不飲酒天＝意識堕落天）の世界を創造したわけだね。よく考えてごらん。もし、わたしたちがね、熱エネルギーというものの恩恵、あるいは悪影響を受けていなかったならば、地獄という世界は存在しないわけだね。すべては相対の世界だから、例えば、寒さがあるから暑さがあると。暑さがあるから寒さがあるわけだ。この根本である熱というものがなければ、地獄という世界は構成されないんだよ。そして、その熱エネルギーを背景とした阿修羅の世界も構成されないということになる。

そして、サットヴァのエネルギーによって、ね、貪りのエネルギーによって、餓鬼の世界（低級霊域）、そして貪りから発展した人間の世界が創造されたと。

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



そして、タマスのエネルギーによって、無智のエネルギーによってね、動物の世界と、そして無智から生じる自己満足、天界（戯れ堕落天）が生じたと。

（八八年七月二十三日　東京本部にて）

天界や地獄は実在する！



愛欲界は六つのパートからなり、下から順に地獄界、動物界、餓鬼界（低級霊域）、人間界、意識堕落天（憤怒天）、そして戯れ堕落天（戯忘天）に分類することができる。この愛欲界の六つのパートは、下から順に、上に行けば行くほど、苦しみが少なく喜びの多い世界である。

（『ターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）

●第１章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！

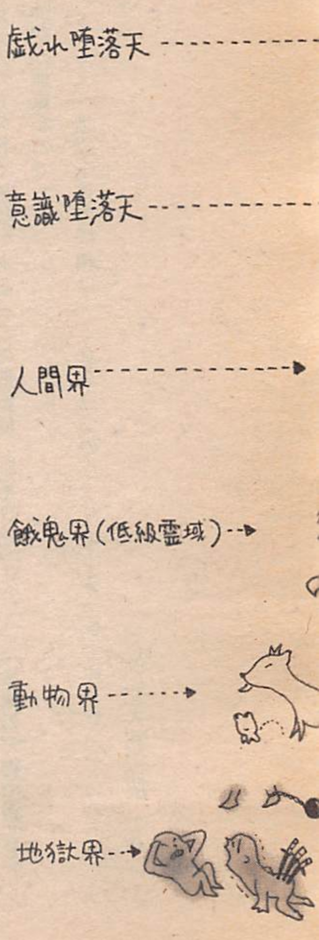
●オウム真理教の訳語と従来の仏教用語

「お経はありがたいものかもしれないけれども、何を言っているのかさっぱりわからない」――こういった声をよく耳にする。

確かに既存の経典は難解で、表面的な意味でさえ一読しただけではわからない場合が多い。ましてや、そこに込められている深遠な意味までを理解するというのは至難の技としかいいようがない。

その原因の一つに、インドの言葉を中国語に訳した言葉や、言葉の響きを単に音写しただけで、それだけでは何の意味も持たない漢字の羅列を経典に取り入れてしまっているということが挙げられる。例えば、「波羅蜜多」は「徹底、極厳、限界」という意味の「パーラーミター」というパーリ語の音写である。漢字を見ただけでは、決して「徹底、極厳、限界」という意味は出てこない。これでは、幸福の科学主宰、大川隆法氏が「蜜が多い」と勘違いしてしまうのも無理はないかもしれない。

そこでオウム真理教では、本来の意味を正確に表わしていない既成の仏教用語は用いず、パーリ語原典を忠実に翻訳し吟味した上で決定した訳語を使っている。従来の仏教用語との対比は、本書巻末の言語対比表をご覧いただきたい。



地獄の三要素——憎しみ・冷淡さ・殺生

地獄は正確に訳すと激苦地獄と表現され、これは大きく分けて三つのパートに分類することができる。

もちろん、これをより細分化することもできるが、それはこの論題と反するので、この三つの分類法にとどめておく。

第一番目の地獄は、邪悪心を背景とした地獄である。現代的な言葉を使うならば、激しい憎しみの集積の世界がこの世界であり、これが熱による激しい苦しみの世界として表現されている。

第二番目の地獄は、冷淡さの集積によって形成されている世界である寒冷地獄である。この寒冷地獄へ至る魂は、例えば堕胎を平気で行なう女性だとか、人を冷酷な策略によって陥れる人が行く地獄である。そして、この地獄では寒冷によって激苦を受けるのである。

第三番目は、激しい憎しみや冷淡さはないが、生計を立てるために多くの生き物を殺す人たちの行く地獄である。この地獄は、剣や針などといった金属の刃物で激苦を味わう地獄なのである。

そして、地獄全体の様相は、これら三つのヴァリエーションで成り立っているのである。

(『色別恋人判定法』より)

●第1章●
大宇宙の構造
これが真実の世界！



無智は動物界の入り口

動物界は、皆さんも知ってのとおり、皆さんの視覚的にとらえられる動物すべてだけではなく、この宇宙には多く動物が遍在している。その動物の特徴は、根本的無智であり、実際、動物の世界から高い世界へ転生する場合、それは積極的に高い世界へ転生することはできず、消極的な形でいいカルマを持っている者のみがそこから脱却することができるのである。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）

下から二番目の世界は、動物の世界である。わたしがサキャ神賢（釈迦牟尼）を偉大だと感じるのは、動物の世界へ転生すると言わず「動物としての発生」という言葉をサキャ神賢は使っていらっしゃるということである。

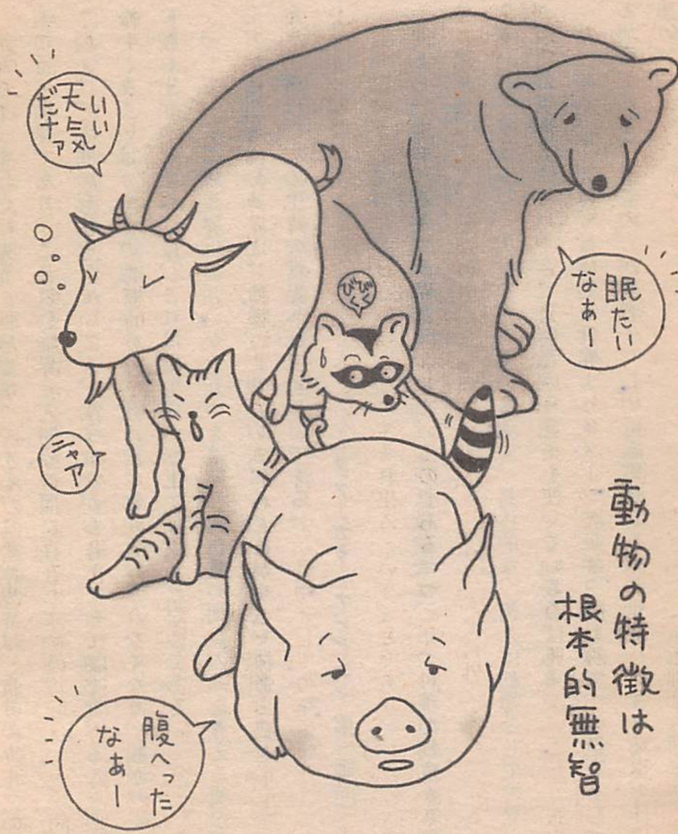
この動物としての発生は、動物として生まれ出るということであり、わざわざ魂が人間として生まれる人間世界と区別しているのである。つまり、同じこの愛欲界に生まれ出るにしても、動物の方がより粗雑であるということを言外に含めているのである。

現代の生物学においても、発生という言葉を使っているのは興味深いことである。

ところで、この動物としての発生へと至る心の機序は、根本的無智を背景としている。つまり、低級霊域にいた魂が、より具体的満足を得ようとしてこの動物の世界へと発生するのである。

（『色別恋人判定法』より）

●第１章●
大宇宙の構造
これが真実の世界！



危ない！
――独り占めは餓鬼へのパスポート

下から第三番目が餓鬼界（低級霊域）である。この餓鬼界は、貪りのカルマの強い魂の行く世界であり、これは動物界と人間界の間に存在している。

例えば、人間の形状をしていても、生まれながらにして全く物を食べることができない、あるいはガンその他にかかり、死ぬ前に物が食べられなくなり、腹がパンパンに腫れ上がって死ぬ等は、これは餓鬼界へ転生する現われなのである。

そして、この餓鬼界はお互いがお互いを遮断し、自分の利益のみを考える魂が存在している世界ということになる。だいたい人にものを施さないで独り占めし、そして生きた魂は、次の生この世界へ転生するのである。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）

下から三番目の世界が低級霊域である。この低級霊域は、二つの魂の構成から成り立っている。

第一のパターンは、愛欲を有している魂で、具体的な、例えば動物としての発生とか、人間世界とか、はっきりと特徴が固定されていない場合である。

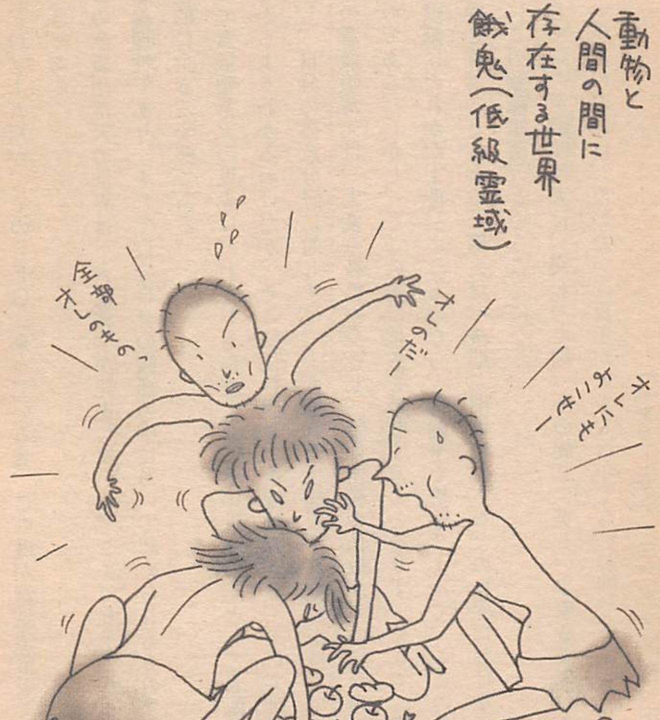
第二のパターンは、具体的な世界よりイメージの世界を好む魂で、愛欲を有している場合である。前者の方が後者よりこの低級霊域から他の世界へ転生するスピードは速い。

（『色別恋人判定法』より）

●第１章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



宇宙人は
どこからやって来る?

（愛欲界の）第五番目は意識堕落天（いしきだらくてん）である。この意識堕落天は、一般的に今現代ではUFOブームだが、このUFOに乗っている魂、この魂が意識堕落天であると考えるべきである。

この意識堕落天の世界は、大変科学が発達している。ここで要求されるものは、純粋な論理性であり、そして自分自身の観念の中において認められるものに対してのみ、積極的に生きる姿勢である。

この意識堕落天の世界は、わたしも何度となくその世界の王として君臨したことがあるからよくわかるわけだが、そこに住む魂は、否定的であり、そして排他的である。しかし、自分の得意分野に対しては、大変優れた才能をそれぞれが持っている。

今の意識堕落天は、大変宗教性が発達し、特に密教や仏教が大いに発達している世界なのである。しかし、ここの魂は他人を尊敬することをせず、そして、自分の担当する役割にだれかが干渉しようものなら、即闘争を挑む。よって、ここの世界を闘争の天界と呼ぶこともある。例えば、後期『旧約聖書』などの世界における天の描写は、まさにこの意識堕落天ということになる。

そしてこの意識堕落天は、交わった剣、その周りに炎という象徴で表わされている。

この世界の寿命は、だいたい二百年から千六百年ぐらいの間である。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）

STEP

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



天界は六段階

戯れ堕落天は、大きく分けて六つのパートに分けることができる。そして、下から順に、第一天界（四大王天）、第二天界（三十三天）、第三天界（支配流転双生児天）、第四天界（除冷淡天）、第五天界（創造満足天）、第六天界（為他神以神通創造欲望満足従事天）という形で描写されるわけである。

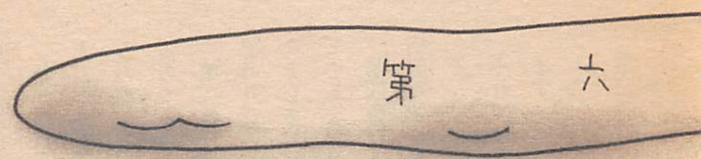
（『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』より）



●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！







第六天界	為他神以神通創造欲望満足従事天	
第五天界	創造満足天	
第四天界	除冷淡天	
第三天界	支配流転双生児天	
第二天界	三十三天	
第一天界	四大王天	(東)堅固王国天 (南)成長天 (西)統治変化自在天空天 (北)守庶民外傷天

●戯れ堕落天

第一天界
——四大王天は四方の守護神

第一天界は、四大王天（四天王衆天）ともいわれている。四大王天は、堅固王国天（持国天）、統治変化自在天空天（広目天）、成長天（増長天）、守庶民外傷天（毘沙門天、多聞天）の四つに分けることができる。

第一番目の堅固王国天、これはだいたいにおいて、神を信奉する国、一国一国に一人ずつの担当の神が存在している。その担当の神が、この堅固王国天の中に統括されるのである。堅固王国天は、天界に対して崇拝している国をしっかりと守る働きがあるのである。

第二番目が統治変化自在天空天である。ここの中心的神はナーガであり、つまり龍であり、これは天候その他を担当している。

そして、第三番目が成長天である。これは、花や木等の生長、生き物の成長等を司っている天界である。そして、この御使いは妖精たちである。

第四番目は、守庶民外傷天である。これは、天界を崇拝する魂が、ケガ、あるいは病気などにかからないように守護する天界である。

そして、これらの四つの神々を四大王といい、この天界を第一天界というのである。

それでは次に、この四大王天の侍神の話をしよう。

まず、堅固王国天の侍神はガンダッバである。ガンダッバは、鳥のような羽の衣をつけ、そして音楽を担当している。これが堅固王国天の侍神たちである。

第二番目の統治変化自在天空天の侍神はナーガである。ナーガは自在に変化し——

●第1章●
大宇宙の構造
これが真実の世界!

まあわたしはこの世界の王であったこともあるわけだが——このナーガにも侍神が存在している。ナーガの侍神は白龍、白い蛇たちなのである。白い蛇たちは、大きなナーガの木で戯れ、楽しんでいるのである。

そして、第三番目の成長天の侍神は、クンバンダと呼ばれる。このクンバンダは、現代でいうところの妖精であると考えてよろしい。

そして、第四番目の守庶民外傷天の侍神は、人食い鬼神（夜叉）である。この人食い鬼神は、悪業を積む魂を食べてしまうのである。

そして、この四大王天は、それぞれ東西南北を守護している。南の守護神が成長天であり、北の守護神が守庶民外傷天であり、西の守護神が統治変化自在天空天であり、東の守護神が堅固王国天なのである。 （『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）



第二天界——愛欲天界の王はだれ？

第二天界に属する三十三天（忉利天）は、中央の有能神（帝釈天）と、そして四方に八神ずつ配置し、つまり四×八＝三十二の神々の、計三十三の神々で構成されている。

そして、第一天界は、完全無欠山（須弥山＝スメール山）の裾野で生活し、第二天界は完全無欠山の頂上で生活しているのである。なぜ彼らの住んでいる山を完全無欠山というのかというと、この山は宇宙の創造のときでき、そして宇宙の破壊のとき完全に灰になるまで、決して壊れることがないから完全無欠山というのである。

ここで、有能神について少し説明しよう。有能神は、愛欲天界の王といわれている。彼は智慧に長け、そして耐える力が優れている。

この三十三天界と意識堕落天とは絶えず闘争を繰り返し、優劣を競い合っているのである。もちろん、若干徳の高いこの三十三天の方が意識堕落天に比べて勝率が高いことはいうまでもない。

（『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』より）



●意識堕落天は、なぜ不飲酒天というのか

「意識堕落天（阿修羅）」は別名「不飲酒天」ともいうが、それには、三十三天にまつわるこんなエピソードが伝わっている。

……三十二人の部下を引き連れて

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



いた人が、人間界において大いなる功徳を積み死んだ。この魂はその功徳によって、部下と共に有能神の世界へと転生した。それまで三十三天界を統治してきた有能神は、新しく三十三天に転生してきた三十三の魂を大いに喜んだ。そして、

「さあ、これから一緒にこのスメール山（完全無欠山）を支配しましょう。」

と言い、酒の席に招待した。

そのとき、彼らは策略を企てた。

――この宴の席で自分たちは酒を飲まないようにしよう。そして、みんなが酔っぱらったら、このスメール山の頂上から放り出してやろう――と。そして、人のいい有能神と三十二の神々は酔っぱらい、完全無欠山の麓（ふもと）、つまり、意識堕落天の世界まで放り出されてしまった……

それ以来、意識堕落天の世界に落とされた、もと有能神と三十二の神々は、酒を飲むまいと誓ったということである。

これが、意識堕落天＝不飲酒天の起源であると仏典には記されている（ただし、尊師はこのエピソードを後世の偽作かもしれないとおっしゃっている）。

第三天界——閻魔様は地獄にいない？

第三天界の神の名前は、支配流転双生児天（夜摩天）といわれている。この支配流転双生児天は人間界を含め、自分たちの下の世界、つまり有能神の世界までの生と死を司っているのである。

日本でいわれている閻魔大王は、この支配流転双生児天の「優れた支配流転双生児天子」なのである。彼らは、魂の善業と悪業の量を量り、そして次の生を決定するのである。

そして、彼らには獄卒がついている。獄卒とは何かというと、支配流転双生児天の意向により、地獄へ魂を連れて行ったり、あるいは動物の世界へ突き落としたりしている魂のことである。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）

ここでの生命体の体は、仏像的な体つきをしている。そして、例えば、手がもぎ取られたら手が生起し、足がもぎ取られたら足が生起し、頭がもぎ取られたら頭が生起する。つまり、肉体そのものが幻影であるということが、はっきりわかる天の世界である。

そして、この世界は外的条件によって死が存在しない世界である。ここでの死はただ一つ、カルマによってのみ死が成立する世界である。

（麻原彰晃の世界PART3『真実！六道輪廻』より）

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



第四天界
――徳だけでは転生できない天界

第四天界、ここは除冷淡天（兜率天）である。つまりこの世界へ転生するためには、煩悩は有していても、四無量心（聖慈愛＝慈・聖哀れみ＝悲・聖称賛＝喜・聖無頓着＝捨の四つを指す）が存在しなければ転生しないのである。そして、あの偉大な布施をサキャ神賢に対してなしたアナータピンディカ長者も、この除冷淡天へと転生したのである。第三天界の支配流転双生児天までは、冷淡さがあっても徳があれば転生することができた。しかし、いくら徳があっても冷淡さが存在していれば、この除冷淡天には転生しないのである。

一般的に仏教徒において、在家修行の場合、三十三天や、あるいは第一天界の四大王天に生まれ変わるか、この除冷淡天に生まれ変わることが多い。あまり、支配流転双生児天へは生まれ変わらない。なぜならば、仏教では裁きという言葉が存在しないからなのである。そして、この第三天界、第四天界は、完全無欠山の上に雲のような形でその空間が形成され、そこで魂は生活をしているのである。

（『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』より）



●アナータピンディカ長者の布施

サキャ神賢が雨期を過ごした場所として有名な祇園精舎。その広大な土地と華麗な建物を布施したのが、他でもないアナータピンディカ長者である。

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



この土地を手に入れるために、長者は、土地の持ち主であった国王と、土地を埋め尽くすだけの金貨と引き替えにするという約束をした。結局は、あと数枚の金貨が足りずにその約束は果たせなかったが、その心に感動した王から土地を譲り受けることができたという。何はともあれ、長者がその当時屈指の大金持ちであったことは間違いない。

さて、祇園精舎を布施した長者は、早朝、朝食後、そして夕方と、毎日布施の品を携えて奉仕に出向くようになった。日々莫大な布施と奉仕を続けるわけだから、蓄えは徐々に減っていく。しかし、長者は日々の日課と布施だけは欠かすことはなかった。

とうとう、破産寸前の危機が訪れた。しかし、ちょうどそのとき、それまでの布施の功徳によって、洪水で失った財産と、取り立てずにいた借金と、今までサキャ神賢の教団に布施したのと同等のお金が手に入ったということである。

何が起ころうとも布施と奉仕を続けたアナータピンディカ長者の姿は、在家修行者の帰依の手本ともいえるのではないだろうか。

第五・第六天界——悪魔の居場所は？

次は、第五天界である。ここは創造満足天（楽変化天、化楽天）と呼ばれ、自分の欲しいものを神秘的な力によって創造し、楽しむ天界である。ここは、煩悩を満足させるために修行する魂が行きやすい天界なのである。

次は、第六天界である。この第六天界の名称はやや長い。為他神以神通創造欲望満足従事天（他化自在天）である。この第六天界へ至るためには、自分自身の神秘的な力、いろいろな才能等を、グルやあるいは徳の高い魂に供養した者が行く世界である。この世界では、自分自身が欲したものを、自分にかしずいている神々が供養する形で生じてくる。

そして、ここまでが愛欲界である。そして、この愛欲界の王、彼こそはマーラ（破滅天）と呼ばれる。このマーラとは、日本語で訳すると悪魔である。つまり、このマーラはすべての神通を持ち、そして、だれもまねのできない大いなる欲望を持ち、それを満足させ、欲望を完成させることを魂に与えることによって、その魂たちを支配する魂なのである。そして、このマーラに打ち勝たない限り、神聖世界へ没入することはできないのである。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）



●創造満足天体験記

第五番目の天界、創造満足天は、その名のとおり創造することによって満足を得る天界である。聖者マンジュシュ

●第１章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



リー・ミトラ供養値魂（くようちこん）が、瞑想によってこの天界へ行ったときのことを語ってくださったので、ここでご紹介しよう。

「その世界では、わたしは定まった形を持たず、いろいろと変化することを楽しんでいました。初めは人間のような形をしていましたが、果たしてそれが原形かというと、そう断定することもできません。変身合体ロボみたいに、体のいろいろな部分が引っ込んだり、あるいは出てきたりして、様々な形態をとるのです。下半身が車になったり、飛行機になったり、ひどいときには体全体から女性の脚がいくつもバーッと生えたりすることもありました。また、変化するスピードも、ものすごく速いのです。アメーバがいろいろと動きますが、あれを極端に速くしたような感じでした。

その空間にはわたしだけでなくて、そういうものが他にもいるわけですが、見ていると、やっぱりみんな変化するのです。色も大きさも形もすべて変化して、その変わり身を楽しんでいました。

確かにこの創造満足天というのは大変楽しい世界ですが、相手をいかに幻惑するか、あるいは不思議な形に変身できるかを競っているような印象を受けました。」

これが天界だ！——スメール山を囲む世界

皆さんが行くであろう天界の話を少しいたしましょう。まず、天界の中央にはスメール山（完全無欠山）が存在しています。そして、その上には三十三天の神々と、その従者たちが住んでいます。そして、その麓には、第一天界の住人が住んでいます。

そして、そのスメール山を七つの山が取り囲んでいます。その七つの山の一つ一つのちょうど間には、湖が存在し、そこには龍や、あるいは憤怒天（意識堕落天）の神々が生活しています。…（略）…

このスメール山を守護している龍の湖、この山を一つ超え二つ超えしていくうちに、憤怒天の世界が存在しています。その憤怒天の世界は、まず湖があり、その湖に綺麗な蓮の花が咲いています。そしてその綺麗な蓮の花を通して、憤怒天の神々は出入りします。そしてその水の下には、大変美しい、そして素晴らしい、ちょうど三十三天と同じ喜びの世界が形成されています。

この憤怒天の山の外側に、また大きな湖があり、そして四つの大陸があり、その中の一つに、今わたしたちは生活しているわけです。

では、第三天界以上はどうなのかというと、第三天界以上は、要するに雲、雲の上の世界、そのように考えていただいたら結構だと思います。

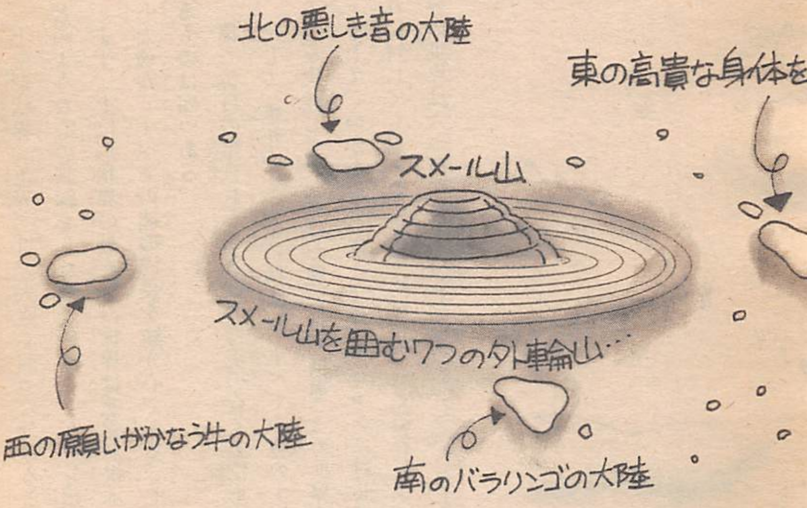
（『マハーヤーナ』NO44より）

S T E P

●第１章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



●仏典に記されている宇宙

『創世期経（起世因本経）』には、宇宙創造のプロセスから始まって、真我がどのようなプロセスで落下していったのか、そして、現在の宇宙の状態までが克明に描写されている。その内容は深遠で、ここでそのすべてを語り尽くすことはできない。興味のある方は『創世期』（麻原彰晃著：オウム出版）をご覧になっていただきたい。

ここでは、その一部、この宇宙の姿をイラストによってお伝えしよう。ちなみに、我々の住んでいる日本は、「北の悪しき音の大陸（クル州）」に属している。

上位形状界
——四無量心の世界

上位形状界（色界）は、大きく四つに分けることができる。その四つは、修行者がどのような心の訓練をしたかということが、分類の目安となるわけである。

まず、上位形状界の最も下の世界は慈愛が根本となる。この慈愛とは、煩悩を滅却した魂が、すべての魂の成長を願う心である。そして、この上位形状界の天界に属するものは四つある。

第二番目の聖哀れみを実践した魂の行く上位形状界の天の世界は三つある。

そして、嫉妬心を完全に捨断し、すべての魂のすべての善行に対して心から称賛できる心を実践し、成し遂げた魂の行く世界、この世界は上位形状界に四つ存在している。

そして、いかなるカルマのリアクションに対しても、つまり、いかなるカルマの流れに対しても、そのカルマに対して全く頓着しない心を有している魂の行く上位形状界の世界は六つ存在しているのである。（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）



●第１章●
大宇宙の構造
これが真実の世界！



清潔居住天	超越童子愛欲本質神天
	善現象愛欲神天
	善安楽愛欲神天
	超燃焼愛欲神天
	超空間愛欲神天
偉大果報愛欲本質神天	
美天	総美愛欲本質神天
	無量美愛欲神天
	少美愛欲神天
	美愛欲神天
光天	無量光愛欲神天
	少光愛欲神天
	光愛欲神天
神聖天	大神聖天
	神聖臣天
	神聖代議愛欲神天
	神聖衆愛欲神天

17形状界

無と空はどう違う？

日本の仏教など、無と空を混同しているようなところがあるが、それらは全く違う状態である。

無というのは、下位コーザル世界（下位非形状界）に入ってしまったときの状態で、功徳を積まずに、行のみを一生懸命やった場合などに起こる。そこは真っ暗で何もないところである。

それに対して、空の方はこの上位のコーザル世界に入った状態である。そこは、まさに光の海である。光しかないから空という表現がぴったりなのである。こちらは無などと比べものにならないほど、修行ステージが高いのである。

（『マハーヤーナ・スートラ』より）

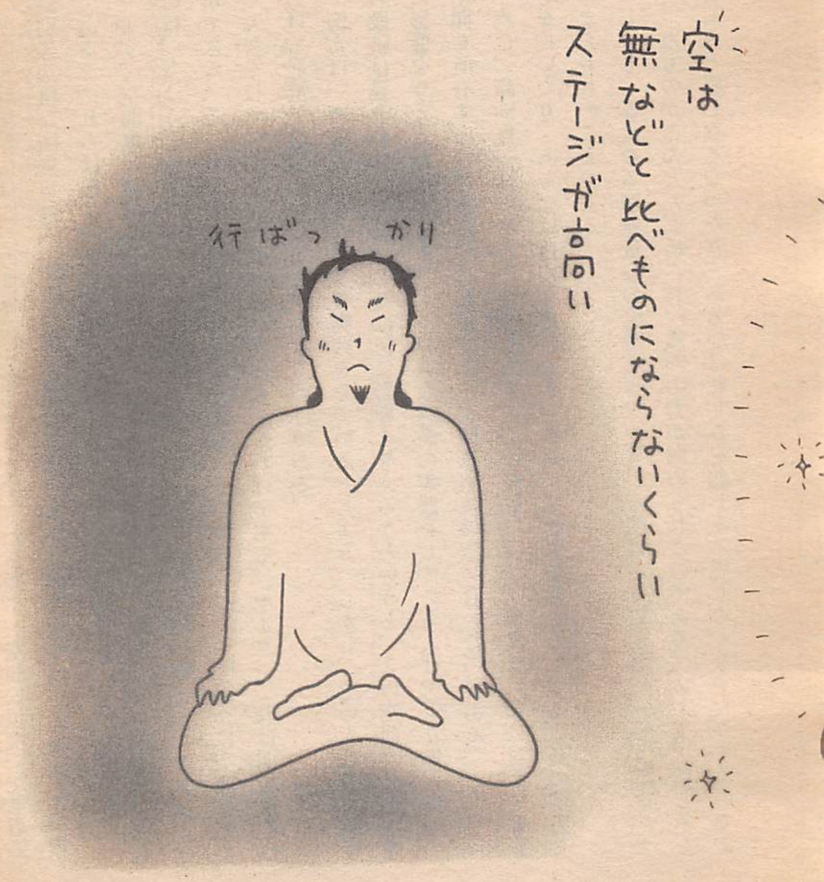


STEP

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



上位非形状界――心の実態の世界

上位非形状界には四つの世界が存在している。下から順に、空間無辺境（空無辺処）、識別無辺境（識無辺処）、無所有境（無所有処）、非認知非非認知境（非想非非想処）である。これらは順に、心の実態の世界ということができる。

まず、空間無辺境は心の広がりが無辺である世界である。わたしたちの心というものは、ちょうど空気のように自由に広がったり、あるいは自由に縮まったりすることができる。そして、その状態を体験した魂が、そのカルマによって徐々に空間を大きく大きくしていくと、この世界へと内在するわけである。つまり、これは四無量心における発展的段階ということができるわけである。

例えば、ある人たちが慈愛の実践をしているとしよう。しかし、その人たちの慈愛の段階は違うわけである。それは何に影響を与えるかというと、この空間、心の空間に影響を与えるわけである。より偉大な慈愛の実践をしている人は、より偉大な心の空間を所有するのである。これが、この空間無辺境の意味合いなのである。

次は、識別無辺境である。わたしたちの心は経験により、例えば対象に対して邪悪心を抱いたり、あるいは迷妄を抱いたり、あるいは愛著を抱いたりする。この愛著とはとらわれのことである。

しかし、偉大なる四無量心の実践を行なっている魂は、その愛著、迷妄、邪悪心といったものがどんどん弱められ、識別の力が弱められるのである。よって、苦しみを苦しみと感じなくなったり、あるいは悲しみを悲しみと感じなくなったりするのであ

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！

る。この識別無辺境はその終点ということができる。つまり、この境地に達した魂は完全に苦楽を捨断（しゃだん）しているのである。

第三番目の無所有境である。わたしたちは何かに対してとらわれて輪廻（りんね）を繰り返している。しかし、この無所有境に到達すると、とらわれ、外的とらわれというものが存在していないのである。しかし、存在はしていないが、過去の経験からまだこの魂は身（しん）・口（く）・意（い）の働きというものを完全に止め切っているわけではない。あくまでもこれは、サマディに入っているときのみ、その無所有境の境地へ入るのである。

第四番目の非認知非非認知境は、これはすべての対象に対していっさいの認知をしない状態ということができる。つまり、非認知とは認知にあらず、非非認知とは認知にあらざることがなしという意味なのである。つまり、どの世界へいってもこの状況になると一緒なのである。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）



●サマディとは

真我（しんが）をとらわれから解放していくプロセス、これをサマディという。一口にサマディといっても、そのステージは四段階に分かれている。その究極の段階では、呼吸は停止し、心臓も微拍動、あるいは停止してしまう。このとき、頭頂から化身（けしん）といわれる〝別の身体〟が抜け出し、様々な世界を体験しているのである（詳しくは、『麻原彰晃のザ・サマディ』『甦る聖者伝説』参照）。

認知経験滅尽——最高の世界はここ!!

上位非形状界の四つのステージを通過した後、最終の解脱へと至る。これが、認知経験滅尽（想受滅）、つまり大完全煩悩破壊界へと至ることなのである。

ここまでお読みになった読者は、あれっと思われるかもしれない。なぜマハー・ニルヴァーナとニルヴァーナが存在するのかと。そのとおりである。

それは、例えば認知というものは個人個人によって違う。小さな世界しか知らなければ、その認知も当然少ないわけだし、あるいは小さな経験しかできなければ当然経験も少ないわけである。しかし、その魂が自分の経験やあるいは認知を滅尽したとするならば、その魂はその瞬間大平安の境地へと至るであろう。これがニルヴァーナなのである。

ところが、ここに偉大なる魂がいて、その偉大なる魂の認知は全宇宙に及んでいる。偉大な魂の経験は全宇宙に及んでいると。この魂が完全にそれらの認知や経験を滅尽した場合どうだろうか。これは、偉大な認知、偉大な経験の滅尽ということになる。これが、マハー・ニルヴァーナなのである。

では、ここにより偉大な魂がいて、この偉大な魂は生、つまり生きることそのものを、完全なる真の智慧へ至る実践として生きていたとしよう。この魂の経験、この魂の認知は、すべて真智に到達するための認知ということになる。よって、大到達真智完全煩悩破壊界（マハー・ボーディ・ニルヴァーナ）へ到達するのである。つまり、これはニルヴァーナ、マハー・ニルヴァーナ、マハー・ボーディ・ニルヴァーナの違

●第1章●
大宇宙の構造
これが真実の世界！

いを説明したのである。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）



宇宙は何度も創造される

カルパとは、宇宙の創造から破壊、そして完全なる虚空までを表わす。これがカルパである。よって、例えば一カルパという場合、宇宙が創造され、破壊され、虚空に至るまでの期間だと考えていただきたい。

そして、このカルパは、再生期、継続期、還元期、そして虚空期の四つに分けることができるのである。

（『タターガタ・アビダンマ 第一誦品』より）

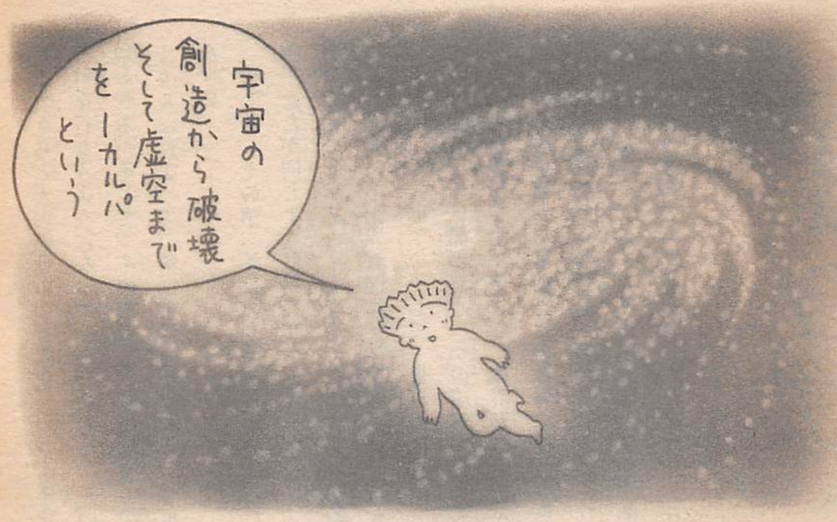
天界の寿命

非形状界		非認知非非認知境	計算不可能
		無所有境	6万カルパ
		識別無辺境	4万カルパ
		空間無辺境	2万カルパ
形状界		偉大果報愛欲本質神天&清潔居住天	500カルパ
		美天	4カルパ
		光天	2カルパ
		神聖天	1カルパ
愛欲天界	戯れ堕落天	為他神以神通創造欲望満足従事天	92億1600万年
		創造満足天	23億400万年
		除冷淡天	5億7600万年
		支配流転双生児天	1億4400万年
		三十三天	3600万年
		四大王天	900万年
	意識堕落天		200~1600年

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



●天界の寿命

宇宙の創造から破壊、その後の虚空の時期を合わせて一カルパ。本当に、気の遠くなるような長さだ。しかし、この一カルパよりも寿命が長く、しかも人間界よりもずっと素晴らしい世界があるといったら、だれでもその世界に生まれたいと考えるのではないだろうか。形状界の神聖天でちょうど一カルパ、非形状界の非認知非非認知境では、なんと計算不可能であるという。

しかし、仏教ではこの非認知非非認知境でさえ〝無常〟だと説く。どんなに長い時でも、必ず終わりは来るのだと。したがって、生死を超えた境地、つまり大完全煩悩破壊界へと至らねばならないとされているのである。

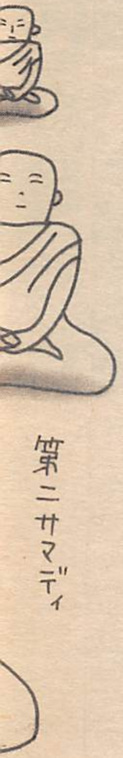
宇宙はこれからどうなる？

これからどんどん世の中は悪化し、その悪化があるピークを過ぎた後、残った魂は善行を行なうようになってくる。そして、その善行を行なう魂の中に、一人の聖者が現われる。そして、その聖者は、その最悪の状態から、すべての魂を引き上げたというカルマによって、第二番目のサマディ、つまり光音天（光天）に至るサマディを完成する。

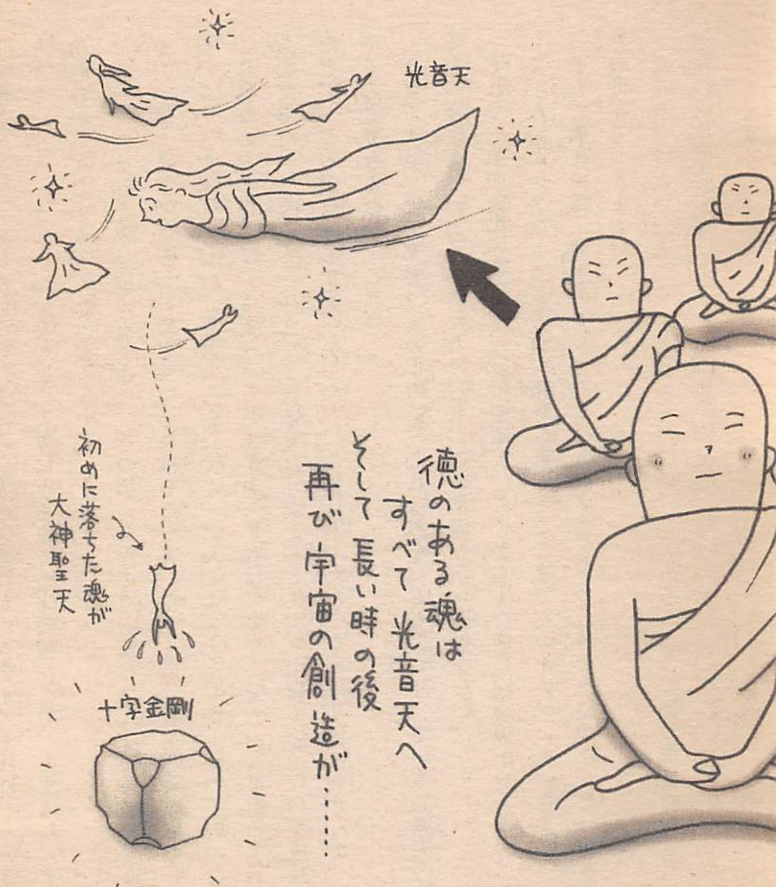
そして、その第二番目のサマディを完成した聖者が現われたとき、それを見てその弟子たちが同じように第二サマディを完成し、それを見た神々も同じように第二サマディを完成し、そのような形でこの人間界、動物界、餓鬼界、そして地獄界と壊れていくと。そして天界も壊れ、神聖天（梵天）も壊れ、徳のある魂はすべて光音天へと至ります。…（略）…そして、地獄の住人は、他の虚空へと移されます。

この光音天の世界から、一つの魂が、光音天へ至り生活するというカルマが切れ、神聖天へと落ちます。そして、神聖天の王、大神聖天（大梵天）となるわけです。この一つの魂の落ちる直前、この欲界には黄金色に輝く緑色の十字金剛が現われ、そして、くびき形の雲が現われ、その黄金色のくびき形の雲から、水元素がものすごい勢いで降ります。そして、その水元素の状態が熱エネルギーの分布により、地獄から神聖天までを形成することになるわけです。

（『マハーヤーナ』NO44より）



●第1章●
大宇宙の構造
これが真実の世界！



守護神はどこのヒト?

守護神っていうのはだいたい二人から三人の守護神がつきます。それはどういうことかというと、まず、だいたい第二天界に至るまでの守護神がつく、まずはね。——功徳のある人ですよ、これはあくまでも。

そして、それを乗り越えるときに、その第二天界まで応援した人は、必ず今度は足を引っ張ります。よろしいですか。それはそうだよ、だって自分も第二天界までしか行けないんだもん。自分が守護していたのが、どんどんステージが上がっていったら、これはだめだと思って引きずり下ろしますよ、これは。いや、そういう世界なんだ。あなた方だってそうでしょう。それまで自分がどんどん引き上げていったのが成長したと、ところが自分より偉くなったら、これは困ったと、やっぱり思いませんか。いやその世界なんだね、これは。

それで次は、第三天界っていうのは、これはあなた方もよく知っている閻魔天の世界ね、夜摩天といっているんだけども、この世界だから関係がない。

それで、第四天界からは、今度は兜率天、ここからまた別の守護神がつきます。そして、だいたいアストラルのね、報身の世界、ここまでだいたいついていきます。

そして最後には、前生のグル、あるいは最高霊といったらいいのかな、それが本性身の世界でつきます。

だからだいたい三人つくとお考えください。で、もちろんこの第二番目の兜率天レベルの人は邪魔しないよ。もう精神的に安定しているから。よろしいですか。だから、

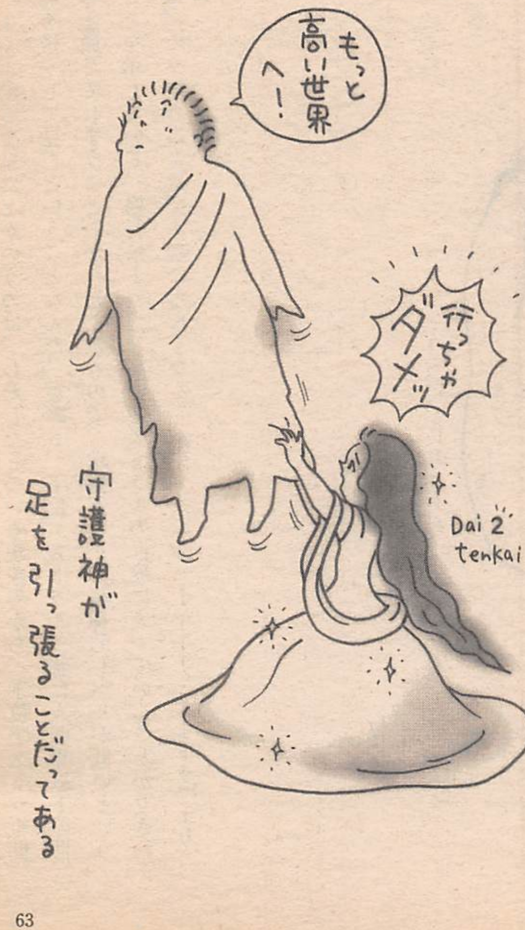
●第１章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！

どのへんのレベルをいっているかだね、問題は。だから現象的に満足したければ、やはりその足を引っ張る守護神にお願いするしかない。そうではなくて、高い世界に入って、最終的にマハーヤーナ（ニルヴァーナ）に到達しようと考えるんだったら、その守護神は切り捨てなければならない。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ４『宗教にだまされるな！』より）



幽霊はなぜ現われるのか

よく、幽霊を見たとかいうのは、わたしたちのいる現象界から、下位アストラル世界を透かして見たということなんだ。霊障も、下位アストラル、特に人間界以下の世界と通じてしまうことらから起こるもので、功徳がなく、精神的レベルが低いということを示している。修行によって、高いアストラルの世界に入っていくことができれば、こういうことは全く起こらなくなる。

（『マハーヤーナ・スートラ』より）

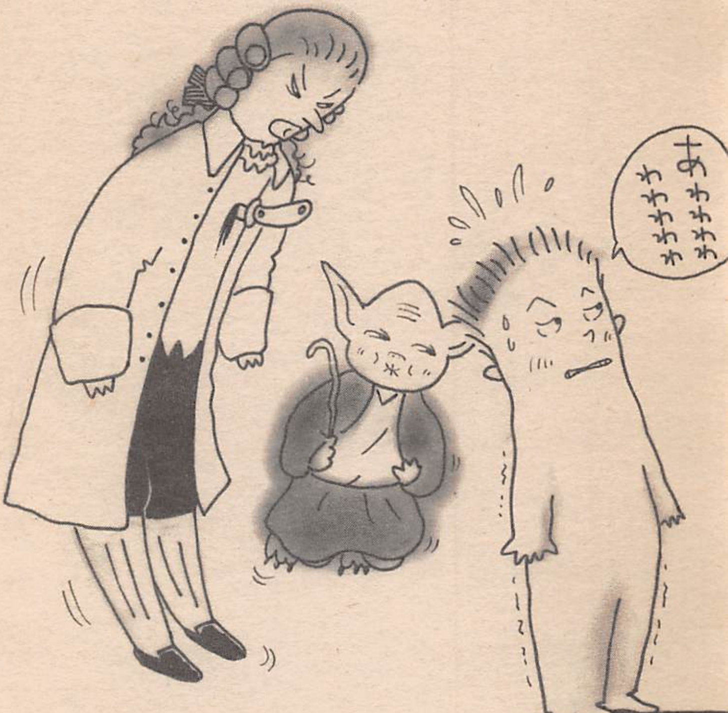


STEP

●第1章●

大宇宙の構造

これが真実の世界！



修行によって、高いアストラルの世界に入れ

第2章 カルマの法則

★過去・現在・未来を支配する絶対的真理

これがカルマの法則だ！

カルマとは、日本の一般的な意味合いでは悪い行為、悪い結果を指すが、実際はそうではない。カルマとは、いいも悪いもなく、因がその条件を満たした段階で結果を招くということを意味しているのである。例えば、善因は果報として喜びを受け、悪因は果報として苦しみを受ける。善因でも悪因でもないものは、善でも悪でもない果報を受ける。これがカルマであり、カルマの法則なのである。

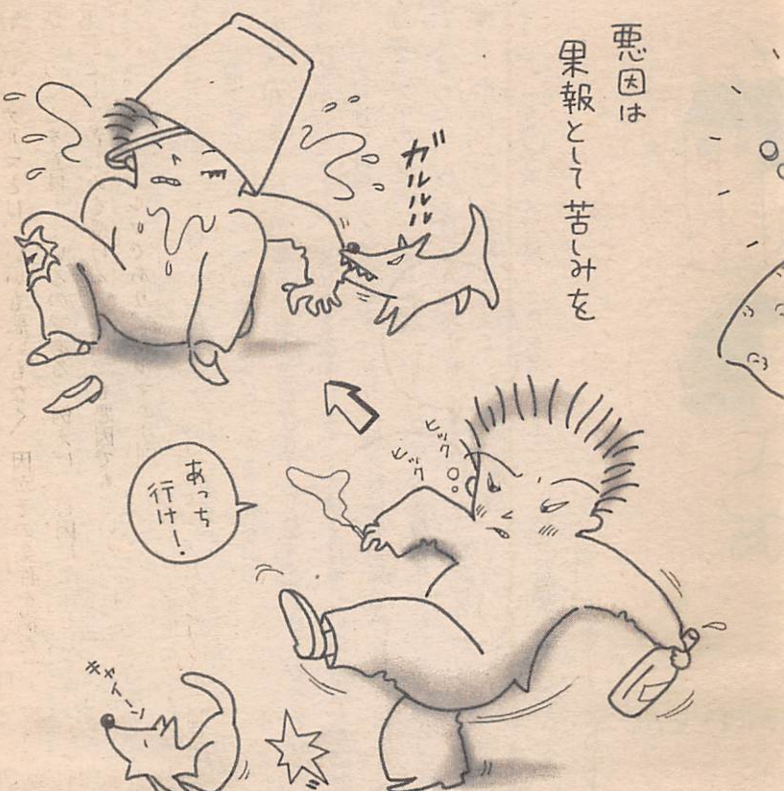
（『タターガタ・アビダンマ　第一誦品』より）



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



なぜ、わたしたちは生まれたときから不平等なのか？

君たちは、この日本に生まれ、そしていろいろな情報によって、自己というものを形成しているというふうに考えているのではないだろうか。しかし、実際すべての情報は、わたしたちの死とともに消え去ってしまう。なぜ、消え去ってしまうといえるかと。それは、前の生を覚えている人がいないということで、その証明ができるのではないかと。いや、もともと前生というものも、あるいは未来生というものも存在しないのではないかと。もしそうだとするならば、生まれたとき、前生の記憶がなくても当たり前ではないかと、そのように考えるかもしれない。

しかし、もしそうだとすると、個体差が存在するということは大変な矛盾である。個体差とは何だ。それは、生まれる瞬間において、例えば優しい母親のもとに生まれたり、例えば怖い母親のもとに生まれたり、例えば優しい兄弟のもとに生まれたり、例えば嫌な兄弟のもとに生まれたり、例えば豊かな家庭に生まれたり、例えば貧しい家庭に生まれたり、例えば身分の高い家に生まれたり、例えば身分の低い家に生まれたりする。そういうことを見るならば、この個体差とはいったい何だということになる。そして、真理の教えでは、それを業（カルマ）という言葉で表わしている。

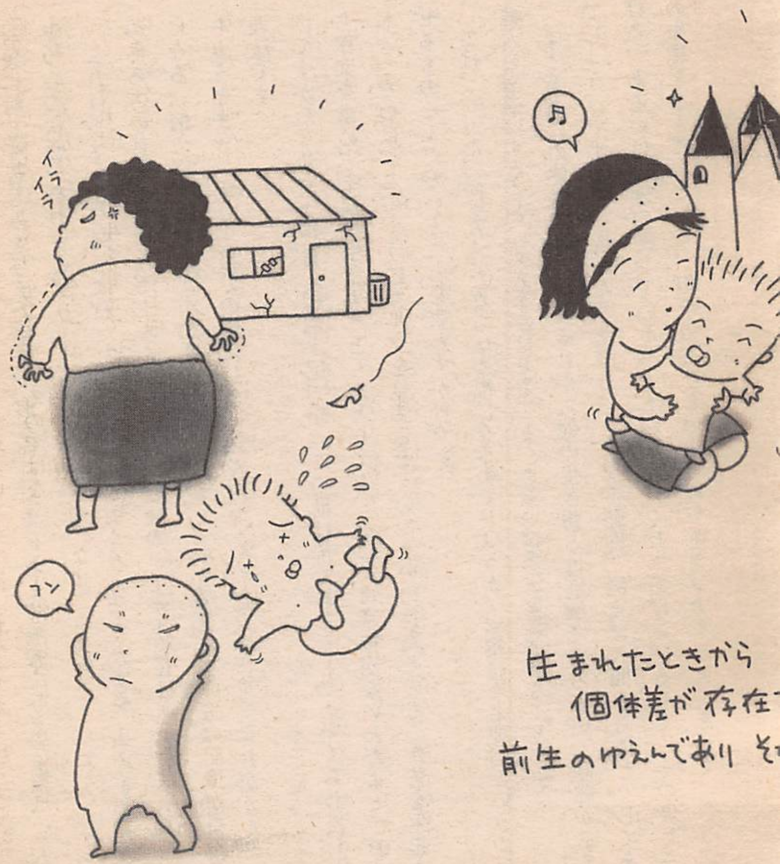
（『マハーヤーナ』NO35より）



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



苦しみを与えると、苦しみが返る

　それ（魚を釣ったことにより地獄へ落ちることがあるのはなぜかということ）は、対象に対して苦しみを与えた場合、あるいは対象に対して無智を与えた場合、その対象の心の状態がそのままプリントされるからです。

　これはちょうど、例えばわたしが信徒のある方をなぐったとする。そうすると信徒のある方の苦しみというボールを、わたしが自分のコーザルにキャッチしたのと同じになる。例えばあなた方が小動物を殺した場合、その小動物の苦しみというボールをちょうどキャッチし、自分の胸にしまい込んだのと同じ形になる。これがカルマの理法です。

　ですから、サキャ神賢（しんけん）（釈迦牟尼（しゃかむに））が「この世は苦である」と。「いくらわたしたちが楽を求め、幸福に生きようとしたとしても、そこには幸福がないんだよと」おっしゃったのは、このようにカルマを見切ると、いっさいの行為そのものが苦を生起させるものなんだということを表わすからです。

　では、いったい何をなしたならば幸福になるのでしょうか。幸福になる要因というのは、他人を幸福にすること、他人を喜ばせること、あるいは衆生を喜ばせることです。

　まず皆さんの感覚では、人とそれから他の生き物とは別個であるという認識があるでしょう。ですから、皆さんの理解おできになる範囲、例えば人間から優しくしてあげる、あるいは自分の飼っているペットから優しくしてあげる。そして、その優しさの布施をなすことにより、相手の喜びというものをキャッチすると。そして、その喜

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

びをたくさんたくさんたくさん蓄えると。そして、たくさんたくさん蓄えた人、その人が天へ至るわけです。

(麻原彰晃の世界PART15『絶対の幸福への道』より)



功徳を積めば、悪業を積めば

わたしたちが思いを発したこと、あるいはイメージ、あるいは行為というものは、すべてコーザル世界（非形状界）にあるデータ・バンクに、そのデータが収集されるわけだ。その順番というものは、現象界からアストラルの世界（形状界）を通ってコーザルの世界へ行く。

つまり、三面の透明な水があると考えよう、水がね。そして、行為というものは波なんだよ、波。わかるかな。例えば、殺生をしたとか、あるいはお布施をしたというと、そこに一つの波ができるんだ、波が。そうすると、ここに水面があって、これを波立たせると、必ず高い部分と低い部分が出てくる。いいですか。そうすると、例えば行為したことは必ず高いパートを作り上げるんだよ。そして、結果というものはその反動で、低いパートのデータが降りてくるわけだ。そして、この現象界に現われる。あるいは、アストラル世界、コーザル世界に現われるわけだね。…（中略）…

例えば、功徳を積めば波は高くなる。そして、悪業をなせば波は低くなる。例えば、もし楽しみというものが高い波だとするならば、その反動で必ず低い波が起きる。これは何かというと、普段、何もなさない状態、行為をしない状態というものはプレーンだということだよね。

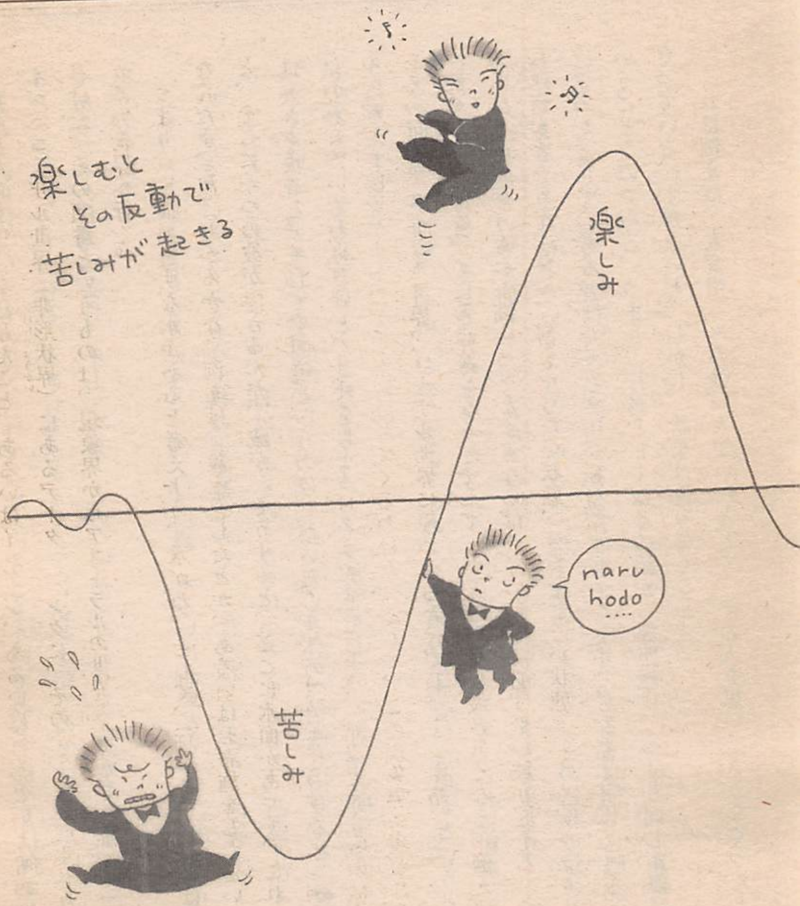
（麻原彰晃の世界PART5『絶対の真理』より）



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



同じことをしても、違う結果が返ってくるのは?

カルマの理法というものは、自作でないということなのである。自作とは何かというと、自分のなした行為、その行為がダイレクトに結果を招くのではないということである。その行為の条件、そして対象、この三つが絡み合って、初めて正確な結果を招くのである。

これはどういうことかというと、例えば凹鏡、あるいは凸鏡という鏡二枚を想像していただきたい。そしてもう一枚は平面鏡である。三枚だね、だから。凹鏡というのは、このような形をなしていて自分自身を映すならば小さく見えると。凸鏡というのは大きく映ると。そして平面鏡というのは、だいたい身体の二倍映し出せると一般的にいわれているわけだけど、これをちょっとインチキをして、一対一の関係というふうに考えましょう。

この凹鏡、平面鏡、凸鏡、この三者の、この三つの鏡の意味合いは何かというと、行為をなした対象、そして行為をなす者ということになる。そして、これに距離、あるいは光の度合い等が加わって、カルマの返りというものがはっきりと現われてくるわけである。それはどういうことかというと、例えば同じ人物が、その三枚の鏡の上に立ったとして、ある者は大きく映り、ある者は小さく映り、ある者は同じに映るということなのである。つまり、行為としてはその鏡から等距離に、つまり同じ距離に立っているにすぎないと。しかし、結果は違ってくると。

これは例えば、大変憎しみの強い人がいたとして、その人を思いっきりなぐったと。

●第2章●
カルマの法則
過去・現在・未来を支配する絶対的真理

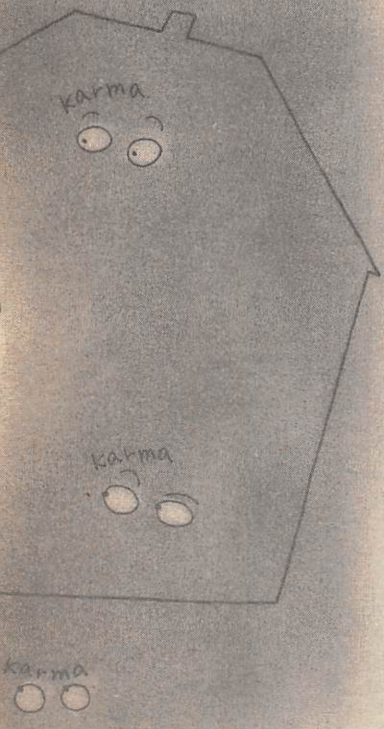
もう一人は無智のためにボーッとしてる人がいたとして、思いっきりなぐったと。もう一人は修行者でカルマを落とされたいと思っている人がいたとして、思いっきりなぐったと。この三者においては、三者のカルマの返り方があるということなのである。

例えば、第一の例の憎しみの強い人は、なぐったがために身のカルマだけではなくて、相手の憎しみという強烈なカルマを受けてしまう。第二のパターンは、なぐったがためにそのなぐられた、なぐったというカルマだけではなく相手の無智を受けることになる。第三のパターンは、なぐったがためになぐったという行為と同時に殴られた対象が、もし「ああ、カルマ落とされてありがとうございました」という思念をしたならば、それと同じように、なぐられることによって、自分自身の修行が進むというカルマを積むことになる。この三者は三様で違うということである。

これは、例えば善業である布施に対しても同じである。相手の四無量心が広大であれば、その対象に対して布施をなせば、当然それは広大な形で返ってくる。あるいは相手が大変商売のうまい人であれば、当然商売がうまくなるという形で返ってくる。相手が智性が高ければ、当然智性が高いという形で返ってくる。相手が解脱に向かっていれば、当然解脱に向かうという形で向かってくる。しかし、なした布施、この布施の行為は同じであるということである。

（『マハーヤーナ・スートラPART2』より）

だれもカルマから逃れられない



わたしたちが、ね、自分の無明（むみょう）（非神秘力（ひしんぴりょく））の状態から覚めるためには、この現象界において、カルマというものはきちんと存在してるんだよと。そして、もしわたしたちが、そのカルマというものからね、逃れようとしても、逃れることはできないんだよと。ね。たとえ、瞬間的に逃れることができたとしても、それはちょうど銀行に預金をするように、ね、銀行から借りるように、お金をね——少しずつ少しずつ膨らんでいく。そしてわたしたちが、返すことのできないぐらい大きな借りとなる、ね。

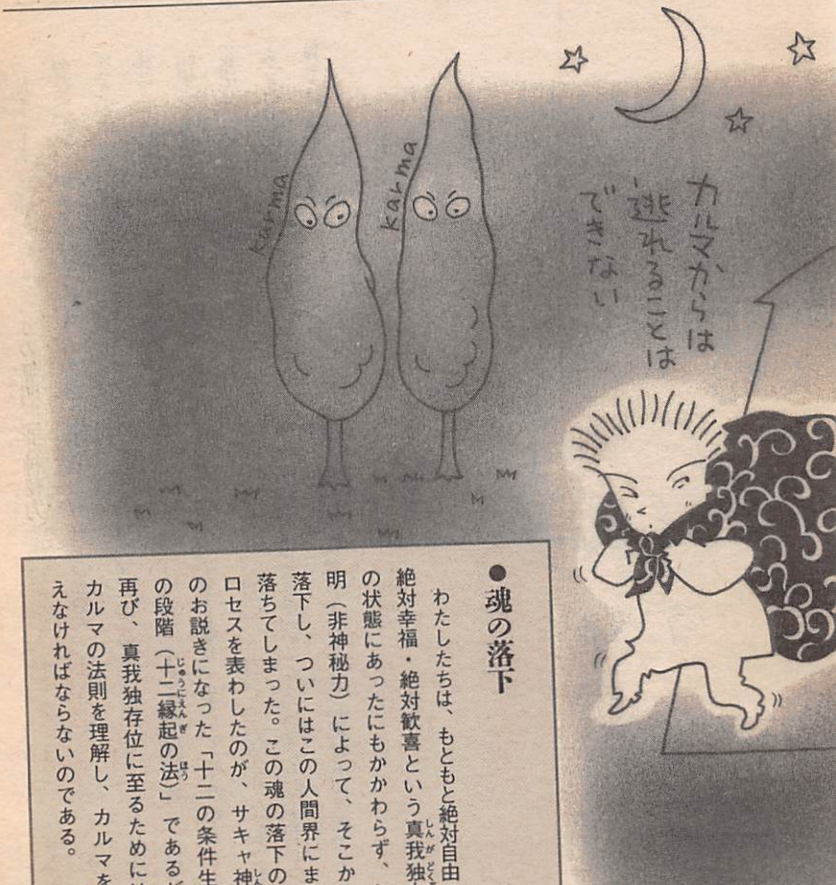
もし、善行を少しずつ少しずつ積んでいて、喜びを求めなければ、それは大きな蓄えとなる。もし悪業を少しずつ少しずつなして、ね、その悪業の返りというものを否定するならば、そして楽しみを求めようとするならば、それは大きな大きな借りとなる。

（八九年一月十八日　富士山総本部道場にて）

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



●魂の落下

わたしたちは、もともと絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜という真我独存（しんがどくぞん）の状態にあったにもかかわらず、無明（非神秘力）によって、そこから落下し、ついにはこの人間界にまで落ちてしまった。この魂の落下のプロセスを表わしたのが、サキャ神賢（しんけん）のお説きになった「十二の条件生起の段階（十二縁起（じゅうにえんぎ）の法（ほう））」であるが、再び、真我独存位に至るためには、カルマの法則を理解し、カルマを超えなければならないのである。

カルマが早く返る人、遅く返る人

凡夫(※ぼんぷ)であればあるほど、そのカルマの返りは遅いということがいえる。なぜならば、あなた方も知ってのとおり、人間を構成する三つの要素、ラジャス、タマス、サットヴァの中で、無智を構成しているもの、これはタマスである。そして、これは現象を遅らせる働きがある。それは知っているね。どうですか。そして、修行者になり、特にザンゲの瞑想その他を行なうことにより、現象が早く返り、そしてそのカルマの返る比というものは拡大されず、一対一、あるいは一対〇・一といったような形で返るようになる。それもわかるね。早く返れば返るほど、そのカルマというものは早く清算される。

（麻原彰晃の世界PART5『絶対の真理』より）



※凡夫＝仏教用語で、修行をしていない一般の人のこと。

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理





●カルマの返りが早い修行者

オウム真理教の修行者は、カルマが返るのが一般の人に比べて非常に早い。これはまぎれもなく、ザンゲなどの修行によって、タマスのエネルギーが弱まり、サットヴァのエネルギーが強まっているということである。

彼らは、修行によって、カルマの法則を実感し、少しずつそのカルマを乗り越えていく。その多彩な体験談については、後ほどご紹介したい。

カルマは早く返る方がいい！

皆さんは、布施の実践を行なうことによって、即座に幸福になると考えるかもしれない。しかし、それはカルマの理法というものを知らない、無智なるがゆえの考えである。例えば、今日なしたことが今日返るかと。もちろん、今日なしたことが今日返る人もいる。あるいは、今日なしたことが今日返らない人もいる。

この差は何かというと、それを現象化するスピード、つまりこれをヨーガの言葉を使うならば、タマスだとかサットヴァだとかいう言葉を使っているが、要するにカルマを現わすスピードを速める特質のある魂であるか、あるいは遅らせる特質のある魂であるかによって違ってくる。そして、もちろん速める方がステージは高いといわれている。

それはちょうどこのようなことである。例えば、ここにいらっしゃる方々のある程度の人たちは、多くの殺生・偸盗・邪淫……、これを一つずつ説明すると、生き物を殺す、盗む、そして淫らな性的行為を行なう。嘘をつく、そして酒を飲むといったような、在家の修行者がなさなければならない五つの戒めというものを守らないで生活しているはずである。

そして、そのカルマというものは蓄積され、教学をし、瞑想し、ザンゲをしている人はそれが即座に返ってくる。即座に返るということはどういうことかというと、例えば殺生のカルマの顕現である痛み、あるいはケガといったような形で返る。あるいは、偸盗のカルマは、盗まれる、あるいは貧しくなるといった形で返る。邪淫のカル

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

マについては、対人関係が悪くなるといった形で返る。嘘については、信頼を失うといった形で返る。そして、酒については、突飛な失敗を行なうといった形で返ると。こういう現象が返るはずである。

そして、返ったならば、そのときその人は後悔する。わたしはオウム真理教なんかやらなければよかったと。何でわたしはオウム真理教をやったんだろうかと。他の人は、悪いことをしても返らないでいると。そのとおりである。他の人たちは、殺生をなし、偸盗をなし、邪淫をなし、妄語をなし、そして酒を食らったとしても、そのカルマは返らない。いや、正確にいうならば、彼らの借金の許容量は大変大きいということができる。

これはちょうど、このような比喩で表現することができる。ここにAという者とBという者がいて、Aという者は一億円まで借金することができると。Bという者は百万円しか借金できないと。そうすると、この一億円借金できる者は、ひたすら借金をし続ける。百万円も同じである。

ところが百万円しか借金できない者は、百万円以上借りられなくなってくる。そして、借りられないということはどういうことかというと、その借金が返ってきたとき、苦しまなければならない。

ところが、一億円借金できる人は、一億円まではひたすら借りることができる。そして、一億一円になったときに、借金を返さなければならない。

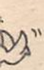
ところが、借金を多くできるということは、その人のポテンシャルが大きいわけではなくて、その人が徳がないからそうなっているわけであるから、当然、返すときに苦戦しなければならない。

前者（A）は、来世三悪趣（さんあくしゅ）（地獄・動物・餓鬼）に生まれ変わる魂である。後者（B）は現世果報、現世によって苦しまなければならないカルマの持ち主であるということができる。

麻原、お前の言っていることはおかしいのではないかと。なぜそう言えるんだ。例えば、一つの証明として、オウム真理教の修行をやっている人と、それから凡夫（ぼんぶ）とでは、苦に対する許容量が違う。苦に対する許容量が違うとは何かというと、先程言ったとおり、絶えず借金を返し続けて、あるいは、信徒の中でも徳のある人は徳を積んで、逆にプラスの預金の状態にあるから、苦しみの形成されているこの五蘊（ごうん）の状態が、苦しみではなく楽の方に傾いてきている。

ということは、この修行を始めて悪い現象が起きるということは、マイナスではないんだということである。いや、修行の大原則であるザンゲと供養という二大の柱の中の、ザンゲを行なうことによって出てくるこの苦しみというのは、わたしたちの内側に潜んでいる、来世わたしたちを悪趣へと導く、悪趣へと転生させるカルマを切るためには、出してしまわなければならないことである。

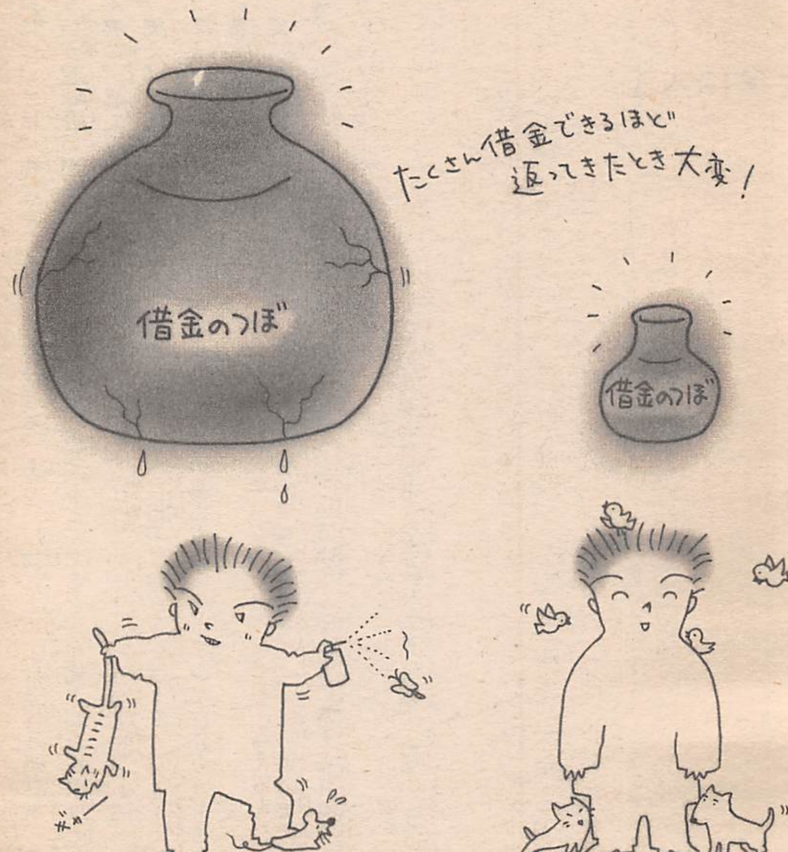
（麻原彰晃の世界PART5『絶対の真理』より）



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



布施をすると、喜びが返ってくる

仏教の基本である布施、そして持戒について、これを検討してみましょう。まず財施については、物によって他人を喜ばせる、あるいは物によって自分自身が喜ぶ、こういう意味合いがあります。ここに財を布施すると。すると、布施された対象はそれを喜ぶ。喜んだというそのボールが、自分のコーザルのデータとして蓄積される。

例えば、安心施はどうかというと、同じように相手に安らぎを与える。安らぎを与えると、安らぎを与えられた対象は喜び、その喜んだというボールが自分のコーザルに蓄えられる。

では真理施（法施）はどうか。迷妄に迷っている魂に真理を説く。そうするとその魂が、ハッと気づく。気づいて、そして喜んだというボールが自分に蓄えられる。こういうメリットがあるわけです。

（麻原彰晃の世界PART15『絶対幸福への道』より）

ータに入る・・・・・！

S T E P

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



同じ財施でも効果は違う

財施は、いったいどういう力があるんだと。財施には、三つの、ね、財施としての意味合いがある。弱い順にいくならば、まず、学校とか、あるいは保育園とか、あるいは病院とかいうものに布施をする。つまり、社会的な事業に布施をする場合である。

これは、現代においては真理の実践者などいないからね。例えば政治家だって、今の社会問題になっているリクルートでわかるとおり、ほとんどのその大物政治家はそれに巻き込まれている、ね。だから、その布施というものはそのオーナーの懐に入るか、あるいはその途中の経費として消えていってしまう。そして、例えば病院建設に役立ったとしても、それは真理のための、真理を実践するための病院ではないから、結局利益を生むためのファンデーションになってしまう。

よって、この功徳というものは、その布施をした人が未来において、例えば病院の院長になるとか、あるいは学校の校長になるときにのみ、役に立つ布施である。

では次に、現代ではね、アフリカ、あるいは東南アジアといった貧しい国々があると。そこで食べられないような人たちに布施をする場合は、いったいどういう効果があるんだ。

日本の仏典はすごく曖昧だから、ここらへんを同じようにね、どんなものに対する布施も同じように扱っているけど、実際そうではない。もし、外国の貧しい人に布施をするならば、あなた方がね、本当に未来において食うや食わずで困ったとき、必ずだれかが、あなた方のおなかを満足させるような、手の差し伸べ方をしてくれるだ

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

ろう。

そして、一番目の布施の功徳に比べたら、二番目の布施は百倍、つまり一番目の布施を一とするならば、二番目の布施は百のね、効果があるといわれている。

そして、第三番目の布施は、真理に対する布施である。これは大変難しい。真理というのは、「六つの極限（六波羅蜜）」を説き、それから実際に実践している教え、あるいは団体を指す。あるいは、「聖なる八支の道（八正道）」を正しく行じている団体を指す。このようなものに対する布施は、真理の流布に使われる。そして、多くの人の煩悩を除去するために、あるいは高い霊性に導くための布施であるから、これは最高の、財施の中でも布施といわれている。

そしてこれは、二番目の布施の百倍の効果があるといわれている。ということは、初めの布施から比べるならば、一万の布施ということになるわけだ。

では、この恩恵とは、いったいどのような恩恵があるのだろうか。それは、あなた方をいろいろな角度からね、未来において真理に導いてくれる、そういう恩恵がある。そして、あなた方が人生において困ったとき、インスピレーションを与えたり、あるいは、人の口を借りて正しい示唆を与えてくれるような結果を招かれる。よって、これが財施の中の最も大きな布施ということになる。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ16『麻原彰晃　方便品』より）

地獄へ落ちる恐怖の布施

じゃあ例えば、正しくないものに布施をしたらどうなるんだということになってくるね。もし、あなた方が無智で正しくないものに布施した場合、二つのラインで返ってこよう。それは真理というものがなくて、もともとなくてだよ、その組織、あるいは教祖みたいなものが真理に近ければ、あなた方も真理に近い流れに入ることができよう。もし、それがあなた方のエゴを満足させてくれるもので、あなた方の魂を下降させるような組織に布施をしたならば、あなた方は地獄に落ちよう。これだけ布施という意味合いは怖い。いいですか、これが布施功徳、あるいは布施の恐怖だ。

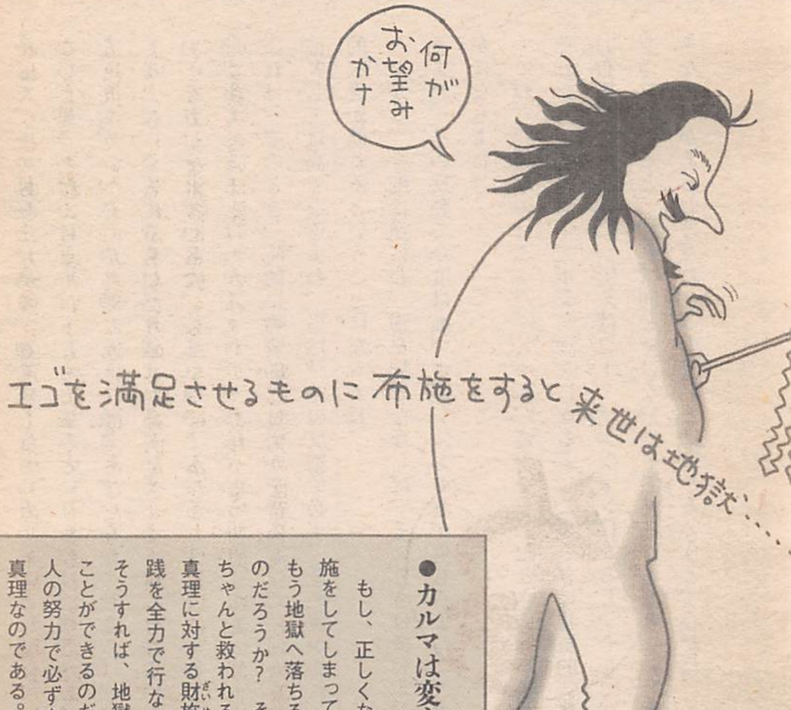
（麻原彰晃の世界PART8『仏教真理 六波羅蜜』より）



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



●カルマは変えられる

もし、正しくないものにすでに布施をしてしまっていたらどうするか？　もう地獄へ落ちるのを待つしかないのだろうか？　そんなことはない。ちゃんと救われる道は残されている。真理に対する財施（ざいせ）を含めだ真理の実践を全力で行なえばいいのである。そうすれば、地獄ではなく天へ至ることができるのだ。カルマは、その人の努力で必ず変わる——これが、真理なのである。

カルマは波のように返ってくる

で、その理論（p74波の理論）で、次の不偸盗（ふちゅうとう）、盗んではいけないよということ、そして、その延長上にある、物を施しなさいということについて、考えなければならないと思うわけだけども、もともと盗みというものは、執着から来ている。もし、わたしたちがいっさいのものに対して執着していなかったならば、盗む必要はない。

そして、盗んだならば必ず盗まれる。いや、そんなことはないと考えるかもしれない。それはそれでOKだ。盗まれないとしても、少なくとも物質的には恵まれない状態が出てくることはわかるよね。それは、どういうことかというと、盗みをなした、これは、そのとき一時的に物質的には何かを得るわけだ。何かを得るということは、波としては高くなるよね、当然。その反動で必ず、低い波が訪れる。そのとき、物質的欠乏が訪れるということになるよね。

だから、今度は逆にね、物を施したならば、そのときは低いポジションの波が起きるよね。その反動で今度は高いポジションの波が生じるよね。このときに物質的に豊かになるよね。

では、問題なのはここだ。じゃあ、盗みをなしたときに、ハイ・ポジションになり、それから、次はロー・ポジションになると。このときは物質的に豊かではない。逆に、お布施をしたときに、例えばロー・ポジションになると。そして、その後ハイ・ポジションになると。これは同じではないかと考えるかもしれないけど、この二つには大きな違いがあるわけだね。その違いとは何かというと、心だね。

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

同じように、一方が豊か、一方が貧しいと。一方が貧しい、一方が豊かな状態に現象的にはなるわけだけども、心の働きはどうだろうか。いいことをなしたとき、人の心というものは、ね、うれしくなる。悪いことをなしたとき、人の心というものは暗くなる。つまり、たとえ条件としては、物質的には同じだとしても、心は違うわけだね。

そしてわたしたちには意志、意識、それからこの現象界の幸福、つまり意志、意識の奥にある魂の幸福と、三つあるわけだけど、このグロス・ワールドの、現象界の、例えば物質的なものが同じだとしても、意志、意識の存在しているアストラル・ワールド、あるいはコーザル・ワールドの魂の状態はこの二つ、ね、この二つというのは、盗みをなしたときの豊かさ、あるいはお布施をして、その後返ってくる豊かさというものはね、違うわけだ。そうすると、コーザル、アストラル、現象界という、三つを足し合わせたときに、どちらが幸福といえるだろうか。そうすると、この持戒の二番目、盗むなかれと、その延長上にある施しなさいという意味がよくわかると思う。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ５『絶対の真理』より）

苦しみを取り除く安心施

安心施にも三つのステージがあるよ。その最も素晴らしい安心施というのは、あなた方が苦しんでいるときに、それでも周りの人の苦しみを聞いてあげることだね。さらにもう一つ、限界まで他人の悩みを聞いて、他人の苦しみを取ってあげる。これは最高の安心施だ。

次の安心施はね、真理の流れに入っていて、他の人よりも苦しみは少ないけれど、少し苦しんでいる。そのときに、相手の苦しみを取ってあげる安心施だね。

そして、この二つに比べると最も効果がないのは、自分が楽しんでいるときに他人の苦しみを取ってあげる安心施だ。これは順次ね、あなた方に対して強いリアクションがあるだろう。

第一の安心施、これを実践している人は、今生でも来世でも、あなた方が本当に苦しんでいるときにね、あなた方の苦しみを取ってくれる人が現われよう。第二の場合は、あなた方がちょっと苦しんでいるときに、そういう人が現われよう。第三はどうでもいいときに現われる。これはちょっと困るね。あなた方の苦がないときに、苦しみを取ってあげましょうと現われてもしょうがないからな、これは。しかし、そういう意味合いがあるわけだ。

まあ、この第三番目というのは安心しなさい。実際はあり得ないから。なぜないんだ。解脱をするまで苦は存在しているからね。だから成就者がいくら周りの人の苦しみを取ってあげて安心施をやったとしても、全然功徳にならないわけだ。成就して苦

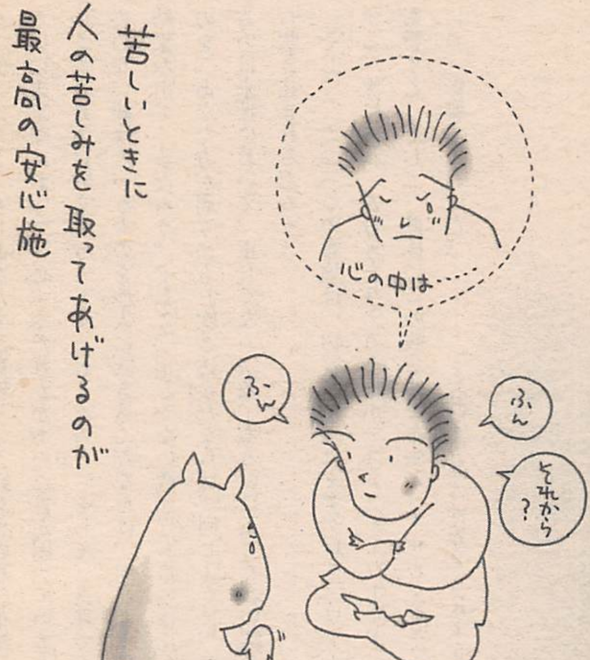
●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

がないわけだからな、これは。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ５『絶対の真理』より）



最高の法施から最悪の法施まで

法施というのは何かというと、法というのはつまり観念という意味だね。この観念を、例えばだよ、もしあなた方が真理という観念を周りに布教したならば、今生、あるいは未来際において、必ずやだれかがあなた方が困っているときに、真理というものをあなた方に教えようとしてくれるだろう。そして、真理でもないけどもそれほど害のない観念というものを他人に吹き込んだならば、同じように未来際において同じ結果が出てくるだろう。そして、正しくない観念、あるいは正しくない宗教というものを、あなた方が周りにもし吹き込んだならば、同じように、ね、今生において、あるいは来世において、正しくない宗教、あるいは正しくない観念というものを周りから吹き込まれるだろう。

そして、この三つの布施は、物質の布施はまずグロス・ワールド（現象界）に影響する。次に、ね、安らぎを与える布施がアストラル・ワールド（アストラル世界）に影響する。そして、最後にこの観念的な布施がコーザル・ワールド（コーザル世界）にね、影響するわけだ。

（麻原彰晃の世界PART5『絶対の真理』より）



S T E P

● 第2章 ●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



これが十戒だ！

ヨーガにしろ、仏教にしろそうだけれども、十の戒め、そのソースとなっているものに、三つのカルマの浄化というものがあります。

それは何かというと、まず身のカルマを浄化するために生き物を殺してはいけないよ（不殺生）。盗みを働いてはいけないよ（不偸盗）。邪淫、つまり愛のないセックスをしてはいけないよ（不邪淫）。

口を浄化するための行為として、嘘をついてはいけないよ（不妄語）。必要のない言葉をしゃべってはいけないよ（不綺語）。悪口を言ってはいけないよ（不悪口）。人を仲たがいさせるような言葉を吐いてはいけないよ（不両舌）と、四つの戒め。

そして、心を浄化する訓練として、貪りを離れなさいよ（不慳貪）。怒りを超越しなさいよ（不瞋恚）。そして真理を見極めなさいよ、真理を否定してはいけないよ（不邪見）という、心の三つの戒があります。

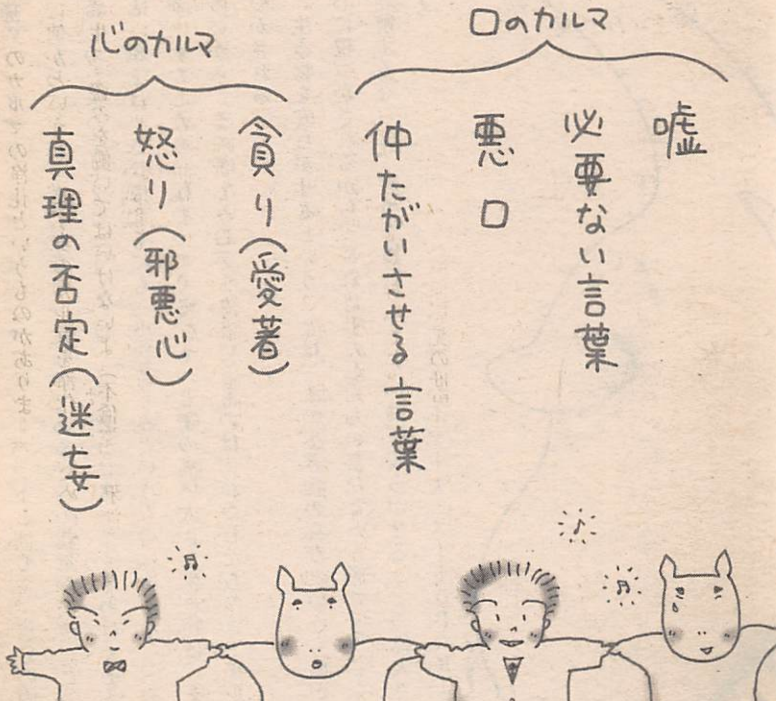
（麻原彰晃の世界PART15『絶対幸福への道』より）



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



殺生を離れ、すべての生き物を安らがせる

例えば、わたしたちが殺生をする。例えば、相手に苦痛を与える。苦痛を与えると、その苦痛のヴァイブレーションは、シャクティーパットと同じで、自分の内側に内在される。ということは、苦の総量は一定なのである。苦の総量が一定だということは、相手を苦しめたそのデータというものは、必ず自分に入ってくるわけである。

すると、例えば小さな虫たちにも、当然苦しみというものはあるから、その苦しみの総量が、わたしたちに伝わってくる。もっと徳の高い大きな生き物は、その苦しみの量が多いから、その苦しみのデータというものは、わたしたちのコーザルにしっかりと根づかされる。

逆に、生き物を安らがせるということは、その生き物の喜びというものが、わたしたちの心に根づかされるから、これはわたしたちの喜びという形で返ってくる。この理法を理解するならば、殺生を離れ、すべての魂を安らがせることの偉大さに気づくであろう。

（『マハーヤーナ・スートラPART2』より）

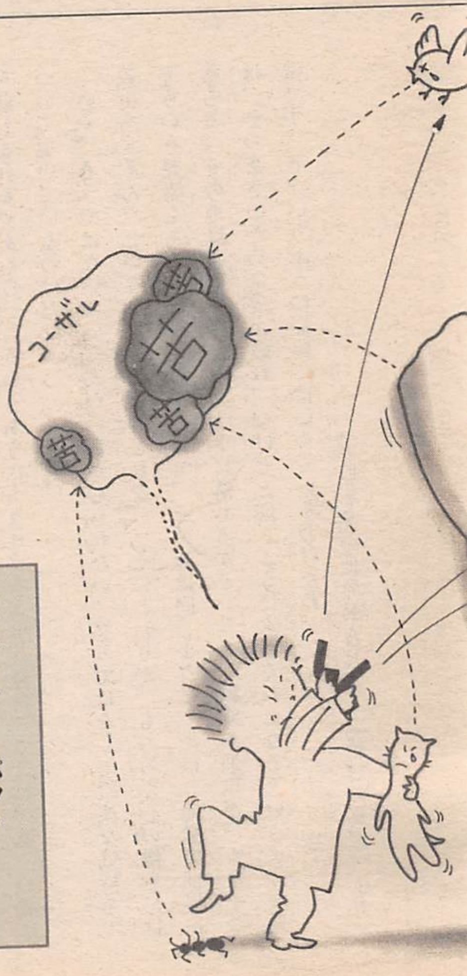


●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

相手を苦しめたデータは
自分の中に入ってくる



●シャクティーパット

シャクティーパットとは、解脱者(げだつしゃ)が相手に直接霊的エネルギーを移入するイニシエーションである。そして、シャクティーパットは、相手の修行を飛躍的に進めるが、エネルギーを施す側は相手のけがれたカルマを受け、大変な苦痛を味わう。

殺生のカルマで、熱地獄・寒冷地獄へ

例えば、殺すなかれという戒がある。生き物をたくさん殺すという背景には、自己保存の法則というものが働いている。そして、怒りのカルマというものが働いている。この自己保存の法則の裏側にある怒りのカルマというものは、これは炎だ、ね。精神的な炎を使って、現象界として、現実として殺生（せっしょう）したならば、そのカルマはあなた方を同じようにね、その炎はあなた方を同じように地獄の世界で焼き尽くすだろう。これが、殺生のカルマです。

そして、もしあなた方が生き物を慈しんだならば、殺さないで慈しんだならば、ね、逆にあなた方が今生において、あるいは未来際において、同じように周りの生き物から慈しまれるであろう。こういうふうにスクリプチュア（経典）ではね、第一の戒について説いているわけだ。

いや、そうではないという人がいるかもしれない。怒りではなくて冷淡な気持ちで殺生をするんだという人もいるかもしれない。そのとおりだ。もちろん心の働きにはそういう要素もあるわけだ、ね。そして、その魂は同じように、やはり地獄の世界に落ちる。その地獄の世界のどのパートに落ちるかというと、極寒の地獄だ。もうそこは、その寒さのために皮が破れ、やけどと同じように水ぶくれになるというような地獄です。そういうふうに経典ではいっているわけだね。

（麻原彰晃の世界PART5『絶対の真理』より）

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



物を盗まないのは、自分のため



人の心というものは、必ずその人の所有しているものに対して愛着している。あるいは、執着している。ということは、他の者の所有を盗むということは、その人に、その執着からくる苦しみを与えることになる。よって、偸盗をした段階で、その持ち主の苦しみが伝わってくることになる。そして、これは、逆に自分の執着しているものを奪われるという形で苦しまなければならないのである。

よって、他に対してものを施し、盗まないということは、これはだれの利益でもなく、自己の利益なのである。

(『マハーヤーナ・スートラPART2』より)

S T E P

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



邪淫をしてはいけない二つの理由

これ（邪淫）には、正確にいうと二つの意味合いがある。その第一は、性エネルギーを漏らすことにより、徳の消耗をし、疲弊するということである。そして第二は、これは仏教的に、一般的にいわれている邪淫だけれども、これは、他人の妻、あるいは他人の夫を寝取るということなのである。

これは、先程も述べたとおり、他人の妻、あるいは他人の夫というものは、その夫婦関係において必ず愛着し合い、あるいは独占し合おうという心の働きがある。その独占し合おうという心の働きに対して、強烈なダメージを与えるわけだから、当然、その苦しみというものは、その対象者に向かってくる。そして、その苦しみをしょうことにより、未来において苦しまなければならないというカルマを作るのである。

（『マハーヤーナ・スートラPART2』より）

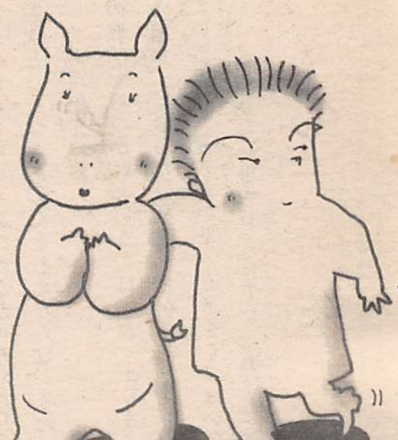


●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

邪淫は独占の苦しみを負う



愛のないセックスをするな



なぜ愛のないセックスをしてはいけないのか。心の働きをちょっと見てみようじゃないか。もし、わたしたちが愛のないセックスをするとね、快楽だけのために心は働き出す。そうすると、例えばわたしたちが他に対して、異性に対して快楽だけの見方しかできないとしたならば、先程の波の理論を考えてごらん。返ってくる現象は、快楽だけのために異性もわたしたちを見るようになる。そうすると、どういう結果が出てくるかと、ね。

男性と女性のつきあいというものは、セックスだけでない。例えば、男性が女性を愛するというのは、男性にないパートがあるから愛するんだ。あるいは、女性が男性を愛するのは、女性にないパートを男性が持っているから愛するんだと一般的にいわれているよね。ところが、それが単に快楽だけのためのつながりだとしたならば、それは殺伐とした関係となろう。殺伐としたつきあいだとしたならば、それはわたしたちに幸福を与えてくれないよね、この現象界において。

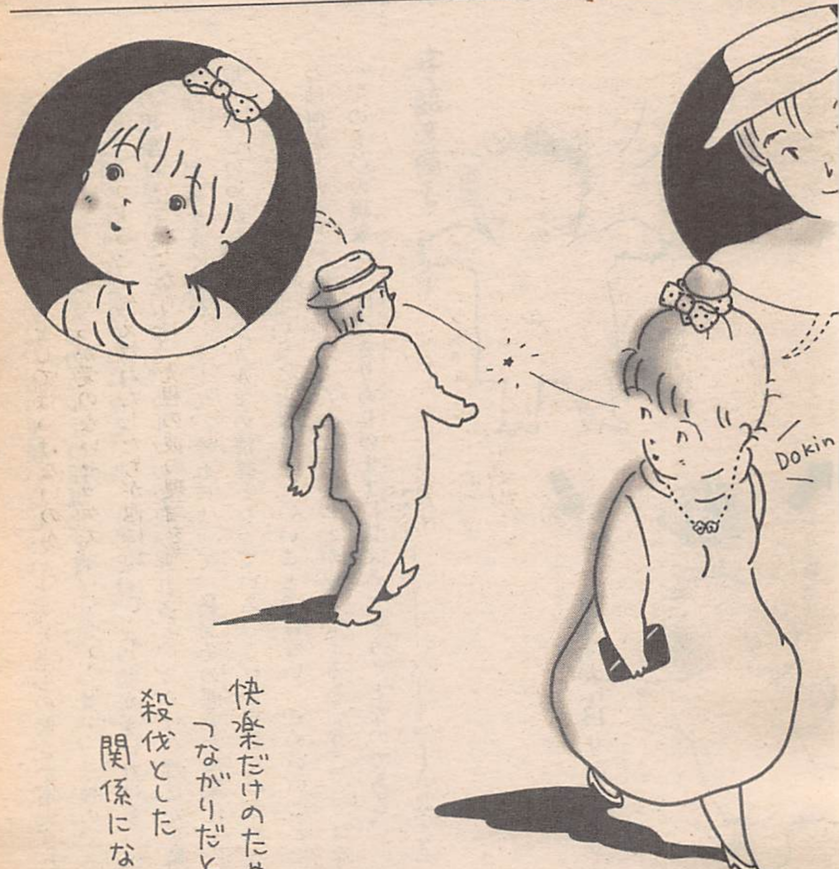
いいね。だから、この三番目の邪淫するなかれというのは、ね、エンライトメントやサルベーションを目指している者は、できるだけ禁欲をしなさいと。そして、そうではなくて現世的な幸福を求めている人は、愛のないセックスをしてはいけないよという理論になるわけだ。

（麻原彰晃の世界PART5『絶対の真理』より）

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

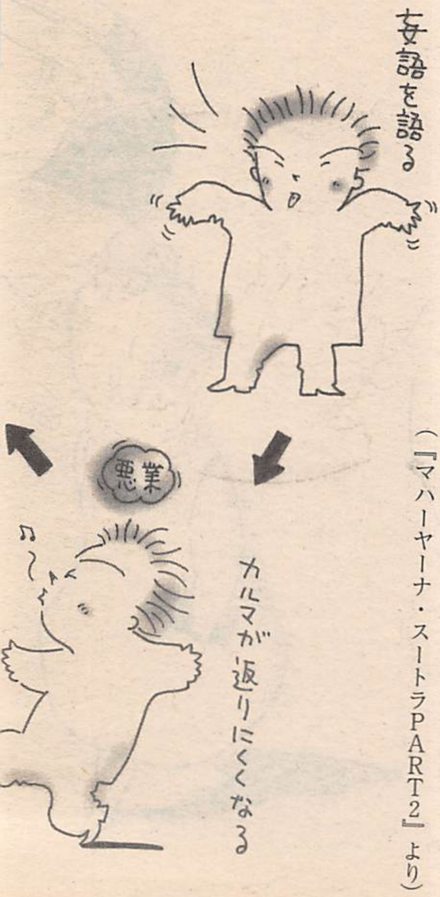


嘘をつく本当の怖さは

妄語（嘘）というものは、ものを覆い隠したいと考える心の働きが増大される。この心の働きは、わたしたちのカルマの顕現化を遅くする。つまり、一種の、そこで袋、あるいは箱を作ったような形になる。ということは、その嘘が多ければ多いほどカルマの現象は遅れることになる。カルマの現象が遅れると、カルマの理法が理解できなくなり、悪業を多く積む。そして、それによって、結局その悪業が現象化するときは、取り返しのつかないようなカルマの清算となっている。これが妄語なのである。

よって、真実を語るということは決していいことではない。このいいことではないとは何かというと、何かわたしたちにいいことが返ってくるということではなく、すべてのものの現象が、はっきりありのままに見えるということなのである。

（『マハーヤーナ・スートラPART2』より）



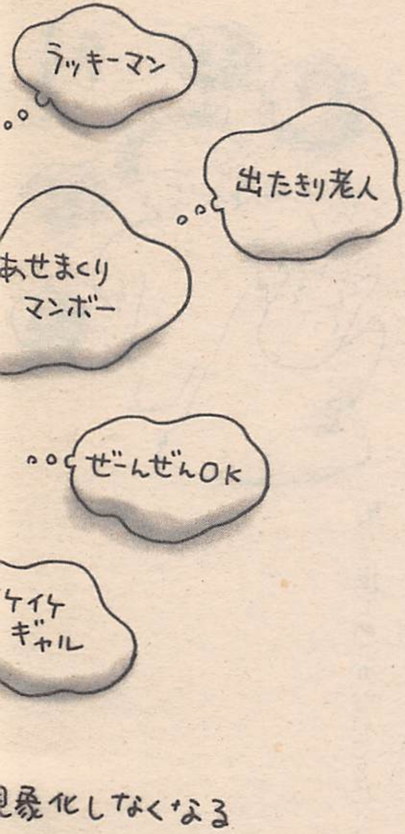
●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



意味のない言葉をしゃべると、ものを達成できない



綺語（きご）というものは、心の働き即言葉という、つまりコーザル即アストラルという、この流れを変えてしまう。つまり、心にもない言葉を大量に語ることにより、アストラルに心と関係のない、いらぬものがたくさん生じることになる。ということは、心で思ったことが現象化せず、屈折を生むわけである。ということは、この綺語は、わたしたちがものを達成していく上において最も大きな障害ということになる。

（『マハーヤーナ・スートラPART2』より）

STEP

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



悪口で地獄に落ちることも！

悪口はどうであろうか。これは、殺生と同じである。つまり、悪口を放つことにより、相手に苦しみを生起させる。そして、その苦しみのヴァイブレーションは、自分の心に返ってくるのである。

ということは、綺語を話さず、真実だけを語ると。そして、悪口を語らず、人に優しい言葉を語るということは、それだけでわたしたちに大きな恩恵があるのである。

仏典で、悪口により地獄に落ちたという例があるが、これはまさにそれである。つまり、これは殺生と同じ——形態は違うがね——カルマの返り方をするわけである。

（『マハーヤーナ・スートラPART2』より）



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



人を仲たがいさせて、自分は自閉症

両舌(りょうぜつ)はどうであろうか。この両舌においては、必ず嫉妬心(しっとしん)というものが、心の背景にある。そして先程も述べた、その嫉妬心の背景には、また嫌悪という心の働きがある。ということは、どんどんどんどん自分の世界を小さくしていくということになる。そうだね。嫌悪は壁でしょ。ということは、この両舌の戒は、人と人とを仲たがいさせ、それと同時に自分の世界を小さくしていき、最終的には自閉症になるということになる。

ところが、人と人とを和合させる、この言葉の実践をなすならば、心が豊かになり、壁が取り払われ、多くのいろんな人と交わることができ、そして、いろいろなことを学び、魂が成長するということになる。

ということは、妄語(もうご)、綺語(きご)、悪口(あっこう)、両舌というこの行為、この言葉の行為は、これはわたしたちを不幸に陥れるものであり、真実を語り、必要のない言葉を語らず、人に優しい言葉を語り、人と人とを和合させる言葉を語るということは、わたしたちの心の病を取り除き、わたしたちの心を広大にしていくということになる。

（『マハーヤーナ・スートラPART2』より）

妬心が……

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



心においても戒めを守れ



心に貪(むさぼ)りを持たず、布施(ふせ)の実践を行ない、そして大いにすべての人の徳を誉め称える心を持つ。これを実践することによって、あなた方の物質的願望というものは、すべてかなえられるであろう。

もし、嫌悪の感情を持たず、嫌悪から生じる怒りの感情を持たなければ、すべてのものがあなた方になつき、そして天の世界へ生まれ変わるだろう。

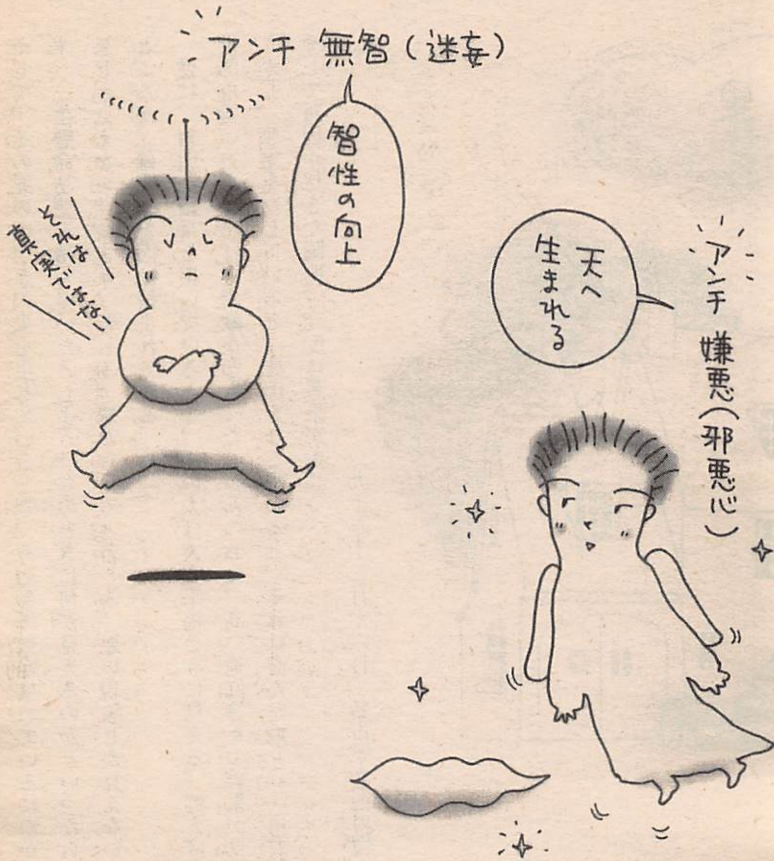
もし、すべてのものをあなた方がありのままに見つめ、ね、これは真実であると、これは真実ではないと、これは人を益するものであると、これは人を益するものではないということをきちんと理解し、その実践を行なうならば、あなた方の智性は向上し、そして、人にだまされることもなく、すべてのことにおいてあなた方が思った方向に進んでいくだろう。

（『マハーヤーナ』NO17より）

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理

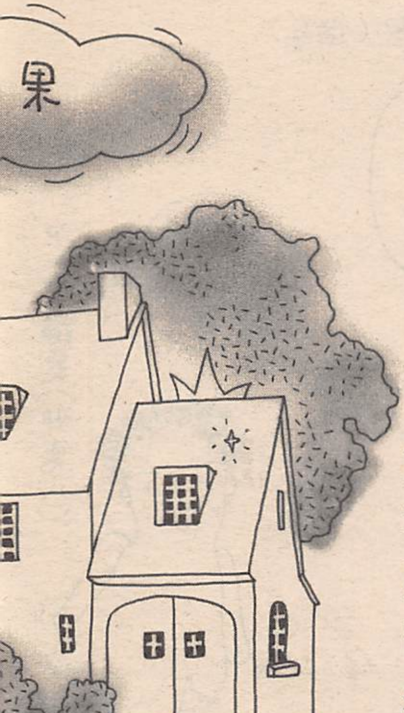


今悪いから、ずっと悪いのか？

例えば、わたしたちが人間として生まれ、善因だけではない、当然悪の因もある。そして、その悪の因が悪の果を生じているとき、その悪の果が生じているにかかわらず、一生懸命功徳を積んでいたとしよう。このときに何が見えるのかといったら、悪果しか見えない。つまり、苦しみ。端から見ると苦しみ。悪い現象しか見えないんだ。ところが、確実に善因は積まれている。ね。

逆に、善因が結果を招いているとき、その人は大変幸福そうに見える。例えば、現世的な言い方をすれば、素敵な恋人、たくさんのお金、高い地位等々の善果が見える。しかし、悪業をなしていると、悪因をなしていると、それは潜んだ形として現われ、そして善因が尽きた瞬間、今度は悪果が生じる。

（九十年十二月十六日　名古屋支部道場にて）



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



"カルマ落とし"は素晴らしい

わたしの修行の途上にもいろんな現象が起きている。それはもうまさに苦しみの連続であった。客観的に見たらね。しかしわたしは、求道心というのは全く揺らぐことがなかった。そしてそれだけではなくて、逆の言い方をすれば一つの快感すらおぼえていた。それは何かというと、きっとわたしの中に根づいている修行者としてのカルマが、今まさにカルマを落としている時期であると、このカルマはいずれ落ち切ると、そして落ちた後には、今までわたしがなしてきた善因の果しか出てこないんだと。ね。

そして、仏教というものは本質的にはわたしたちの肉体、感覚、そしてイメージ、意志、意識というものをすべて善因、善果に変えていく修行であるということを理解しなければならない。

ということは、当然、その五蘊（ごうん）のけがれを洗濯するとき、特にその洗濯をするね、洗剤が強力であれば強力であるほど、その垢（あか）というものはどんどん浮き出てくる。そしてその浮き出てくるものをよしとするか悪しとするかである。一般的には目先の利益しか考えないから悪しとする。しかし、もし、わたしたちの内側に苦しみの因がないとするならば、それはいかなる状況であろうとも苦しまないはずである。

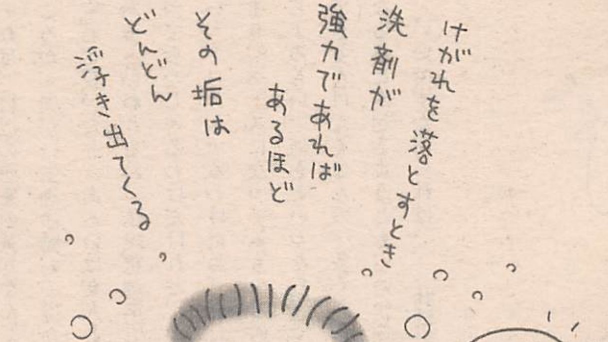
わたしが何を言いたいか、それは本質的にはあなた方自体のカルマは必ず現象化するんだということ。そしてその現象化したカルマの状態を見て判断するのではなく、もっと原則的なものを見なさいよということである。

（麻原彰晃の世界PART5『絶対の真理』より）

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



天へ至る妻、地獄に至る妻

仏陀釈迦牟尼はこう言ってらっしゃる。もしここに結婚している夫婦があり、そして、その妻が、いくら夫が暴力を奮おうとも、あるいは、いくら舅・姑にいじめられようともじっとそれに耐え、尽くし、そして聖者を敬い、真理を実践するならば、天界へ生まれ変わることができると。わかるかな、みんな。そこに生じているものは何か。それは、自己の悪業の滅却なんだね。いいかなこれは。

ところが、夫が一生懸命働いて得た金を、できるだけたくさん奪い取り、洋服を買ったり宝石を買ったり、あるいは友人と遊ぶと。——いいかな。この妻は、地獄に至る妻であるといわれるね。仏陀釈迦牟尼は「盗賊である妻、そして、彼女は地獄に至る」と言ってらっしゃるわけだけれど、ここでは現世の喜び、つまり功徳の消耗ということをいってらっしゃるわけだね。

つまり、ベースになってるものは何かといったら、今のはあくまでも、比喩だと考えたらよろしい。何かといったら、できるだけたくさんの、多くの功徳を積み、そして、できるだけたくさんの、多くの苦しみを受け、そして、苦しみを消滅してしまい、いかなることが起きようとも、いっさい影響を受けない状態、これこそ現世浄土であると。いいですか、これは。

(麻原彰晃の世界PART15『絶対幸福への道』より)



●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



貪りをシャットアウトすれば、ガンは治る！

例えばガンの場合、生体内細胞の本来成長増殖してはいけない細胞が、身体内に増加増殖するわけだけれども、これは例えば、部位によってもいろいろと意味合いが違うけれども、総じて貪り（むさぼり）のカルマ、つまり、多くの物を欲するがゆえの心の働きによって起きる病であるといわれています。言い方を換えれば、貪りの心を完全にシャットアウトすることができれば、その人はガンのカルマから解放されるのです。

もちろん、いったんガンになり、そのガンの病だけではなく、それから派生する、例えば血液の濁り、例えば他の臓器の機能異常、あるいは気質異常に陥った場合、もうすでにそれは貪りのカルマを落としたからといって、取れるわけではない。だから、ここでいう貪りの心の働きを停止すればガンから解放されるというのは、どちらかというと予防医学的、あるいは初期のガンに対してのみ通用するものの考え方だと考えたらいいと思います。

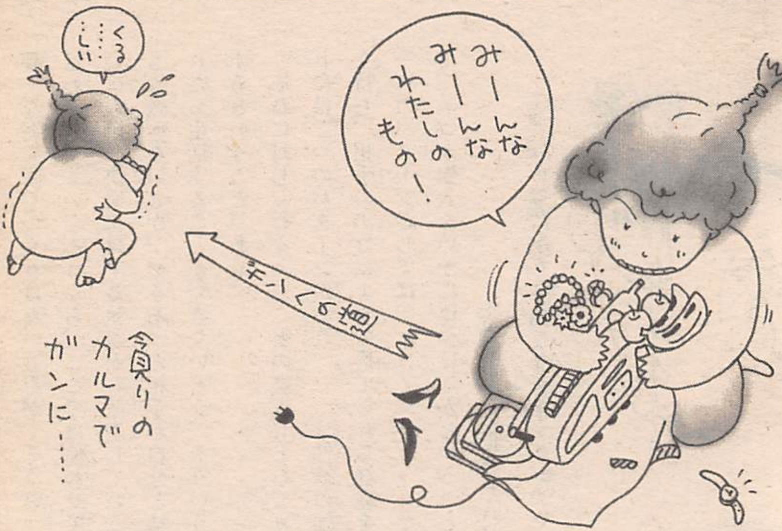
そして、肉体に苦痛が生じるということは、過去において、それは人間だけではなく他の生き物に対して苦痛を与えた結果生じているわけだから、十分にザンゲ、つまり反省をし、そのカルマを一緒に落とす。そうすることによって、初期のガンが治り、あるいはガンにかからない肉体が作られるはずです。もちろんこれは心臓病についても、あるいは他のいろいろな病についても同じことがいえると思います。

（オウム真理教雑誌『病は癒える』NO5より）

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



●ガンが壊死した例

一昨年このようなことがあった。ある末期の肝臓ガンの患者が、オウム真理教附属医院に入院し、西洋医学的治療に加えて仏教理論を背景とした独自の医療を行なったところ、なんと三カ月も延命したのである。しかも、その間普通に食べ、普通に歩き、死に際しても苦しむことなく、安らかに逝ったという。さらに驚くことには、T大附属病院で解剖したところ、肝臓のガンがすべて壊死していたというのだ。これは、彼が餓鬼のカルマを切ったことを表わしている（この話の詳細については『おとうさん、生きて！』を参照）。

オウム真理教附属医院では、このような奇跡がいくつも起こっている。関心のある方は、ご連絡を。

〒165 東京都中野区野方5-30-15
かわこしビル2F
電話 03（3310）7791

堕胎のカルマは必ず返る

なぜ、水子を作るのであろうか（わたしは世間一般にいう「水子」とか、「水子供養」などを説くつもりはないのだが、そういった言葉を使った方が、読者の皆さんにはわかりやすいだろうから、ここでは使わせてもらった）。これは自己の存在、あるいは自己の快楽に対する執着から派生しているのである。つまり、子供が生まれたら、もう遊べないとか、つきあった相手が自分と結婚してくれないので、その子供が生まれたら生活することができないとか、そういうエゴイスティックな発想によって堕胎するということである。

それに対し、行なったことの裏返しとしてカルマは必ず返ってくるものである。それには二つのパターンがあり、一つは性欲の強い男性が近寄ってきて、肉体的な関係を持ち、相手のエゴによって捨てられる経験をするということがある。それからもう一つのパターンとしては、エゴイスティックな男性が近寄ってきて、その男性によって、エゴが他人をいかに傷つけるかということを体験させられるということがある。

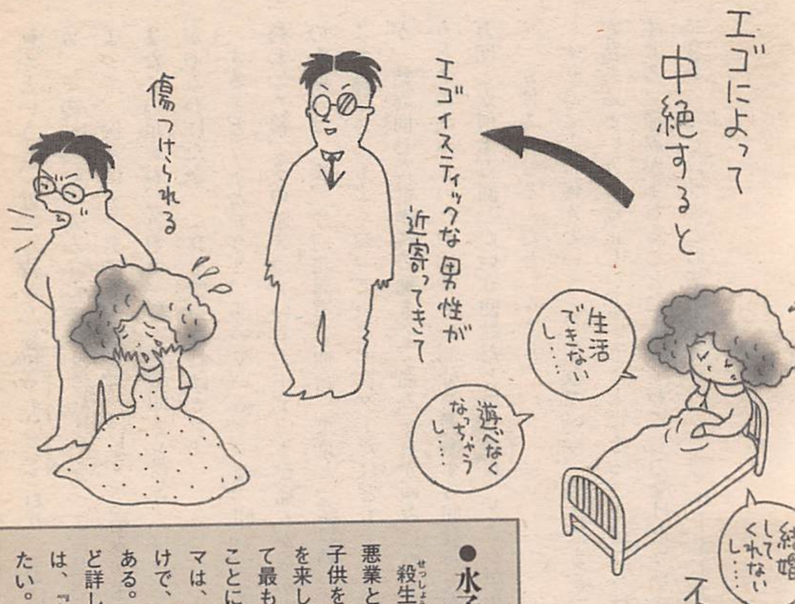
（麻原彰晃の世界PART4『宗教にだまされるな！』より）

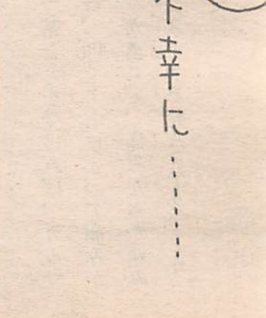


●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理





●水子供養ではダメ

殺生の中でも、特に堕胎は大きな悪業となる。現代の多くの女性が、子供を堕ろし、肉体的・精神的変調を来しているが、それが自己にとって最も身近な者を殺したためであることに気づいていない。堕胎のカルマは、単に「水子供養」をやっただけで、清算されるものではないのである。中絶のカルマの乗り越え方など詳しいことをお知りになりたい方は、『中絶の真実』をご覧いただきたい。

"カルマが落ちる"ことの医学的証明

実はわたしは昨日ね、一つの、まあ、悟りを開いたというか、経験をした。それは何かというと、近ごろ皆さんも知っているとおり、永代帰依祈願、シークレット・ヨーガ、その他のいろんなイニシエーションによって、皆さんのカルマを受けています。よって、例えばナーディーが詰まると。そこで痛みが生じる。で、一昨日ぐらいから、またこの足をね、竹刀で一日一万発叩くという「ヴァジラヤーナの帰依」という修行があるわけだが、これを始めたわけです。

するとどうかというと、叩いていると、ね、叩いてるときは確かに痛い。しかし、終わった後、その詰まっているナーディーが痛みからかゆみに変わるんだね。で、このかゆみは、ま、今回北海道、仙台、東京と一緒に動いているヴァジラティッサ師――これは皆さんもよく知っているドクターだけども――と話をしていてわかったことだが、結局同じ神経繊維の働きで、痛みからかゆみになるんだということ。それはちょうどその痛みというのは、その部分を刺激する回数が大変多いと。例えば一秒間に何万回とか何十万回とかいう回数だと思うがね、ところがかゆみはその回数が少なくなって、かゆみになるんだということ。

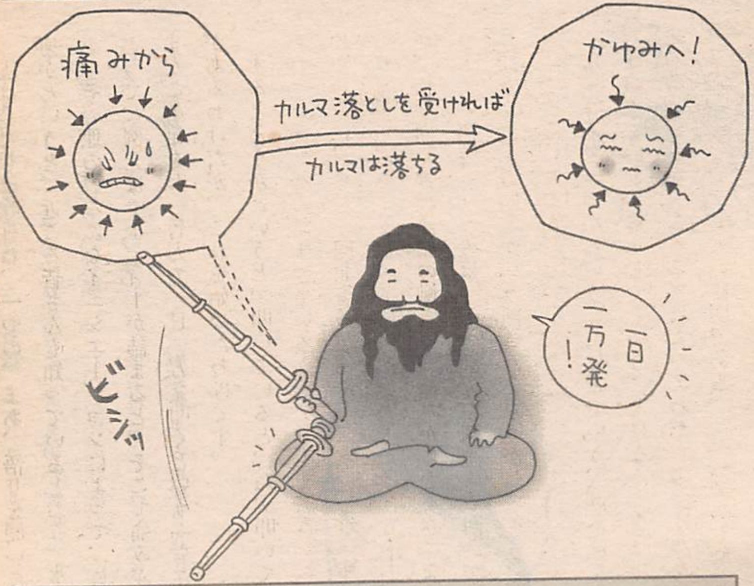
ということは何かというと、仏教でいう、例えばカルマ落としを受ければ、カルマが落ちるというのは正しいということになる。なぜならば、叩くことによって痛みが生じる。痛みが生じることによってわたしの受けたカルマが落ちて、痛みからかゆみに変わったということの証明である。

（『マハーヤーナ・スートラPART2』より）

●第2章●

カルマの法則

過去・現在・未来を支配する絶対的真理



●奇跡のエンパワーメント

麻原尊師は、弟子の修行を進めるために様々なエネルギー移入をされる。ここで行なわれるのはカルマの交換であり、麻原尊師は、弟子のけがれたカルマを多く受ける。その代わりに、弟子は最終解脱者（さいしゅうげだつしゃ）の素晴らしいカルマを受けて、解脱に向かって一気に霊性・精神性を進歩させることができるのである。このエンパワーメントの詳細について知りたい方は、『奇跡のエンパワーメント』を参照していただきたい。

カルマからの解放、それがニルヴァーナだ



カルマの生起の全くない状態、これがニルヴァーナだ。そして、他と接していて、行、イメージ、あるいは思考というものが働いているように見えて、ね、しかし実際は全く働いていない状態、これが仏陀の状態だ。この二つは違う。前者は、個人におけるカルマからの解放だ。後者は個人だけではなく、全体的なものからのカルマからの解放だ。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ８『仏教真理 六波羅蜜』より）

●第2章●

カルマの法則

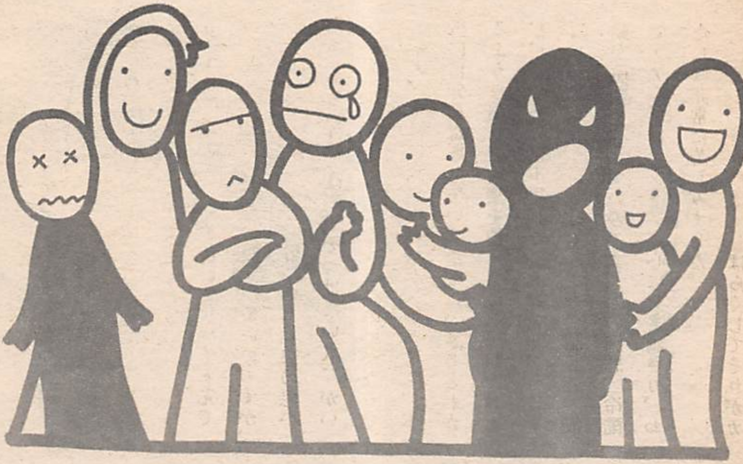
過去・現在・未来を支配する絶対的真理



●仏陀の境地に近づく者たち

どんな悪業を積んでいる人でも、修行をすることによって、その悪いカルマを切ることができるし、それだけではなく、究極的には、このわたしたちをがんじがらめに縛りつけているカルマそのものから解放されることができる。現に、オウム真理教の修行者の中で、麻原尊師の指導によってニルヴァーナに到達した者は存在するし、彼らは確実に覚者に近づきつつある。(仏陀)の境地に近づきつつある。そして、他の多くの修行者たちもその後に続いているのである。

体験──カルマの法則は存在する！



◆財施の実践で、盗まれた以上のお金が

オウム真理教に入信してから、わたしは財施をはじめとして自分のできる限りの功徳を積む日々を送っていました。そんなあるとき、家にどろぼうが入り、金庫ごと三百万円も盗まれてしまったのです。わたしは、「これは、過去、および過去世になした偸盗のカルマの清算だ」と考え、よりいっそう財施と奉仕修行に励みました。すると、驚いたことに、しばらくしてそのどろぼうが、弁護士を通じてお金を返してきたのです。しかも、盗まれた金額より九十万円も多く！　わたしは、カルマの法則、功徳の理論というものはあるんだなと、このとき実感しました。（金井峰子）

◆悪口は、心を切り刻むような苦痛が返る

以前、わたしは両親から、

「お姉ちゃんの話し方は高飛車だ。」

体験談
カルマの法則は存在する!

「すっごく冷たいなって思うことがある。」などというようなことを言われたことがあります。わたし自身は、全く普通に話しているつもりだったのですが……。

そのカルマは返ってきました。バイト先でいろいろな人とまみえる機会が多いのですが、必ずといっていいほど、俗にいう「口の悪い人」(あるいは、冷淡でそっけない人)がいるのです。大したことではないのにがなり立てる人、やけに高飛車にズケズケ言う人、本当に自分を嫌悪しているなとはっきりとわかるような感じで言葉を使う人などです。けれど、その多くは不思議なことに言葉自体が悪口とわかるようなものではなく、話し方、波動が冷たく、きついのです。その嫌悪、冷酷なヴァイブレーションが心に突き刺さり、わたしは非常に苦しみました。

しかし、わたしは、しばらくしてそれがカルマであることに気づいたのです。わたしは、確かに悪口は周りの人よりも少ないのですが、愛著、その裏にある邪悪心が強く、そのような心を修習しているがために、気に入らない人には、知らぬ間に、冷酷さ、嫌悪を乗せて言葉を発していたのでした。

「カルマって絶対で、厳しいものなんだな。本当になしたことしか返ってこないんだ——。」

わたしは、つくづくそう思いました。殺生や暴力は肉体を切り刻まれるような苦痛が返ってきますが、悪口は、心を切り刻まれるような苦痛が返ってくるのです。

(加藤克枝)

◇罵倒には罵倒が返ってくる

わたしは阿修羅的な性格が強く、時として他人のミスも見過ごせなくなってしまうことがあります。先日も、法友があまりにつまらないミスを繰り返すので、それを指摘したと

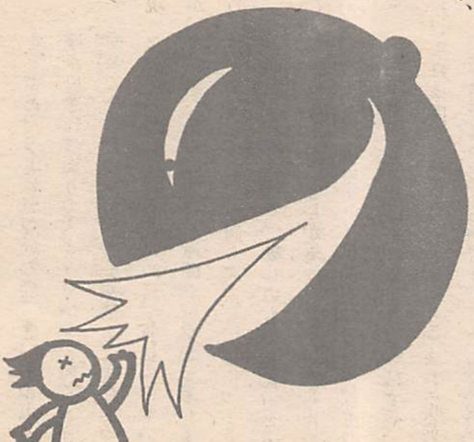
ころ、相手が強く反発したためついつい激しい口調になり、ついには法友を罵倒してしまいました。

数日後……。車を運転していたわたしは、舗装もろくにされていない狭い道でダンプカーとすれ違いました。わたしは親切心を出して、そのダンプカーに道を譲りました。ところが、よけ方が悪く、わたしの乗っていた車は溝にはまってしまったのです。相手もそれに気づき、初めは申し訳なさそうに引き上げを手伝ってくれたのですが、引けば引くほど車は深みにはまり、徐々に相手は気を荒立て始めました。

「お前が考えなしによけるから悪いんだ」から始まり、最後は、よくもまあ初対面の人にこれだけの暴言が吐けるものだと思えるほどの罵倒を浴びせられました。

修行が進むにつれて、カルマの返りは顕著に、しかも早くなるといわれていますが、あまりにも場違いな飛躍しすぎたその内容には、ただただ唖然とすると同時に、これはカルマ返しのために設定していただいた事件としか思えず、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

（スワミ・ヴァジラナーマ）



体験談

カルマの法則は存在する！

◇恐ろしい悪口の清算

もともと言葉の戒である悪口・中傷の多いわたしは、特に出家後、そのカルマの清算で大変怖い目に遭っています。もちろんこの現実の世界で清算を受けることもあるのですが、わたしの場合、アストラル界（形状界）での清算が多いようです。

例えば、悪口・中傷をなしてからしばらくすると、必ず口を切られるヴィジョンを見るのです。まるでヤクザのような大男が出てきてわたしの口を殴ったり、顔面にけりを入れたりします。口がズタズタに裂け、血みどろになる状態は現実以上にリアルで、痛みはもちろん感じますし、不安感・恐怖感も伴います。

こんなとき、現実に返ってあわてて手で口をさすって、なんともないことを確かめてホッと胸をなで下ろしています。



また、現実での清算では、悪口・中傷を言い返されるよりも、ヴィジョンと同じように口のけがが多いようです。例えば、瞑想中に意識が飛んでしまい、顔面を前に置いている書見台に勢いよくぶつけ、唇を切ってしまいます。しかも、何回も連続して起こってしまい、書見台を遠くに離してもなぜか口をぶつけてしまって、大変情けない思いをしたりします。その代わり、悪口・中傷をなさないときは、瞑想中にいくら顔面をぶつけても、絶対に口を切らないのです。

（瓦吹英宣）

◇まさにそのままのシチュエーションで……

わたしの法友に、大変怒りっぽい人がいました。その人は、まだ出家して日も浅いころ、数々の師（クンダリニー・ヨーガの成就者）の説法を「聴きたくない」とボイコットしていたのです。

しかし、彼女も出家生活を続けていくうちに修行も進み、極厳修行に入ってめでたくクンダリニー・ヨーガの成就を果たしました。そして、成就直後、彼女が道場で信徒さんに修行の体験談を話していたとき、一人の信徒さんが突然席を立ち出口に向かって歩き出しました。その信徒さんはなぜか機嫌を悪くしており、

「こんな説法は聴けないわ。」

と、捨てぜりふを残して出ていってしまったのです。わたしもその場にいたのですが、彼女の体験談は、取り立てて人の気分を害するようなものではありませんでした。最初は、不思議に思っていたのですが、ふと彼女が成就する以前に行なってきたことを思い出しました。「ああ、説法をボイコットしたカルマが返ってきたんだ」と。成就するとカルマの返りが早くなるといいますが、偶然とは思えないこの出来事を見て、わたしはカルマの存在を確信しました。

ところで、後日談ですが、その信徒さんをよく知っている人に聞いたところ、その信徒さんの性格と、彼女の成就する前の性格はそっくりだったということです。

（聖者スッカー到達光師）



体験談

カルマの法則は存在する！

◇頭ばかりぶつけた理由は？

信徒のとき、深夜セミナーでダルドリー・シッディ＊が起き始めたころ、どういうわけか、どこにいても頭をぶつけるという現象が起こりました。壁の近くにいれば壁に頭をぶつけるし、壁から離れると、今度は意識が飛んで後頭部を畳に強く打ちつけるのです。

実は、わたしは十数年間剣道をやっており、しかも得意技は〝面〟だったのです。そのカルマが返ってきているのだと実感しました。

（聖者ヴァジラヴァッリヤ上流師）



◇叩きたくないのに叩いてしまう……

わたしは、現世では、ボクシング・剣道・柔道と、多くの暴力のカルマを積んできました。

出家し、道場建設のワークに就かせていただいたときのこと、気をつけてはいるのに、片手ハンマーや金づちで左手を力いっぱい叩いてしまうのです。指先は真っ赤に腫れ上がり物がつかめないほどになりました。

また、ワークで人に怒ると、その後で自分が怒られる羽目になったりと、カルマの法則は本当にあるんだと感じました。

（聖者パーラーパリヤ到達光師）



＊ダルドリー・シッディ＝空中浮揚の前段階で起こる超能力。

第3章

輪廻転生

★あなたはどこへ生まれ変わるか？

絶対的真理、輪廻転生



君たちも輪廻転生を繰り返すんだよ。そして輪廻転生において、この生というのは本当に短い生なんだよ。そして、わたしたちの老死、あるいは苦しみというものは、わたしたちに対する最高のサインなんだよ。そしてそのサインを読み取り実践するなら、わたしたちは、本当の意味での幸福・自由・歓喜の世界へ、いずれは導かれるんだよ。

それはわたしの言っていることでもあるし、あるいは、仏陀釈迦牟尼のおっしゃっていらっしゃることでもある。そしてわたし、あるいは仏陀釈迦牟尼がもし嘘をつくとするならば、それはわたしたちは、真理の体現者であるというふうに言っているわけだから、逆に大変な地獄へ落ちることになるだろう。いいですか。

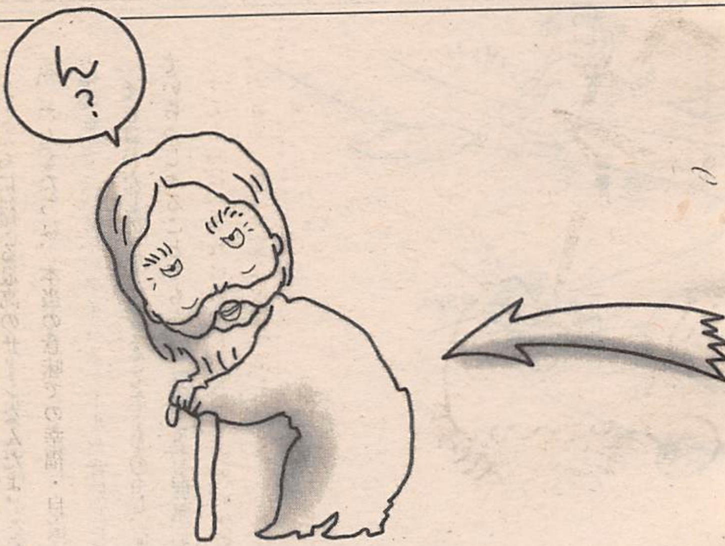
(麻原彰晃の世界PART16『麻原彰晃 方便品』より)

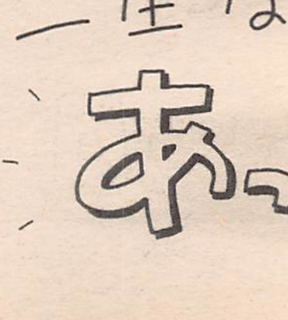
S　T　E　P

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



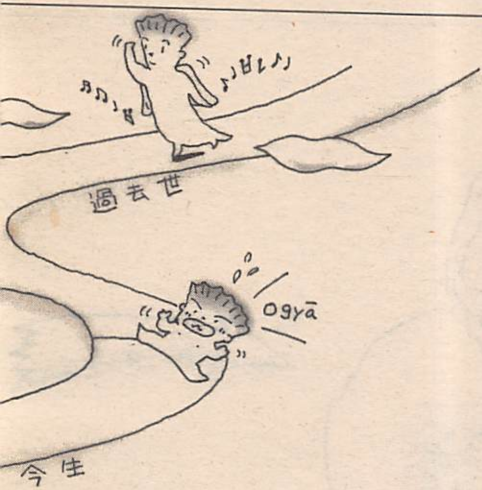


●輪廻転生って何?

輪廻転生とは、わたしたちの魂が、無始の過去から様々な世界へ生まれ、死に、そしてまた生まれ、死にということを繰り返しているという教えである。つまり、この短い一生だけがすべてではなく、わたしたちはだれでも前世と来世を持っているのだ。

一般には、六道輪廻、つまり地獄から戯れ堕落天の六つの世界を輪廻する場合が多い。（p26参照）

輪廻転生の長いスケールで考えろ！



オウム真理教は真理である。この世の中の、楽のために手段を選ばないという生き方を否定している。それは、オウム真理教の教えの背景にあるものが、生まれ、死にという、この短いタイムスケールを検討した結果得られた教えではなく、生まれる前から、生まれ、そして生き、そして死に、死後の世界と、そして生まれ変わるという、輪廻転生という長いタイムスケールを背景としたものであるからである。そして、この生まれ、死ぬというタイムスケールの中に存在するものは、本質的には苦しみしか存在しない。

（麻原彰晃の世界PART10『仏教真理　五蘊無我』より）

S T E P

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか?



日々の行ないが転生を決める



人間の寿命は、どんなに頑張ったとしても百歳を超えることはなかなか難しい。この百歳の寿命は、それを歩く前に百年間のことを考えると、大変長いように感じることができる。しかし、百年間を振り返ってみると、決して長くは感じないであろう。これは、例えば、今六十代を歩いている人、あるいは七十代を歩いている人も、それは同感できる考えではないかと思います。

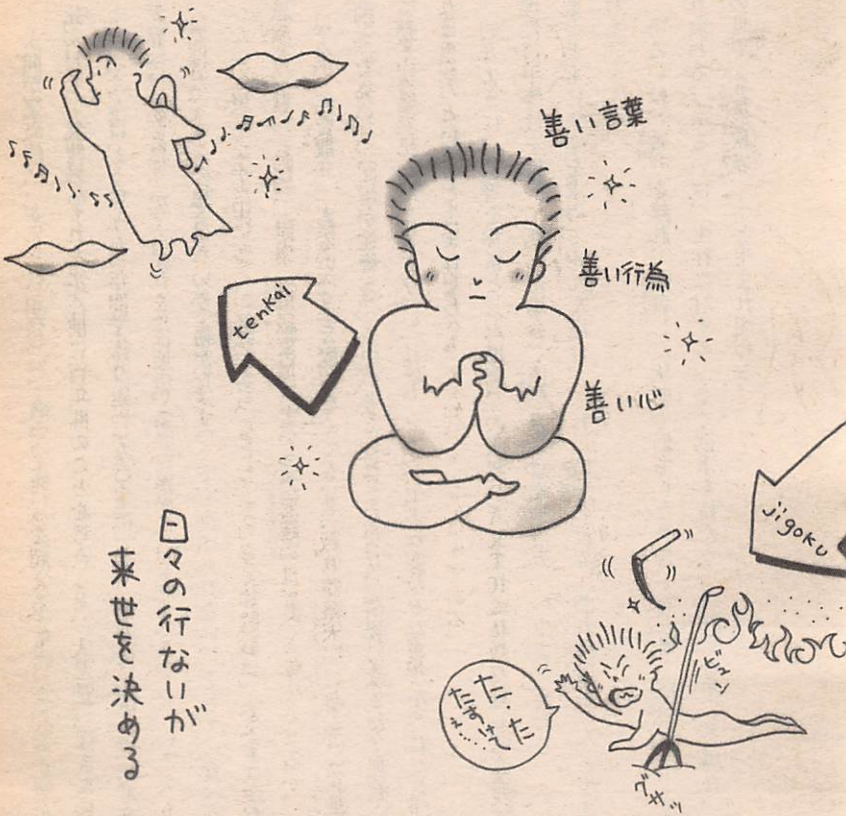
この短い人生の中に多くの経験をし、そしてその多くの経験は、わたしたちを地獄（激苦地獄）、動物、餓鬼（低級霊域）といった悪趣の世界へと転生させるか、あるいは人間、阿修羅（不飲酒天＝意識堕落天）、天界（戯れ堕落天）、梵天界（神聖天）といった高い世界へと転生させるのか、その分かれ道は特別な作業を行なうのではなく、日々の身の行ない、口の行ない、そして心の行ないの総合、蓄積によってすべては決まるんだということは、皆さんもよく知っているはずである。

（麻原彰晃の世界PART10『仏教真理 五蘊無我』より）

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



来世は決定されている！

人間が死ぬ前に、苦しい、苦しい、痛い、痛いと言いながら死んでいくと。そして死んだと。霊能者のところへ行くと。「あなたのおじいちゃんは天界へ行きましたよ」と。君たちはどう思うか。死ぬ寸前に苦しみの集積であった肉体を持って死んだ者が、天界へ行くと思うか。当然これは地獄（激苦地獄）へと落ちる。

ではだ、ガンの患者で、食べ物が食べたくても食べられない、そして、食べたい食べたいと思いながら死んでいく魂があったとしよう。これは、どこへ生まれ変わると思うか、君たちは。当然、次の転生は餓鬼（低級霊域）である。

では、年を取り、あるいは年を取らなくても、老人性の痴呆症、あるいは若年性の痴呆症となり、記憶が途絶え、ものが考えられなくなり、情報に流され、刺激によって動く状態で死んだとしよう。これは、どこへ生まれ変わるだろうか、君たちは。これは当然、動物へと生まれ変わる。

同じように、執着を背景とした場合、人間として生まれ変わり、あるいは純粋に論理性、平等性を持って死んだ場合、憤怒天（意識堕落天）へ生まれ変わる。そして、徳とともに快楽を求めて死んだ場合、これは戯忘の世界（戯れ堕落天）へと生まれ変わる。

あるいは、貪りを離れ、離貪した状態で転生した場合、梵天界（神聖天）へと生まれ変わる。あるいは、生存に対する、全く欲求を持たない状態で転生した場合、無色の世界（非形状界）へと生まれ変わる。

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



つまり、わたしたちが死ぬ寸前に、どのような心の状態で、どのような言葉の状態で、どのような身体の状態で転生するかということは、次の生を決定する絶対的現象であるということである。つまり条件ではなく、もうすでに死ぬ寸前に、その人の次の生は決定されているんだということを理解しなければならない。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ10『仏教真理　五蘊無我』より）

転生を決めるカルマ



君たちがどの世界へ転生するかというのは、君たちの持っているデータ、つまりカルマによって決まるんだよ。だとすると、君たちがそのカルマを滅却しない限り、君たちは救済のされようがないわけだ。わかるかな、これは。

（麻原彰晃の世界PART10『仏教真理 五蘊無我』より）

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



苦しみの輪廻を超える

この人間の肉体というもの、あるいは感覚というものは、あるいはイメージというものは、あるいは意志というものは、そしてわたしたちの輪廻転生と最も深くかかわっている、深い深い意識というものは、苦しみの集積です。その苦しみの集積の背景にあるものは、先程言った無常です。もし、この無常を超えるデータがどんどん入り、そして無常をよしとする幻影と、無常を超える意識とがぶつかり合い、無常をよしとする幻影が完全に破壊されるならば、そのとき完全にその人の五蘊は崩壊し、本当の意味での仏陀（覚者）として生まれ変わることができ、そのときには苦楽を超越した絶対的平安の状態に入るからです。

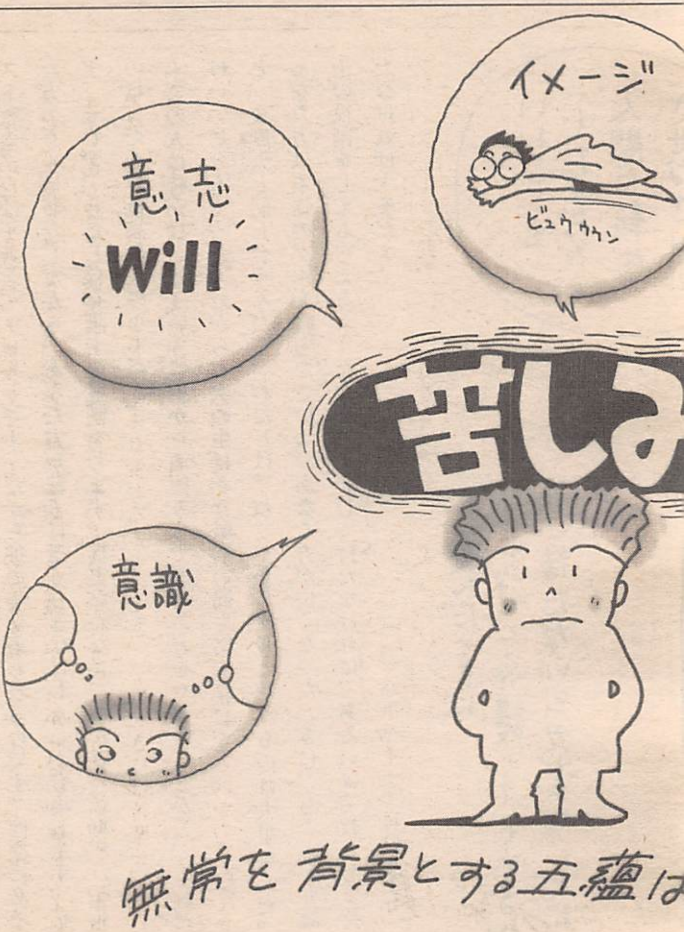
（麻原彰晃の世界PART1『幸福に至る四つの実践』より）



●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



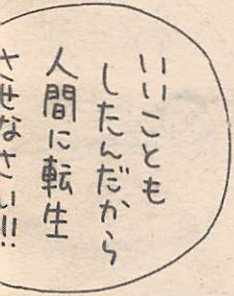
グルは死後の裁きの弁護人

（質問者） キリスト教では、裁きのときにイエス・キリストが現われるといわれていますね。

（尊師） それは真実です。グル（霊的指導者）が裁きのときに付き添うのです。キリスト教のグルはイエス・キリストです。だから彼の姿が現われるのです。同様にあなた方のグルはわたしだから、あなた方が裁きに遭うときにはわたしが登場します、必ず。そして、わたしは弁護士の役割をします。真実なんだよ、これは。グルというものは、だから最高のものなんだよ。

「この人は確かに、こういう殺生（せっしょう）から酒飲みまで悪いことをやった。しかし、これだけいいこともやったんだから、次の生はそう厳しい罰を出すな。」と、夜摩天（やまてん）と話し合うんだよ、わたしは。ね、だからグルというものは大事なんだ。あなた方は本物のグルを持ちなさいよ。あなた方が亡くなったときに、ちゃんと弁護士の役割をしてもらえるような人をグルとして持たなければ、あるいは宗教として持たなければ大変だよ。

（『マハーヤーナ』NO6より）



死んだときに
ちゃんと弁護してくれるグルを
持たないと大変なことに……

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



転生を変えてしまう"ポア"

オウム真理教にはポアという儀式がある。このポアという儀式は、魂が死に際してどの世界へ導かれるかを知り、そして、その転生を変えてしまうという儀式である。これは、ポアの儀式がしっかりなされるだけでは効果がなく、実際は今述べた死生智（ししょうち）が理解されないと、そして経験されないと、そのポアを正確に行なうことができないのである。

（『超越神力PART2前生を知れ！ 死生智の秘密』より）



●ポアってなあに？

ポアとは、意識を高い世界に移し変えることで、死に際してのポアとは、その魂の持っているカルマよりも高い世界へ転生させることをいう。

異次元を自在に体験できる解脱者

●第3章●
輪廻転生
あなたはどこへ生まれ変わるか？



でなければ、ポアがなされたかどうかを確認することは難しいが、ここで、比較的わかりやすいポアの例をご紹介しよう。

ガンで亡くなった信徒のKさんを尊師がポアされた。その結果、Kさんは阿修羅（不飲酒天）へ転生することができた。経典では、耳から魂が抜けて阿修羅へ転生するという記述があるが、その記述を裏づけるかのように、その直後、尊師は中耳炎を起こされてしまった。

そればかりではなく、ポアの儀式の最中に、Kさんのお嬢さんの手が自然に動き出し、阿修羅の象徴である喉のヴィシュッダ・チァクラを叩き出したという。

死後ショックをなくして、いい転生を

アストラル世界にはデータがあるわけだ。潜在意識がたくさん詰まっているわけだけど、この潜在意識を物質だと考えてください、要するに。微細な物質と。真我はまずは生きているときはこの心臓に宿っている。そして、この真我がアストラルに移行するとき、正しい瞑想修行をしている人は、この潜在意識が浄化されているから、要するに透明である。あるいは、この微細物質が少ないと。

ところが、そうではなくて、凡夫にはたくさんの潜在意識、データがあると。そうすると、真我がその潜在意識の世界に入る、アストラル世界に入るときに、データの多い方がショックが大きいと思いますか、少ない方がショックが大きいと思いますか。

信徒「多い方が……。」

そうだね、多い方がショックが大きいわけだ。ということは、凡夫がそこで死後気絶を起こすというのは、死後ショックを起こすというのは、あまりのデータの多さに——微細ではあるけれども、微細な中でも粗雑に近いようなデータの多さに、真我が没入するときショックを起こすんだ。

ところで、瞑想には二つある。願望を成就するような、例えば潜在意識を増大させるものと、そうではなくて今オウムで提唱しているように、ザンゲ、あるいは功徳を積むことによって、潜在意識のデータを消滅させるもの。そのうち後者の瞑想をあなた方が実践しているならば、つまり潜在意識の浄化の方を一生懸命実践しているならば、死後ショックは少ない、あるいはないんだよ。

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？

はい、では次に、もし死後ショックがなかったとしよう。そうすると、どういうメリットがあると思うか？

信徒「そのときの状態をありのままに見ることができる。」

はい、一つは、ショックがないからありのままに見ることができる。もう一つは？

信徒「わかりません。」

それは何かというと、今生で得た知識というものを、そのまま死後に移行させることができる。だから、例えば光の意味合い、あるいは、その瞑想の体験の意味合い、あるいはヴィジョンの意味合いといったものを、オウムでは徹底的にあなた方に叩き込んでいるけど、このデータがそのまま生きてくるわけだ。そうすると、間違った転生があると思いますか、ないと思いますか？

信徒「ないと思います。」

そのとおりだね。そうすると間違った転生はない。そして、これこそ最高の瞑想であるといっているわけだ。なぜかというと、この場合は来世が保証されているわけだから。あるいは、そこまで行かなくても、ショックが少なければ少ないほど回復が早い、あるいは記憶をなくすプロセスが柔らかいということがいえる。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ３『真実！ 六道輪廻』より）

菩薩は輪廻転生を自在にする

この世の中を形成しているものすべての背景には、必ず苦しみがあるんだということが理解できるだろう。どうだ、君たち。もちろん、輪廻転生を自在になすことのできる菩薩（到達真智運命魂）のステージ、例えば先程言ったパンチェン・ラマ、あるいはダライ・ラマ、あるいはカール・リンポチェ、ね、まあ、これはチベットの僧。あるいは、もう今は亡きティローパ、あるいはナローパ、これはインド密教の修行者。あるいは、ナーガールジュナ、ね、これは仏教の成就者。あるいは、皆さんもよく知っている仏陀釈迦牟尼、サーリプッタ、マハーモッガラーナ、アヌルッダ、ケーマー、ウッパラヴァンナー、ね、これは原始仏教の成就者です――というような者たちは、その無常を超えた心の働きによって、自由に転生をすることができるから、そこでの無常性は止滅します。つまり、消え失せる。

（麻原彰晃の世界PART１『幸福に至る四つの実践』より）



S T E P

● 第3章 ●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



魂の落下のプロセス、それが"十二縁起の法"だ

魂が落下していくプロセス、これが「十二縁起の法（十二の条件生起の段階）」である。

十二縁起のプロセスを簡単に説明すると、まず、真我が三グナに干渉される。ここで無智、あるいは無明（非神秘力）という煩悩の最も根本的な働きによって、一部の魂はそこから落下する。そして本来自分に備わっているはずの絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜という三つの条件をかなぐり捨て、外的なものに対して、それよりももっと素晴らしいものがあるのではないかなといって、落下が始まる。

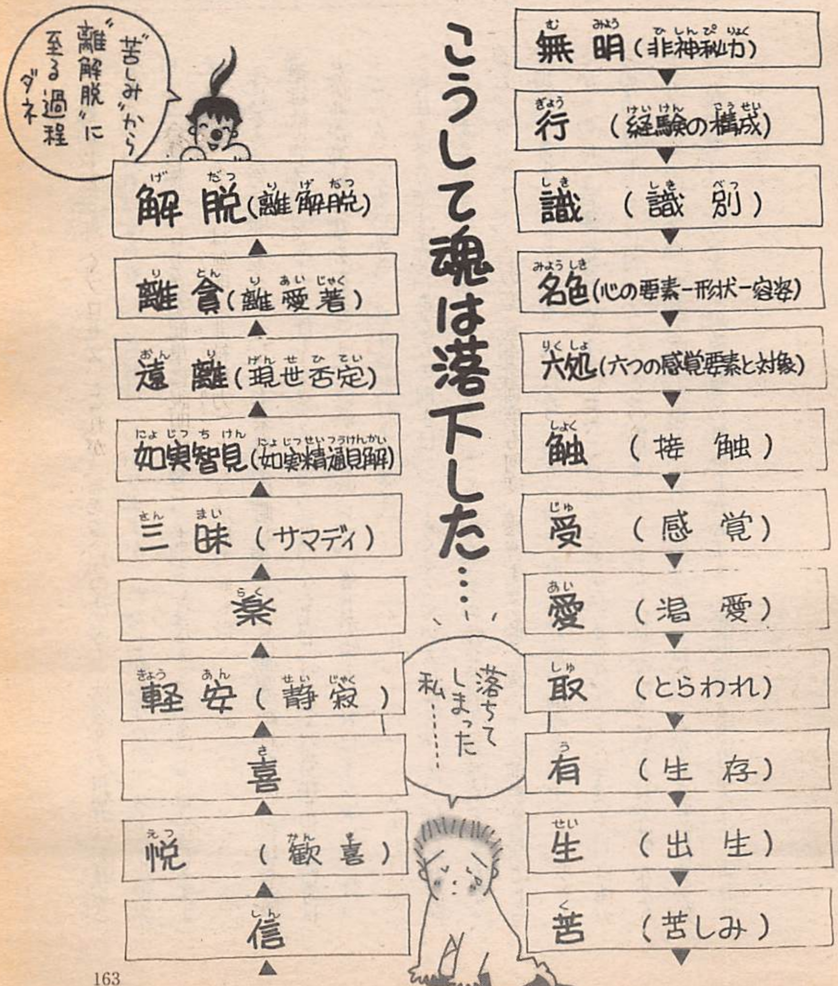
そして、その結果、「名色（心の要素-形状-容姿）」が生起する。この名色とは何かというと、自と他の区別である。そして、この自分と外界、対象に対して、その差異によって楽しみを求めるようになる。これが仏教的な言葉を使うならば「愛（渇愛）」である。そして、その楽しみを何度も何度も修習するようになる。修習することによって貪りが生じる。そして、執着、つまり「取著（とらわれ）」が生じる。この取著が生じることによって、対象に対して、これは我がものであると、これはわたし自体のものである、よって、このわたしの得ようとしている対象を傷つけるものは何人たりとも許さないと。ここで嫌悪が生起する。そして、完全な形での分離が生じ、「有（生存）」、つまり、欲界（愛欲界）・色界（形状界）・無色界（非形状界）のどこかの世界へ転生し、そして、生が生じる。

（麻原彰晃の世界PART1『幸福に至る四つの実践』より）

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



サマディに入らなければ前生はわからない

一般的には三昧（サマディ）に入って、あなたのそのアストラルの世界（形状界）に入らなければならない、普通は。わかりますか。わたしがあなたのアストラル世界に入った段階で、あなたは今どういう世界に入っていますよと言うことはできますよ、それは。

しかしそうではなくて、パッと見て、お前は地獄だとか餓鬼だとか、これは世界を通して、日本だけにしか存在しません、そういう人たちは。それだけ日本の霊能者は、レベルが高いのかもしれないいね（笑）。いやいや、そうだよ。これはインド辺り行ってごらん。いないから。必ず瞑想に入ります。

前生もそうですよ。「あなたの前生は」ってよくやっているけども、よっぽど力がなければわかりません。あるいは前もって、その人たちの生年月日とか写真とかを見ながら、ディアーナといって瞑想状態に入る。あるいは三昧に入って、前生を見ることは当然できます。しかしそうではない限り、何にもない状態で前生を的中させることというのは、皆無に等しいです。わたしはいろんな力のある方と会ってきたけども、どの方も同じように言ってらっしゃいますね。それは三昧に入らなければだめだよと。ところがこれもまた、先程言ったとおり、日本の霊能者方はね、力がおありになるから、即お答えになると。（麻原彰晃の世界PART4『宗教にだまされるな!』より）

…!?

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



真理のもとに転生するためには

人は死ぬ。必ず死ぬ。絶対死ぬ。死は避けられない。どんなに権力があったとしても、どんなに大金持ちであったとしても、どんなに愛する対象がいたとしても、どんなに名誉を持っていたとしても、どんなにお金持ちであったとしても、人は死にます。そして、わたしたちが普遍の絶対的幸福に浸ることができるのはただ一つ、それは輪廻転生を間違わず、絶えず真理のもとに転生することである。

そして、真理のもとに転生するためには、真理の実践、真理の実践の前の教学、思索、これを怠らず日々行なうことである。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ４『宗教にだまされるな！』より）

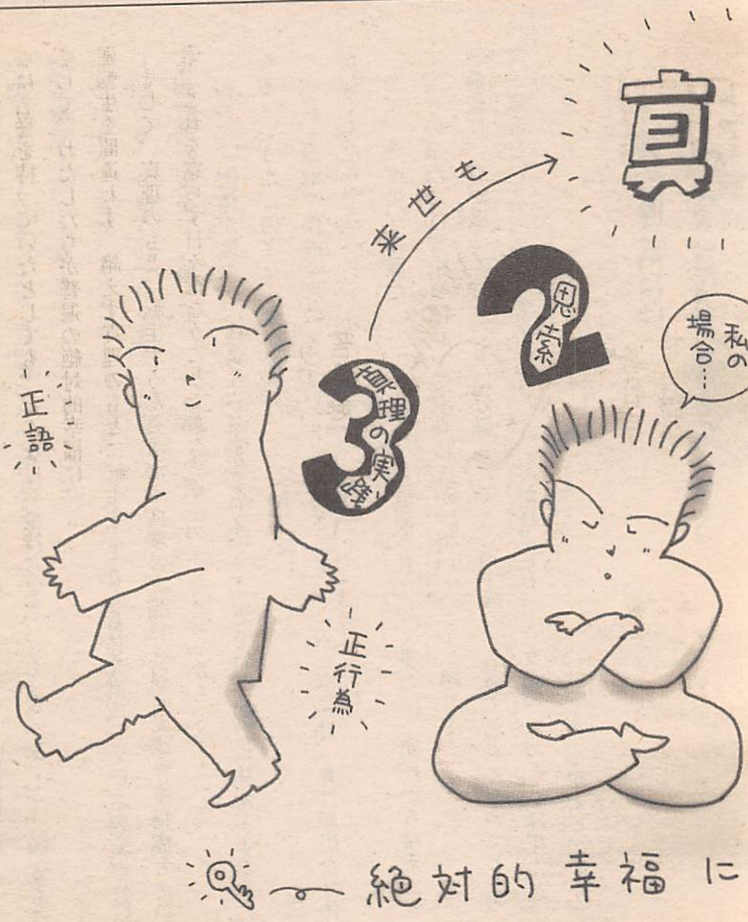


S T E P

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



死んだらこうなる！ PART 1

こうしてわたしは死んだ

死の直前には、感覚器官が働かなくなってしまう。よくテレビなんかの臨終シーンで、明るいのに「暗いから電気をつけて」などということがある。あれは本当だ。音が聞こえなくなることから始まって、何も見えなくなってしまう。そして、嗅覚も味覚も触覚も次々と衰えていってしまうのだ。

それから、意外なことに、まだ生きているうちから身体を構成している要素が分解し始める。分解されて、〝自性〟に還元されていく。自性とは、この世を構成している物質的な根源で〝地〟〝水〟〝火〟〝風〟の四つのエレメントからできている。

初めに、肉体が地のエレメントに分解される。このときは、自分の体がぶよぶよになるというか、何となく変な感じだ。…（略）…

次に、血液や体液が水のエレメントに分解される。このときには、鼻汁が出たり体がむくんだりする。…（略）…

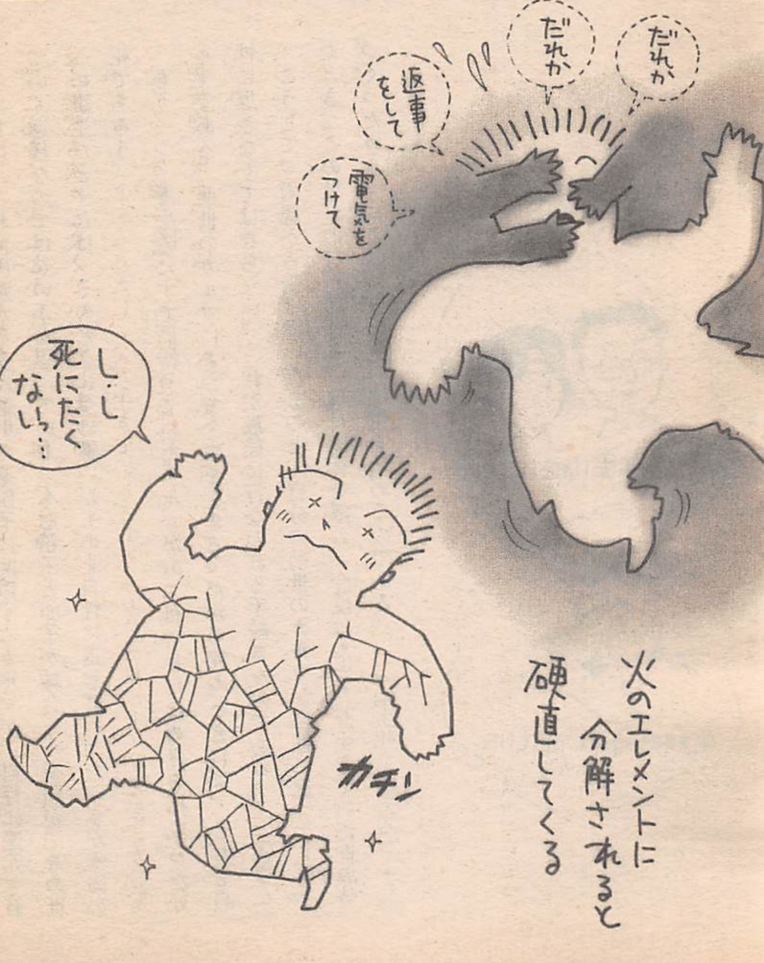
さて、今度は、体温が火のエレメントに分解されていく番だ。下腹部から冷えてきて、その冷たさは背中を伝わって全身に広がっていく。…（略）…

最後に、息が風のエレメントに分解される。このときは、呼吸しづらくなってしまって、息苦しい。…（略）…そして、すべてが終了した。こうやってわたしは死んだ。

（『生死を超える』より）

死の直前には、感覚器官が働かなくなる

●第3章●
輪廻転生
あなたはどこへ生まれ変わるか？



死んだらこうなる！ PART 2
最後の手続き

死んだ後も、魂はしばらくの間心臓にとどまり、この世の清算を受ける。…（略）…

わたしは、これは両親から受け継いだ遺伝子に関係するカルマが、自性（じしょう）に還元されていく過程なのではないかと思っている。もし精子と卵子が結合した瞬間が、この世への誕生だとすれば、そのときに受け継いだものを自性に返し終わったときが本当の死であろう。

もう一つ、誕生時にすでに持っていたカルマがあった。それは前世でつくったカルマである。前世のカルマによって今生を生きる。だから死ぬときには、それも自性に返さなくてはならない。これが最後に行なわれる手続きなのである。…（略）…

こうして、両親から受け継いだものと、自分の前世のカルマが自性に返ってしまったとき、この世との縁が切れる。魂は肉体を離れ、今度はたった今生きていた世界でつくったカルマによって、転生の準備を始めるのである。

（『生死を超える』より）





●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか?



死んだらこうなる！ PART 3
解脱者の転生



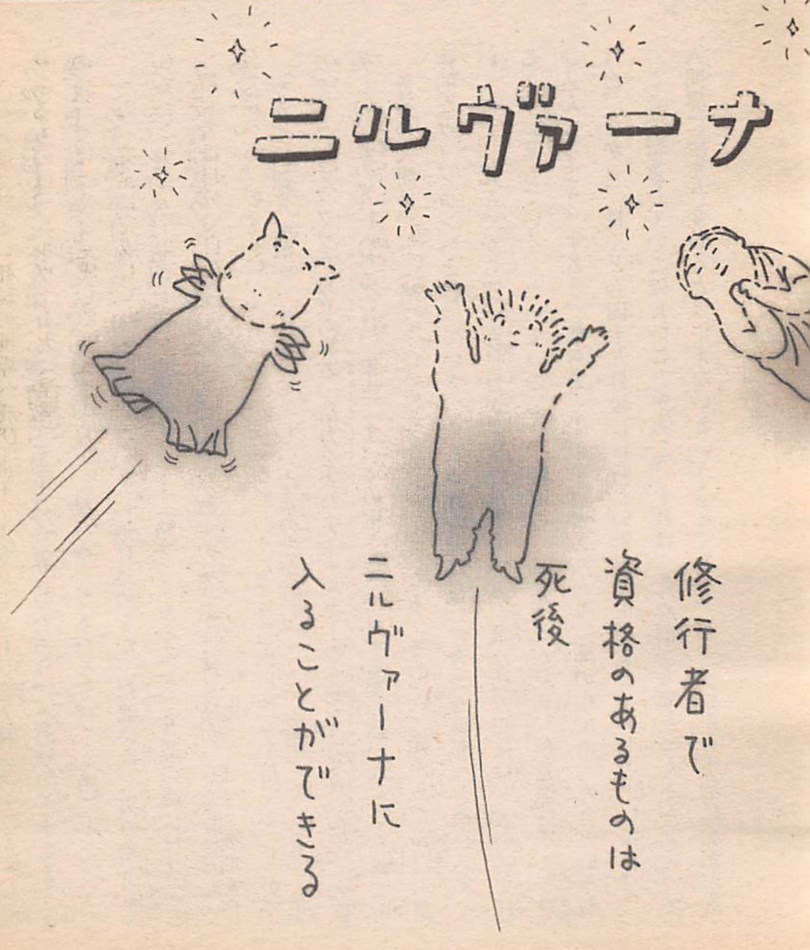
魂は透明で明るい死後の世界へ飛び込んでいく。この一瞬に、修行者だった魂で資格あるものは、ニルヴァーナ（涅槃）に入ることができるのだ。その資格とは、生前の修行でほとんど完成しているということである。

もし、完全に完成している解脱者であったなら、全く違う過程をたどるので少し触れておこう。

解脱者は自分で自在に死をコントロールできるようになっている。まず、死期を自分で選べる。要するに、この世での役目が終わったとき自由に肉体を捨てることができるのだ。そのときは、先程述べたような死のプロセスは必要ない。カルマは修行で消滅してしまっているし、魂は簡単に肉体から飛び出せる。肉体を持っている状態から、死の状態に意識を移し変えるだけですんでしまうのだ。これは、〝意識を移し変えるヨーガ〟の応用である。これについては後で述べよう。解脱者の魂は直接明るい死後の世界に飛び込める。そこから、ニルヴァーナへ入れるし、特別に望むなら、人間界やその他の世界に生まれ変わることもできるのである。死後の世界でも自由になるのだ。

（『生死を超える』より）

●第3章●
輪廻転生
あなたはどこへ生まれ変わるか？



死んだらこうなる！ PART 4
ヴィジョンにいざなわれて

では、修行していなかった普通の人間は、死後の世界に入った後どうなるのであろうか。最初にとてもまぶしい透明光が射し込んでくるだろう。そのゾッとするような美しさ、強烈さにほとんどの魂は恐怖し、動けなくなるだろう。……（略）……

この光は、半日から一日続くが、この光に飛び込めなかった魂には、次の光が射してくる。その光は透明に近い白銀光だ。……（略）……もちろん、普通の魂にはまぶしすぎて飛び込めない。飛び込めるのは、宗教上の功徳が非常に高かった人の魂のみである。

やがて白銀光は消え、代わって美しい赤紫の光が射してくる。赤紫といっても、ムーラダーラ・チァクラから立ち昇る、精力を表わすエネルギーの赤紫とは異質の色で、大変美しい。その光に入れるのは、衆生（しゅじょう）（すべての生き物）に対する愛の強い人だ。……（略）……

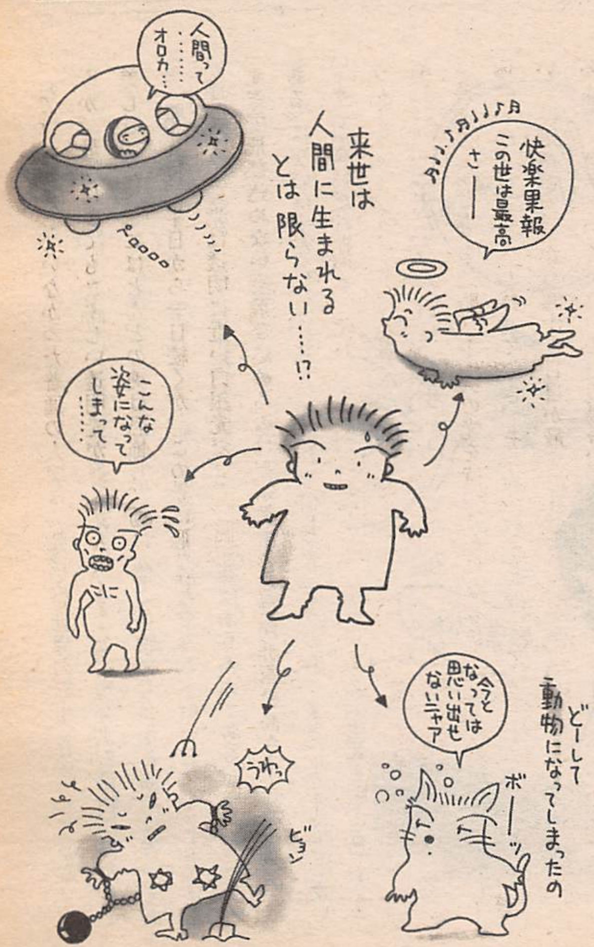
普通の人間は、……（略）……次の光を待つことになる。そして、光からだんだん具体的なヴィジョンへと移っていき、それぞれの魂は自分に合った世界へと飛び込んでいくのだ。死んでから四十九日目が最後の世界である。飛び込んだ後は、吸い込まれるように落ちていく。たいていの場合、性交のヴィジョンが見え、無意識にそこへ飛び込んでしまう。すると、落ち着く先が子宮であったり、卵の中であったりというわけだ。だから、長くとも四十九日後には新しい世界で生を受けていることになる。

ここで留意していてほしいことがある。それは、死ぬ前が人間だったからといって、人間界に生まれ変わるとはいえないということである。第一日目から次第に次元が落

●第3章●
輪廻転生
あなたはどこへ生まれ変わるか？

ちていき、人間界はずーっと下なので四十三日目くらいに回ってくる。四十五日くらいになると、動物界だ。一番最後の四十九日は、地獄である。一般に「地獄に落ちる」というが、魂がそのまま地獄に落ちるのではなくて、地獄に生まれ変わるのである。

（『生死を超える』より）



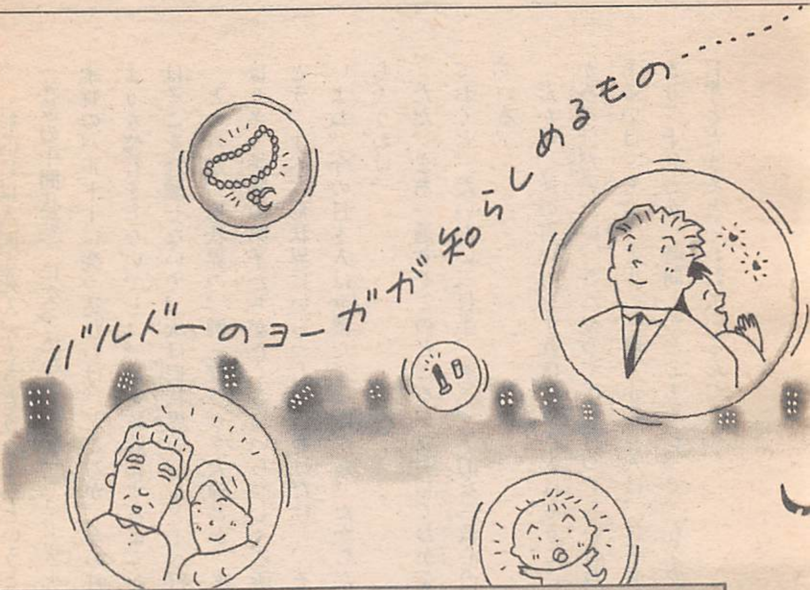
死んだらこうなる! PART 5
転生は甘くない



わたしは〝バルドーのヨーガ〟によって、すべての世界の転生を体験している。しかし、量が多いので、今回は全部は載せられない。そこで、現存する書物に書かれていないことを、ここに書いてみた。したがって、他の書物でもわかる箇所は省いてある。興味のある人は、『チベット・死者の書』を読んでみるといいと思う。あとは思い浮かばないなあ。みんな死後の世界について、嘘ばかり書いてあるから。だいたい、「ただ信じていれば死後幸せになれる」という類いの宗教が多過ぎる。そんなに甘いものではないはずなんだけれどね。それを信じてしまうのも、まさにカルマとしかいいようがないだろう。

（『生死を超える』より）

●第3章●
輪廻転生
あなたはどこへ生まれ変わるか?



●バルドーのヨーガが知らしめるもの

このバルドーのヨーガは次のような結果を生む。
①死後の世界の存在を確認できる
②転生の秘密を知る
③功徳（よいカルマ）と修行の必要性を理解する
④功徳と修行以外が無力であることを知る
すると、この世のすべてのものが幻影であると感じるようになる。そのことで、執着から離れることができる。これが解脱への大きな布石となるのだ。

死んだらこうなる!　PART 6
バルドーの四十九日

一般的には人間が死んだときどうなるかというと、コーザル（非形状界）のバルドー（死後の中間状態）に突っ込むわけだね。コーザルというのは、要するに心の本性、本質のバルドーに突っ込むわけ。ところが、今の日本人というのは心をほとんど磨くような修行をしないでしょ。心を綺麗にするような修行をしないよね。だから、結局はそこを経験しないで、次は形状界のバルドーへ行くんだよ。

ところが、形状界の、例えばシヴァ大神とか、あるいはヴィシュヌ神とか、あるいはサキャ神賢の弟子たちがたくさんいらっしゃる所とか、あるいはグル・リンポチェとか、すべて形状界にいらっしゃるわけだけど、そういう形状界についても帰依がないよね。今の日本人は欲望だらけだから。だからだいたい、即そのまま悪趣へ転生しちゃうわけ。

ただ、まあ一通りそこのところを説明しておかなきゃならないから、簡単に説明しておくと、だいたい三日半、チベット的な宗教心のある一般の人はとどまるといわれている。

だから、逆の言い方をすれば、日本人はもうここへはとどまらないと考えた方がよかろう。だいたい、こうやって手を打つぐらいのね、時しかとどまらないと。わかる?あるいは、ちょっと少し仏閣とか行く人は、食事をするぐらいの時間とどまると。つまり三十分とか一時間とかとどまると。で、もう少し信仰心の強い人は、だいたい三日半とどまるといわれているんだよ。

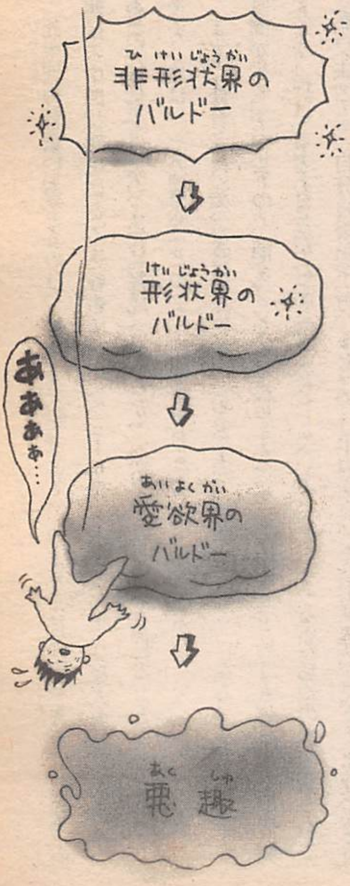
●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？

で、この辺はどうなるかというと、人間が転生に必要なのは四十九日間と決まっていて、…(略)…この四十九日間のバルドーっていうのは、例えば一週間とか、こっからここまで二週間といわれているのは、あれはあくまでもオーソドックス、つまり、一般的な普通の形であって、わかるかな、実際はそれぞれの人たちがその前の生においてどういう生活をしてきたのかと、どういう生き方をしたのかと、ね、あるいはどういう修行してきたのかと、あるいはどういう宗教を実践したのかと、ということによって、違うわけだね。で、まあ簡単に言うならば、その三日半の後、ま、だいたい一週間が平和の神々が登場して、残りまあ一週間が恐怖の神々が登場すると。ね、でまあ、残りは欲界(よっかい)のバルドーをさまようんだということになっている。わかるよね。

（『超越神力PART2 前生を知れ！ 死生智の秘密』より）



前世を知る超能力、死生智とは

死生智の背景にあるものは、純粋な天眼である。つまり、神の眼である。この神の眼によって、衆生がどこへ転生するのか、そして次の生どのような人生を送るのか、あるいは世界はどのように構成されているのかを、はっきりと見ることができるのである。では、その構成はどのような形で現われるのであろうか。

まず、修行者は完全な暗闇を意識のある状態で経験するようになる。そして、その暗闇が少しずつ少しずつ明るくなる経験をする。この明かりというものは、その体験を行なっている者の意識の鮮明度を表わしている。そして、その意識の鮮明度がある段階に来ると、自分自身の上方、あるいは下方からいろいろな光が見えるようになる。

この上方、下方から見える光は、上から見える光は天界の光であり、下から見える光は悪趣の光である。例えば例を挙げるなら、足元に緑の光が見えるとした場合、それは動物の世界へと導かれる光である。……（略）……

では、上の光とはどのような形で見えるのであろうか。それは、三百六十度、プラス中央といった形で光が見える。そして、その光に現象が投影される形で現われるのである。……（略）……例えば、意識堕落天は右側に赤を背景とした、赤系統の光を背景とした光が降りてき、そこにヴィジョンが映ることになるのである。このような形で、死生智というものは現われるのである。

では、なぜこれを死生智というのかというと、それは魂が前生において善業あるいは悪業をなす。その結果として、この死生智というものは現われるわけである。そし

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？

て、それは来世を先取りする形で現われるのである。よって死生智なのである。

（『超越神力PART2 前生を知れ！ 死生智の秘密』より）



●六神通とは

仏教では、修行を行なうことによって「六神通」と呼ばれる神秘的な力が身につくとされている。ここでご紹介した〝死生智〟もその一つである。

六神通は、以下の六つを指す。

①神足通　空中浮揚やテレポーテーションを行なったり、高い世界へ飛んだりすることのできる能力

②天耳通　神々の声を聞いたり、普通の人間なら聞くことのできないほど遠くの音を聞いたりする能力

③他心通　他人の心を知る能力

④宿命通　前生を知る能力

⑤死生智　転生先を知ったり、生きながらにしていろいろな世界とつながる能力

⑥漏尽通　完全なる絶対なる神の叡智

これが輪廻転生だ！ PART 1

怒りの炎で地獄に落ちる

なぜ地獄に落ちると思う、あなた方は？ なぜ餓鬼に落ちると思いますか。なぜ動物に落ちると思いますか。

根本的に「三悪趣（地獄・餓鬼・動物）」に生まれ変わる背景というものは、貪（愛著）・瞋（邪悪心）・癡（迷妄）です。この中で、最もわたしたちが避けなければならないのは、〝瞋〟ですね。この、顔の形相を変えて怒るということ。これは〝怒りの炎〟といいます。

この怒りの炎というものは「殺生をするなかれ」と。釈迦牟尼が説いてらっしゃる、この裏側にあるものです。だから実際には〝十善の戒〟とか、〝十悪の戒〟とかはでたらめであって、あれは実際は五つあれば十分なんだね。なぜかというと、表裏を一生懸命いっているにすぎない。ただそれを、真理を知らない者が説いているから、十になったり、二十になったり、三十になったりするわけだ。

何を言いたいかと。もしここに、全く怒りのない人がいたとしよう。この人はすべてのものを慈しむでしょう。この人は決して生き物を殺さないでしょう。つまり、あなた方がもし生き物を殺したならば、それは肉体的な殺生を意味しているかもしれない。あるいは、精神的な殺生を意味しているかもしれないけども、もしあなた方が殺したならば、あなた方は、地獄に至る道を歩いていると考えなさい。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ４『宗教にだまされるな！』より）

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか?



これが輪廻転生だ！ PART 2

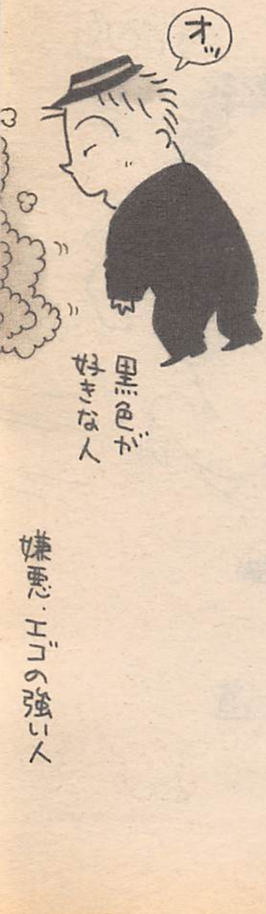
地獄への落ち方は三つある

第一の地獄に対する落ち方は、エネルギーによって落ちる。これは、煙、黒い煙が射し込んできて、それに愛着している者。だからカラーとしては、黒色が好きな人、この人は地獄に落ちる確率が高いと経典でいわれている。

第二の条件というのは、ヴィジョンである。それは、例えば嫌悪の想念の強い人ね。エゴがものすごく強い人というのは、その嫌悪によって相対する世界、反対側の世界、例えば暑さに対して嫌悪するならば寒さの世界、寒さに対して嫌悪するならば暑さの世界、あるいは単に多くの者に、例えば快楽の一部である異性に対して愛執が強ければ、その世界へと落ち込み、その世界の地獄が待っている。

そして、第三の地獄に至る道、これは裁きである。このとき登場するのが、仏教の言葉を使えば閻魔天（支配流転双生児天）、ヨーガの言葉を使えば夜摩天である。

（麻原彰晃の世界PART16『麻原彰晃 方便品』より）



●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



これが輪廻転生だ！　PART 3

嘘をつくと動物に生まれ変わる

わたしたちが動物に生まれ変わる、この背景は何だと。これは嘘なんだね。

この嘘というのは何かというとね、仏教でいうところの「痴」、これは無智といっているね。無智というのは、知らないということではない。これは、曖昧さという意味なんです。すべてを曖昧にしているということなんだね。

嘘というのはそうでしょう。嘘には二つのレベルの嘘がある。一つはなしたものをなさないという嘘と、もう一つはなしたものを沈黙する嘘。これは両方とも嘘です、これは。そしてこの実践をすることによって、あなた方は間違いなく動物へ生まれ変わるんだ。

ほーらほら、大変になってきたぞ。今まであなた方が生きていてだよ、どれぐらいの殺生をしたか。どれぐらいの盗みを行なったか、あるいは貪ったか。どれぐらいの嘘をついたか考えてごらんなさい。

（麻原彰晃の世界PART4『宗教にだまされるな！』より）



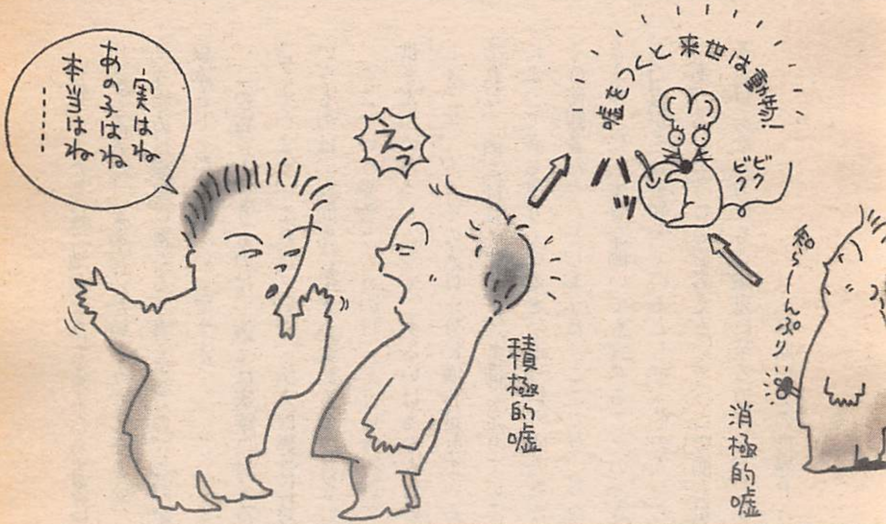
●芝居のうまい猿の前生は？

これはちょうど、わたしの「水中エアータイト・サマディ」のときの新聞に――「朝日」か「読売」だっ

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



たかと思うな——新聞に猿のことが書かれていたんだよ。猿には、旧型の猿と新型の猿がある。そして、新型の猿——あれは南アメリカだったと思います——新型の猿というものは、すごく芝居がうまいんだって。泣きまねをしたり、とにかく、芝居がうまいんだそうだ。

あれ、これはおかしいね。釈迦牟尼は地獄の道と動物の道があると言ってらっしゃるよね（役者は地獄と動物に生まれ変わるといっている経典がある）。ということは、彼らはわたしの魂の友である人間だったことがあるんだということだね。そして、そこで役者を演じていて、無智なるがために、そのカルマによって猿に転生したんだということがいえるわけだ。

これが輪廻転生だ！　PART4

貪りの心が餓鬼に導く

現代の人たちは、地獄に落ちる人たちも多いけども、それよりもっと多いのは餓鬼に落ちる人だ。まあだいたいこう考えなさい。もしあなた方がガンになったならば、あなた方は餓鬼に落ちると考えなさい。この餓鬼は何かというと、これは「貪り」を根本としています。いいですか。

この貪りというものは、例えば家族に対する愛着、例えば物に対する愛着、すべて含んでいます、これは。いや、例えば異性に対する愛着、言い方を換えるならば情というものは、人間界に生まれ変わるのではないかとお考えになるかもしれない。

ここでいう愛着というのは、そういうものではない。例えば、ここにあなた方の子供さんがいらっしゃって、あるいはあなた方の奥さんがいらっしゃって、夫がいらっしゃって、もうその人は十分に満ち足りていると。何によって満ち足りてるんだと。それは、例えば食べ物によって満ち足りている。あるいは、真理の法を実践することによって満ち足りていると。そういう人たちがいたとしましょう。そしてあなた方は、その傍観者だったとしようね。ここでだ、わたしはこの人を愛しているのだから、たとえ本当に一生懸命働いても食べることのできない人が、ここにいたとしてだよ、あなた方がそれを知っているとして、その人たちに少しでも布施をしてあげて、生かしてあげるということを考えないで、この満ち足りている人に供養したとしたならば、それはあなた方はもう餓鬼に至る道だと、そう考えなさい。

（麻原彰晃の世界PART4『宗教にだまされるな！』より）

●第3章●
輪廻転生
あなたはどこへ生まれ変わるか？



霊能者の世界――地獄・餓鬼・動物

もし霊能者が修行だけをして、生き方を変えないで、怒り、それから貪り、そして曖昧さを背景として行だけをなしたならば、その人の見る世界は、地獄・餓鬼・動物の世界だ。そうするとあなた方は、その人たちが霊能があるからといって、つまりあなた方にも欲望があるから、その欲望につられて、その霊能者のところに行って座る、あるいは聞くと、その霊能者たちは自分の世界観を話します、必ず。自分の世界観というのは、その人がもし動物的だったら、あなたには動物がついているよと。もしその人が餓鬼的だったら、はい、あなたには餓鬼がついてますよと。必ず、その世界観を話すんだよ、ね。

それは、別にあなた方の世界ではないんだよ。その人たちの世界観を話すわけです。そこであなた方は、今までたくさんついた嘘のカルマによって、その嘘に巻き込まれてしまうわけだ。そして混沌とした曖昧な宗教の世界に引きずり込まれてしまうわけだ。

(麻原彰晃の世界PART4『宗教にだまされるな!』より)



●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



あなたの来世はここ！ PART1

欲六界への転生は？

この世を南伝的に分析すると、地獄・動物・餓鬼・人間、そして、阿修羅・天界ということになる。この一つ一つのカルマは何かというと、嫌悪による殺生、あるいは嫌悪による間引きといったようなものが地獄へと結びつき、あるいは妥協、あるいは純粋に無智といったものが、動物へと結びつく。あるいは火元素と関連し大いに貪る、そして人にものを施さないといった心の働き、これは餓鬼の世界へと結びつく。では、人間はどうかというと、この三つの条件をクリアし、そして布施の実践をしている人ということになる。

だから、だれが、あるいはどの魂が、憤怒天へと生まれ変わり、どの魂が戯忘天界へと生まれ変わり、あるいは、どの魂が梵天界へと生まれ変わるのであろうか。

仏教は、一言で言うならば数学であるとわたしは考えます。つまり、論理的にスパッとこの世界観を割り切ってしまう。

では、阿修羅とはどういう世界か。これは、大いに功徳を積む。それは人間に生まれ変わる以上の功徳を積んでいる者が、戒律を守らず行く世界である。ではなぜ、戒律を守らず行く世界なのかというと、そこには当然、まだ心のけがれ、闘争心だとか、あるいは嫉妬心だとかいったようなものが残っている。この魂は、まぎれもなく阿修羅の世界へと転生します。

では、そういう心のカルマも含めて、十の戒めを守る魂。これはどこへ転生するのか。しかしまだ、貪りが残っている魂はどこに転生するんだ。これは、戯忘天界へと

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？

転生します。



（麻原彰晃の世界PART15『絶対幸福への道』より）

あなたの来世はここ！ PART 2
色界・無色界への転生は？

では、梵天界と欲六界との差は何だといったら、それは貪りが生じているかどうかである。つまり、離貪できているかどうかである。生きていくための最低限のもので満足し、そして内側を見つめ、多くの魂に多くの福利を与える者、これは梵天界へと生まれ変わり、ブラフマンとなる。あるいは色界の最高の世界である色究竟天まで生まれ変わることができる。

そして、貪りを離れ、生命に対する、存在に対する、全く頓着を離れたとき、二元の世界から解放されます。そのとき空間無辺境（空無辺処）、識別無辺境（識無辺処）、無所有境（無所有処）、非認知非非認知境（非想非非想処）という空の経験をします。ここでいっている色界（形状界）というのは、色の世界と考えるより、形状、美しい形のある世界、ヤントラの世界と考えるべきだとわたしは考えています。

そして、その空の境地を通り越した後、マハー・ニルヴァーナ、絶対的な滅尽の境地へと到達します。

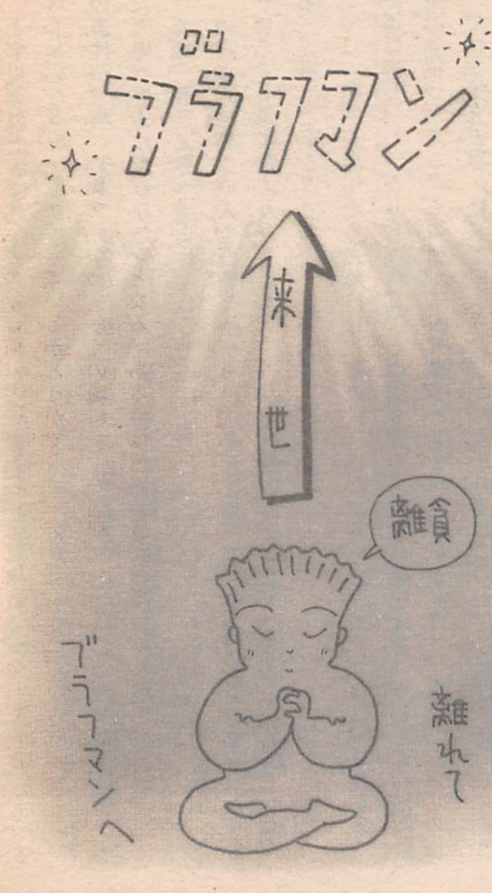
今、あなた方は財施・法施・安心施をはじめとする布施、そして、ある人は持戒を守り、ある人は持戒を守っていない状態で修行を続けているでしょう。ここで、瞑想修行、ダルマ（法）の修行を行なうことにより、離貪し、そして生命に対する愛着を断ち、早く空の境地に到達してください。

無色界（非形状界）の神々の寿命は、計り知れないといわれています。今、あなた方がここで苦しんでいることは、あなた方が来世三悪趣へ落ちるカルマを、前もって

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか?



苦しんでいるにすぎない。よって、大いに苦しみ、大いに修行し、乗り越え、本当の自由・幸福・歓喜を得てほしいと思います。そして少なくとも、人間、あるいは阿修羅(あしゅら)、あるいは戯忘天界(ぎほうてんかい)へ生まれ変わってください。しっかりと修行するように。いいね。

(麻原彰晃の世界PART15『絶対幸福への道』より)

高い世界へ転生するには

まず現実の生活においてしっかりとした態度で生きる。そして、自分の与えられたパートをしっかりと演じる。そして、多くの才能を救済のために役立たせる。これらの条件が、第一天界、あるいは第二天界の条件である。もちろん、この第一天界、第二天界へ生まれ変わるためには、布施、そして持戒の実践が必要です。

では、第三天界へ生まれ変わるためには、どのようにしたらいいのか。これは、多くの真理と縁のない人を真理と結びつけ、そして死・老・病という三つを根づかせる。そして、中間状態に入ったときに、その人が苦しまないように導いてあげる。これが、第三天界へと至る道です。

では、第四天界へ至るためには、どのようにしたらいいのか。これは、教義を多く記憶修習し、しっかりと理解し、その法を説く。つまり説法する。そして、心に四無量心を根づかせる。この魂が第四天界へと生まれ変わります。

では、第五天界へは、どのようにしたら生まれ変わるのか。これは、修行をなし、実際神通力を身につけ、それによって救済した者、これが第五天界へと転生します。

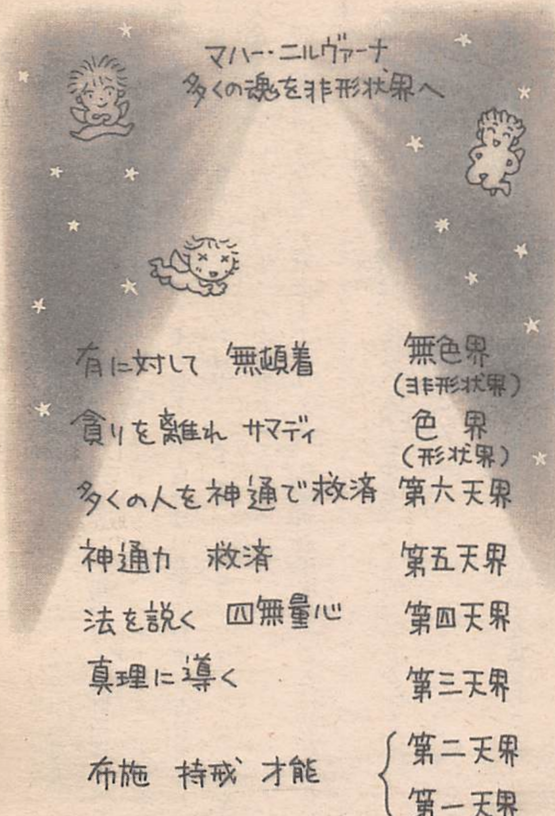
では、第六天界へは、どうか。これは、その神通を個のためではなく、もっともっと多くの者のために実際に役立てた者、これが第六天界へと転生します。

しかし、これら第一天界から第六天界までは、欲の天界です。つまり、まだ貪りが存在しています。そして、この貪りを離れ、サマディに入り、もっと高い色界、つまり欲のない形状のある世界へと転生した者、これを神聖天といいます。そして、有、

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



つまり、形のあるものに対して全く頓着が生じなくなったときに、無色界（むしきかい）へと転生します。非形状界へと転生します。そして、その魂が、多くの魂を、その形状のない世界へと導いたとき、その魂はマハー・ニルヴァーナへと転生するわけです。

（麻原彰晃の世界PART1『幸福に至る四つの実践』より）

仏典に見る輪廻転生 PART 1

善業を使い果たして地獄へ

『阿含経』から引用しよう。

ある金持ちの長者がいた。その長者は子供がなく、ね、亡くなったんだよ。で、子供がなかった。インドのしきたりによって、子供がない場合はその財産はすべて王のものになる。その当時の王はパセーナディ王である。で、パセーナディ王はどうも納得できなかった。というのは、その長者は、自分はお金を使わず、古着を着て、ね、とにかく貧しい生活をしていたわけだよ。そして、コツコツコツコツとお金を貯め、大金を持っていた、ね。ところが没収されてしまった。

で、納得できなかったパセーナディ王は、仏陀釈迦牟尼のところに訪れられた。で、ね、

「仏よ。いったいこの長者は、どこへ次の転生なさったんだろうか」と。

「それは地獄ですよ。間違いなく地獄である」と。

「なぜでしょうか」と。

「彼は、仏を供養せず、仏の法を信ぜず、そして、仏の弟子を供養しなかったからである」と。

「ではなぜ、そういう供養しなかった人が、今金持ちでいるんだ」と。

そこで、お釈迦様は得意の神通力を発揮なさって――宿命通だね――彼の前生についてお話しなさったわけだ。実は、前生において、彼は農家の子供であった。そして、そこへ身清らかな、礼儀正しい修行者が来た。そして、その修行者に対して、彼

●第3章●
輪廻転生
あなたはどこへ生まれ変わるか？

は食物をふるまったわけだ。いいですか。よく聞きなさいよ。その食物をふるまわれた、身清らかで礼儀正しい修行者は、木の下で、ただ、供養を受け、そして供養が終わった後、空中へ飛び去ってしまったんだ。それを見た農家のその息子は、

「わたしのこの功徳によって、わたしは将来において絶えずお金に恵まれた人生を送りますように。」

と念じたわけだ。そして、それによって、彼はその次の生から、いつも豊かな家庭の子供として生まれることができた。

では、なぜ彼はお金を使うことができなかったのか。楽しむことができなかったのかという問いに対して、彼はそのとき、こう念じたそうだ。その後ね、

「しまった。修行者なんかに供養するんだったら、召使いに食わせてやればよかった。惜しいことをしたな。ああ、惜しかった、惜しかった。」

と、ね。それによって、彼は何をするにも、惜しいな、もったいないなという気持ちだけが先行して、結局お金を使うことができず、結局彼は、ね、彼のなした善業のすべてを使い果たして――はい、善業を使い果たしたらどこへ生まれ変わるか――地獄へ生まれ変わったわけだ。

（麻原彰晃の世界ＰＡＲＴ２『尊師、麻原彰晃が斬る！』より）

仏典に見る輪廻転生　PART 2

役者たちの転生

一つ、面白いというか、偉大な釈迦牟尼の話がある。わたしは、釈迦牟尼の偉大さをいろいろと証明しているけども、『阿含経典』の中に「聚落主相応」というのがある。その中で、歌舞伎役者について法を説いていらっしゃるところがある。

そのインドというのは、カースト制が昔からあって、歌舞伎役者は歌舞伎役者で、一つの村を形成している。その村を形成している村の長、つまり一番長の人だ。この人が釈迦牟尼のところに行った。そして、釈迦牟尼に、こう聞いているわけだ。

「先祖代々、わたしたちは皆さんを喜ばせている、歓喜させている。だから、わたしたちは喜楽という天界へ行けるということですけども、吉笑という天界へ行けるということですけども、どうでしょうか」

と。それを三度聞いて、釈迦牟尼は、

「わたしに、そういうことは聞いてはいけない。」

と、三度返答していらっしゃる。そして、四度目に、

「じゃあ、わかった。村の長よ、話そう。

昔から人間というものは、怒り、貪り、そして、無智、あるいは愚痴に覆われていた。そして、役者というものが現われて、怒りの場面を演じて、それによって凡夫たちは、ここではこう怒ればいいんだなと考えて、怒りのエネルギーがいっそう強くなった。あるいは貪りの場面を演じると、凡夫はそれを見て、ここの場面ではこう貪ればいいんだなということで、いっそう貪りが強くなった。あるいは愚痴を演じる、ある

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



いは真理を否定する無智を演じるということによって、凡夫は、ここの場面ではこう演技すればいいんだなと考え、いっそう、そのエネルギーが強くなった。

だから、村の長よ、役者は吉笑という、あるいは喜楽という地獄へ落ちるんだよ。

そして、それをもっと言い換えるならば、それは地獄と動物界である。」

と言ってらっしゃるんだよ。いいかな。

（麻原彰晃の世界PART4『宗教にだまされるな！』より）

尊師が語る尊師の輪廻転生 PART1
今生への転生



実は前生わたしは意識堕落天の王様であったし、で、その意識堕落天のグルだったんだよ、ね。ところが、意識堕落天の食い物っていうのは、カニとかエビとか、あるいは貝類とかが好きなんだね。好物なんだよ。だからね、ドーンと目の前に見えたヴィジョンが、それをみんなが食べてるヴィジョンで、家族が。今のお父さん、お母さんが見えてきて、今の兄弟が見えてきて、でわたしの姉が見えてきて、姉は今結婚しているわけだけど、結婚しているだんなさんも見えてきて、すごく楽しそうなんだよ、食べてるんだよ。それに引っかかっちゃったわけね。つまり家族団らんとその食い物に。

そして、どんどんどんどんヴィジョンが近づいてきて、ああああって子宮に入っちゃったわけだよ。わかる？

（『超越神力ＰＡＲＴ２ 前生を知れ！ 死生智の秘密』より）

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



尊師が語る尊師の輪廻転生 PART 2

インドラ神、阿修羅王の前生

わたしが忉利天の王であったころ——つまり、インドラ神だったころだ——わたしは智慧の修行をしていた。そして、あるとき戦いが起きた。何に対する戦いかというと、それは天界に存在している、ね、わたしたちを幸福にしてくれる、木の実がたくさんなっている如意樹をめぐっての、阿修羅との戦いであった。

阿修羅は武力、あるいはエネルギーにおいてはね、天界を上回っているんだ。しかし、三十三天というのは、智慧に優れているわけだね。そしてわたしは、そのとき阿修羅王を捕えたんだよ。そして、そのときの阿修羅王の息子が、今のわたしの弟子であるマイトレーヤ、それから、パタンジャリなんだね。それから、阿修羅王の参謀、これは今のミラレパ大師なんだよ。

この話はね、サマナ（出家修行者）の中に少し伝わっているかもしれない。どうだこれは。聞いたことがある人はいるんじゃないか。そして、阿修羅王に改心を求めたけども、阿修羅王は屈辱に耐えられなくてね、自殺をした。

そこでわたしは、今のマイトレーヤ大師、パタンジャリ、これを引き取って育てることになったわけだ、わたしの息子として。その縁によってね、今彼らがオウムで活躍しているわけだけど。これは、ミラレパ大師の見たヴィジョン、あるいは、そのころわたしの侍者であったラーフラ大師が見たヴィジョン、ね、あるいはわたしの見たヴィジョン、これがね、同一であるということから、今日話をしたわけだね。二番目のわたしの前生に対してはね。

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか?

ということは、わたしたちは輪廻転生を繰り返しているということになるよね。どうだ。しかも、二人の大師とわたしの見たヴィジョンが同一であると。

あるときわたしは、阿修羅の王であった。そのときの参謀は、今のマンジュシュリー大師なんだよ。このときは、あまり戦いもなく、切利天との闘争もなく、安穏とした生で終わってしまっている。つまり、あるときは、敵であったはずの阿修羅の生としての前生をわたしは持っているわけだ。どうだ。

だとするといったい何を敵とし、何を味方とするか、すごく難しい問題になるよね、これは。そして、エネルギーのひっかかりによって、ね、特にわたしの場合は、エネルギーのひっかかりによって次の転生が決まるからね。例えばアナハタでひっかかるならば、人間界へ転生するだろう。

今、わたしがここで命を断ったとしたら、おそらく阿修羅の王として君臨することになるだろう。なぜならば、今わたしのエネルギーは喉(のど)でひっかかっているからだ。これはシャクティーパットによって、マニプーラまでいったん落ちたエネルギーが、少しずつ少しずつ回復している証拠なんだけどね。もちろん意志の力によって、人間界に戻すと、あるいは天界へ生まれ変わることができないわけではない。しかし、放っておけば、間違いなくわたしは次の生、阿修羅の王として生まれるだろう。

(麻原彰晃の世界PART16『麻原彰晃 方便品』より)

尊師が語る尊師の輪廻転生 PART3

イムホテップ、それはわたしだった！

しばらく経ってから、わたしはサッカラを訪れた。ここには、前にも触れたジェセル王の階段ピラミッドがある。エジプトにおける最古のピラミッドだ。

このピラミッドの前に立ったわたしは衝撃を受けた。わたしはこの六段の階段状のピラミッドに見覚えがある。いや、見覚えがあるどころじゃない。遠い遠い昔、わたしはこのピラミッドの設計をしたのだ。

わたしは修行によって成就する直前、宿命通（しゅくみょうつう）という超能力を得た。これは自分の無数にある過去世を知る能力である。この超能力によって、わたしは自分がエジプトの宰相であったことを知ったのだ。もう四年も前のことである。このことは弟子たちにも話してあったので、知っている人は多いはずだ。

わたしの記憶はピラミッドを見て速やかに甦ってきた。ジェセル王の時代、わたしは宰相のイムホテップ（当時の本当の発音はアインファテプだった）として王に仕えていたのだ。このときもわたしは秘技を会得し、成就していた。

わたしはジェセル王に修行の指導をし、王は徳をもって政治を行ない、神として崇拝されていた。だが、王は悩んでいた。

「死にたくない」とか「一人で死の世界に行くのはいやだ」とかわたしに何回となく言った。

そこでわたしはまず王がポアの秘技を会得するための神殿を建てた。この神殿は今もピラミッドの東南に当時の名残を残している。ここは、現代の解釈では王の若返り

●第3章●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？

の儀式であるセド祭を行なったらしいとされている。しかし、実際は少し違う。若返りというと、肉体的な若返りを思い浮かべてしまうだろうが、ここで王が行なったのは精神的な若返りの修行である。その最終目標はポアの会得であった。子供のように無垢の精神の延長線上にポアがあるのだ（チベット仏教でも〝童児の心〟の必要性を説いている）。

一方わたしはピラミッドの建造にもとりかかった。王が死ぬときに、王妃や子供たち、そして高官たちを一緒にポアさせるためである。王と同時に肉体を捨て、高い世界へ行くというのは、王・追随者双方の希望だった。ちなみに追随者も神殿においてポアの修行を行なっていた。

ピラミッド建造にあたって、わたしは粘土で造ったブロックと土と大理石の一種を使った。ブロックを土と大理石を混ぜたもので固定していったのである。皆さんは、こんな材質のものが現代に至るまで保存状態もよく残されていることを不思議に思うだろう。これは当時わたしがそれらを修法し、強力な上昇エネルギーを与えるとともに堅固にしたからなのである。この上昇のエネルギーについても述べておこう。このエネルギーはクフ王のピラミッドとは比べものにならないほど良質なものだった。

また、このピラミッドは、度々の設計変更が指摘されているが、これはエネルギーの状態を重視したためである。イムホテップだったわたしにとって、ピラミッド建造は初めての経験だった。だからエネルギーをベストにするには設計変更もやむをえな

いことだったのである。

「玄室は地下にあるはず。南に入り口があるはず……。（南の入り口は高位の神霊を呼ぶためのものだ。）」

わたしの記憶は次々に甦ってきた。懐しさでいっぱいだった。わたしは村井君に、このピラミッドが、ジェセル王と近親者、部下の集団ポアのために造られたことを説明した。が、集団ポアを示すような資料がないという。

ところが帰国してから三週間ほど経った、つい昨日のことである。村井君から電話があった。J・P・ロエールの著書に興味深い記述があったのだと彼は言った。その内容とは次のようなことであった。

「南側の回廊で三十体のミイラが発見された。これは中央の穴にあったものを、新王国時代に移したものと思われる。」

この事実が集団ポアを示す一つの証拠となろう。ただ、わたしの記憶では彼らが捨てた肉体には、だれもミイラにするような処理を施してはいない。ミイラといっても、自然乾燥によってできたミイラだと思う。現に、薬物処理されたミイラが登場するのは、もう少し後の時代になってからだといわれている。

（『古代エジプトの秘儀を解く』より）



● 第3章 ●

輪廻転生

あなたはどこへ生まれ変わるか？



※オウム真理教では、本来の意味を正確に表わしていない既製の仏教用語は用いず、パーリ語原典を忠実に翻訳し、吟味した結果、決定した訳語を使っています。以下に、代表的な言葉の対比表を掲げますので参照してください。また、仏教・ヨーガの言語対比表も参考までに掲載しました。

欲界→愛欲界
無間地獄→超期間激苦地獄
叫喚地獄→号叫激苦地獄
鉢特摩地獄→紅蓮華のような状態になる激苦地獄
餓鬼→低級霊
阿修羅→不飲酒天
憤怒天→意識堕落天
戯忘天→戯れ堕落天
地居天→地上愛欲神天
四天王衆天→四大王天

持国天→堅固王国天
増長天→成長天
広目天→統治変化自在天空天
毘沙門天、多聞天→守庶民外傷天
夜叉→人食い鬼神
忉利天→三十三天
帝釈天→有能神
夜摩天→支配流転双生児天
閻魔王→支配流転双生児王
兜率天→除冷淡天
楽変化天、化楽天→創造満足天
他化自在天→為他神以神通創造欲望満足従事天
悪魔→破滅天
色界→形状界
梵天→神聖天
梵衆天→神聖衆愛欲神天
梵輔天→神聖臣天

言語対比表

大梵天→大神聖天
浄天→美天
遍浄天→総美愛欲本質神天
広果天→偉大果報愛欲本質神天
浄居天→清潔居住天
無煩天→超空間愛欲神天
無熱天→超燃焼愛欲神天
善現天→善安楽愛欲神天
善見天→善現象愛欲神天
色究竟天→超越童子愛欲本質神天
無色界→非形状界
空無辺処→空間無辺境
識無辺処→識別無辺境
無所有処→無所有境
非想非非想処→非認知非非認知境
想受滅→認知経験滅尽

須弥山→完全無欠山
東勝身洲→東の高貴なる身体を得る大陸
南贍部洲、閻浮提→南のバラリンゴの大陸
西牛貨洲→西の願いがかなう牛の大陸
北倶盧洲→北の悪しき音の大陸
成劫→再生期
住劫→継続期
壊劫→還元期
釈迦牟尼→サキャ神賢
如来→真理勝者
応供→供養値魂
正等覚→最上正覚者
明行足→智徳成就者
善逝→最上善逝
世間解→世間解（変更なし）
無上士→無上士（変更なし）

調御丈夫→丈夫調御者
天人師→天人師（変更なし）
仏陀→覚者
世尊→世尊（変更なし）

菩薩→到達真智運命魂
比丘→向煩悩滅尽多学男
比丘尼→向煩悩滅尽多学女
優婆塞→帰依信男
優婆夷→帰依信女
僧伽→出家教団
長老→高弟
声聞→多学の弟子
沙門→出家修行者
沙弥→少年出家者
遊行者→托鉢修行者

バラモン→祭司

クシャトリヤ→武人
ヴァイシャ→庶民
シュードラ→奴隷

四双八輩→四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々
預流→真理の流れに入ること
一来→（愛欲界に）一度だけ再生すること
不還→不還（変更なし）
阿羅漢→供養値魂
四預流支→四つの真理の流れに入る段階
四聖諦→四つの絶対的真理
苦聖諦→苦しみの絶対的真理
集聖諦→苦しみの生起の絶対的真理
滅聖諦→苦しみの滅尽の絶対的真理
道聖諦→苦しみの滅尽に至る方法の絶対的真理

四念処→四つの記憶修習述

四正断、四正勤→四つの正しい努力

四如意足→四つの如意の基礎
欲如意足→決意如意の基礎
精進如意足→精進如意の基礎
心如意足→思念如意の基礎
観如意足→観慧如意の基礎

五根→五つの潜在性
信根→信の潜在性
精進根→精進の潜在性
念根→記憶修習の潜在性
定根→サマディの潜在性
慧根→智慧の潜在性

五力→五つの能力
信力→信の能力
精進力→精進の能力
念力→記憶修習の能力
定力→サマディの能力
慧力→智慧の能力

七覚支→七つの覚醒段階
念覚支→記憶修習正覚段階
択法覚支→検討正覚段階
精進覚支→精進正覚段階
喜覚支→喜正覚段階
軽安覚支→静寂正覚段階
定覚支→サマディ正覚段階
捨覚支→無頓着正覚段階

八正道→聖なる八段階の道
正見→正見解
正思惟→正思惟（変更なし）
正語→正語（変更なし）
正業→正行為

正命→正生活
正精進→正奮闘
正念→正記憶修習
正定→正サマディ

三苦→三つの苦しみの本質
苦苦→苦しみの苦しみの本質
行苦→悪い構成要素の苦しみの本質
壊苦→悪化の苦しみの本質

三受→三つの感覚
楽受→楽の感覚
苦受→苦しみの感覚
不苦不楽受→不苦不楽の感覚

四無量心
慈→聖慈愛
悲→聖哀れみ
喜→聖称賛
捨→聖無頓着

五取蘊→五つのとらわれの集積
色取蘊→形状・容姿のとらわれの集積
受取蘊→感覚のとらわれの集積
想取蘊→表象のとらわれの集積
行取蘊→経験の構成のとらわれの集積
識取蘊→識別のとらわれの集積

五蓋→五つの障害
貪欲蓋→愛欲の衝動による障害
瞋恚蓋→害心による障害
惛眠蓋→頑固と愚鈍による障害
掉挙蓋→興奮と後悔による障害
疑蓋→疑念による障害

書語対比表

五妙欲→五つの愛欲の構成部分
色→形状・容姿
声→声
香→香り
味→味
触→接触

五下分結→五つの下位に結びつけるきずな
有身見→有身謬見
疑→疑念
戒禁取→戒誓のとらわれ
貪欲→愛欲の衝動
瞋恚→害心

五上分結→五つの上位に結びつけるきずな
色貪→形状愛著
無色貪→非形状愛著
慢→慢（変更なし）

掉挙→興奮
無明→非神秘力

八解脱→八つの離解脱
八勝処→八つの克服境
十遍処→十全境
十波羅蜜→十の徹底

十二縁起の法→十二の条件生起の段階
無明→非神秘力
行→経験の構成
識→識別
名色→心の要素・形状・容姿
六処→六つの感覚要素と対象
触→接触
受→感覚
愛→渇愛
取→とらわれ

有→生存
生→出生
苦→苦しみ
信→信（変更なし）
悦→歓喜
喜→喜（変更なし）
軽安→静寂
楽→楽（変更なし）
三昧→サマディ
如実智見→如実精通見解
遠離→現世否定
離貪→離愛著
解脱→離解脱
涅槃→煩悩破壊
般涅槃→完全煩悩破壊
中般涅槃→中完全煩悩破壊
生般涅槃→減少完全煩悩破壊

無行般涅槃→形状界にて経験の構成がなく功徳の果報を受けつつある完全煩悩破壊
有行般涅槃→形状界にて経験の構成があり真理の実践による完全煩悩破壊
一種者→一つの種子を持つ者
家家者→徳の高い家から家へと転生する者
極七返→最高七回流転者
正智→正精通
正解脱→正離解脱
心解脱→心の離解脱
慧解脱→智慧の離解脱
殺生→殺生（変更なし）
偸盗→与えられないものを強奪すること
邪淫→愛欲における邪悪な行為
妄語→嘘の言い方
綺語→軽薄語

言語対比表

悪口→乱暴な言葉
両舌→中傷の言葉
貪→愛著
瞋→邪悪心
癡→迷妄
愁→不運な出来事
悲→悲嘆
苦→苦しみ
憂→激痛
悩→悩み

五趣→五つの方向
善趣→幸福に向かうこと
悪趣→悲痛に向かうこと

カルマ→要素の蓄積
法→法則
梵行→神聖行

布薩→戒誓行
波羅提木叉→約束維持解放
頭陀→断修行障礙
袈裟衣→赤っぽい黄色の衣
衆生→生命体
四大種→四大元素
本生経→輪廻転生談

◑仏教・ヨーガ 言語対比表

愛欲界―現象界
形状界―アストラル世界
非形状界―コーザル世界
愛著―サットヴァ
邪悪心―ラジャス
迷妄―タマス

本書は、麻原彰晃尊師の数多くの著作の中からテーマに沿った話題を述べている部分を抜粋し、「オウム真理教入門書」としてまとめたものである。

編集にあたっては、尊師の説かれる法則の中心となる部分をできるかぎりわかりやすくご紹介することに努めたが、その深遠で広大な教義をすべてお伝えすることは、残念ながらページに限りのある本書一冊ではとても不可能である。

この「出典一覧」は、本書で引用された説法や文章の出典を示したものである。興味のある方は、これらの書籍をご覧いただきたい。

真理勝者 絶対最勝の法則
タターガタ・アビダンマ 第一誦品



麻原彰晃著

B6判 550円

麻原彰晃尊師の修行体験と原始仏教をベースに、原始ヨーガ、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教などすべての宗教の真理を内在した史上最強の法則、オウム真理教の教義を体系的に紹介するシリーズの第一弾。

第一章「全宇宙の構造」、第二章「魂の落下のプロセス」、第三章「人間の構成要素」の構成で、真実の宇宙観と魂の落下のプロセスを詳述し、なぜ人間は修行しなければならないのかということを克明に描き出している。

続編の「第二誦品」は、修行によってどのように魂が進化していくかということを詳述した「真理勝者の救済計画」。なお、第一誦品・第二誦品ともに英訳版が出版されている。

●本書関連ページ
一四・一六・一八・二六・三〇・三二・三四・三六・三八・四〇・四四・四六・五〇・五四 ・五六・五八・六八

絶対幸福の鍵を解く!!
生死を超える 増補改訂版



麻原彰晃著
B6判 1800円

現実生活の苦悩から修行を志し、ついに最終解脱に至った麻原彰晃尊師の貴重な体験をもとに、釈迦牟尼の「縁起の法」が、実はクンダリニー・ヨーガのプロセスそのものであったことを説き明かした名著。一九八六年十二月発行以来、宗教、精神世界に興味を持つ読者に絶大な支持を受け、解脱を目指す修行者にとって手放すことのできない〝バイブル〟となっている。

第一章「絶対幸福の鍵を解く」での、クンダリニー（人間ならだれでも持っている霊的エネルギー。修行によって覚醒させることができるが、普通は尾てい骨のところに眠った状態になっている）を覚醒させてから最終解脱までのプロセスの描写は、体験した者でなければ決して書き得ない、詳細で興味深い記述といえるだろう。

第二章「実践テクニック――四カ月楽々クンダリニー覚醒法」は、写真をふんだんに使用し、初心者でもすぐに実践できるわかりやすい実践編となっている。実際にここに紹介されている修行を行なうことによって神秘体験をしたという声も多数寄せられているので、興味のある方はトライしてみてはいかがだろうか。

第三章「覚醒から解脱へ」では、麻原尊師の教えに導かれ、生死を超えて解脱を果たした四十八名の弟子の体験談を、解脱のプロセスに沿って掲載している。増補改訂版は、主にこの体験談を充実させ、オウム真理教の修行体系の正しさを裏付けるものとなっている。

この本で述べられた克明な修行プロセスは、最近では評論家の吉本隆明さんが詳しく分析し高く評価するなど、この本の真価が精神世界ファン以外にも広く知られるようになってきている。

●本書関連ページ
一六八・一七〇・一七二・一七四・一七六

大乗ヨーガ経典

マハーヤーナ・スートラ



麻原彰晃著

B6判 3090円

多くの魂を究極の幸福へと導く大乗仏教の全ステージを詳述したのが、この『マハーヤーナ・スートラ』である。

ここでは、それまで個々に論ぜられてきた各ヨーガを、系統立てて紹介し、曖昧だった小乗と大乗の違いをはっきりと打ち出している。すなわち、ラージャ・ヨーガ、クンダリニー・ヨーガ、ジュニアーナ・ヨーガ（あるいはマハー・ムドラー）という小乗のプロセスを経て初めて、大乗の道が開けるというのだ。既成の「大乗論」の甘さ、曖昧さを痛烈に批判した内容ともいえるだろう。

また、ここで展開されている真実の宇宙観は、原始仏教、原始ヨーガ、近代物理学にも共通する普遍の宇宙観であり、オウム真理教が、安易に霊障・先祖供養を説く昨今の新興宗教とは完全に一線を画した、論理的・科学的教義に立脚する教団だということがよく示されている。

第一章「マハーヤーナ・ステージ」に続く、第二章「解脱——体験した真理の世界」は、四人の弟子の解脱までの過程を描いたノンフィクション・ストーリーである。これまで、どんな本も表わすことのできなかった魂の飛翔のステップは、人々が求めてやまなかった解脱の真実をリアルに描き出している。

特に、修行に出会う前はごく普通の生活を送っていた男女が、尊師と巡り合い、修行を始めることによって心を成熟させていく様は、多くの人の共感を呼び起こしている。

解脱とは？　解脱の真の意味合いとは？　そんな疑問にズバリ答える、修行者向きの一冊だといえよう。

●本書関連ページ
五三・六四

マハーヤーナ・スートラ PART2



麻原彰晃著

B6判 2100円

パーリ聖典に遺された釈迦牟尼の教え、真理を現代に甦らせる麻原尊師の説法、そして法にのっとって実践した弟子たちの体験談を収めたこの書を発行するにあたり、麻原尊師は次のようなコメントを寄せておられる。

「わたしは現代人に欠けているもの、それは絶対的真理の実践、〝四つの預流支の実践〟だと考えている。この『マハーヤーナ・スートラ PART2』は、まさにその目的のために編集された経典である。

オウム真理教は伝統的な仏教、ヨーガを根本とした教団である。特にこの仏教については、後世につくられた仏陀釈迦牟尼の教えでないといわれている大乗経を排し、あくまでも仏陀釈迦牟尼の口から出たといわれている原始仏教の教えを採っている。

そしてこの教えの実践は、まさに現代の多くの悩みを解決する妙薬だといわざるを得ない。

さあ、あなたは真の灯明を見た。この灯明を生かし、あなたの心に真理の灯明を点火していただきたいと思います。」

麻原尊師と弟子たちが長年続けてきた、原始仏典のパーリ語からの翻訳によって、現代人にわかりやすく説かれた「四預流支」や「八正道」は、わたしたちになすべきことを訴え、進むべき道を雄弁に語りかけている。

お経は読むためのものではない。読んで、考え、実践するためのものである――とは、麻原尊師の持論であるが、まさにこの『マハーヤーナ・スートラ PART2』はその言葉どおり、読んで、考え、実践するための経典であるといえよう。

●本書関連ページ

七六・一〇〇・一〇四・一〇六・一一〇・一一三・一一四・一一六・一三〇

あなたの持っている本当の力
超越神力PART2
前生を知れ！ 死生智の秘密



麻原彰晃著
B6判 980円

人の魂に宿る不思議な力、それを〝超越神力〟と呼ぶ。

この「超越神力シリーズ」は、麻原尊師の超越神力を、そのメカニズムから実例まで幅広く紹介していくもので、PART2は、瞑想によってサマディ（三昧）に入ったときに得られる前世を知る神通力〝宿命通〟と、来世を知る神通力〝死生智（天眼通）〟を特集したものである。

本書は、宿命通・死生智獲得のプロセスに始まり、興味深い麻原尊師の前生体験、輪廻の仕組みを説き明かす説法等、時空を超えた、最終解脱者でなければ表現不可能な神秘の世界を満喫できる、ミステリアスな一冊となっている。

なお、このシリーズはこれまでに四巻発行されており、それぞれ、以下のような内容になっている。

●PART1 天耳通・他心通

神々の声や遠くの物音を聞くことのできる「天耳通」、他人の心を手に取るように読んでしまう「他心通」のすべてを紹介。

●PART3 完全なる絶対なる神の叡智、漏尽通

智慧の離解脱、心の離解脱で心のけがれを完全に破壊した最終解脱者だけが知る〝完全なる絶対なる神の叡智〟といわれる「漏尽通」を明かす。

●PART4 わたしは見た、これが尊師の超越神力

まさに超越神力と呼ぶにふさわしい麻原尊師の超能力の数々を、内弟子たちの生の声で検証する。

この「超越神力シリーズ」は、超能力に興味がある人はもちろんのこと、どんな人をも引きつけてしまう不思議なパワーにあふれている。

●本書関連ページ
一五六・一七八・一八〇・二〇二

甦るクンダリニー・ヨーガ文明 古代エジプトの秘儀を解く



麻原彰晃著
B6判 660円

エジプト――。その名を目にしただけでなぜか胸が高鳴る人も多いのではないだろうか。確かに、ピラミッド、スフィンクスなどの古代遺跡は今も人々の心をひきつけて離さない。

その神秘の国エジプトに麻原尊師が飛んだのは、オウム真理教を飛躍させようとしたシヴァ大神の示唆であった。

遺跡に残された数々の印に、最終解脱者の純粋観照智が照射されたとき、思いもよらなかった古代エジプトからのメッセージが浮かび上がってくる。それは、まるで上質の推理小説を読んでいるかのようにスリリングで、読む者をはるか数千年昔のエジプトへ誘い込み、謎めいた古代遺跡に命を吹き込んでいく。

三大ピラミッドで有名なギザで、ピラミッドがポア(死後に意識を高い世界へ移し変える技法)の装置だったことを発見し、これまで謎とされていた「重力拡散の間」の本当の意義を突き止めたことを皮切りに、最古のピラミッドのそびえるサッカラで、原始キリスト教の教会が建つアスワンで、古代エジプト末期の貴族の墓ネクロポリスで、そして、様々なレリーフやヒエログリフが刻み込まれたハトホル神殿が偉容を投げかけているデンデラの遺跡都市で、麻原尊師は次々に遺跡が訴えていた真実を我々の目の前に鮮やかに甦らせるのだ。

その真実一つ一つをつなげて見たとき、エジプトこそ、これまでインド独特の宗教だと思われてきた「ヨーガ」の源流だったということが浮かび上がってくるのである。

古代史の定説を覆す意欲的な一冊である。

●本書関連ページ 二〇六

ズバリ明かす、バルドーの秘密
色別恋人判定法



麻原彰晃著

A5判オールカラー 1500円

色の好みは、その人の性格・人生を反映しているということをご存じだろうか。

我々人間は、心やその人が持っている智性の違いによって、それぞれに様々な色の光を発している。この光は一般の人は見ることはできないが、修行によって天眼を開発したならば見ることが可能となる。

この修行によって得られるスーパー・パワーで、心や智性の発する光を自在に見ることができる麻原尊師が、正確な経典理解と数万人に及ぶ人生相談を生かして、好みの色による簡単な恋人の判定法をズバリ伝授しているのが、この『色別恋人判定法』である。

したがって、ちまたによくある大ざっぱな色別判定法と混同されては困る。ここで解説しているのは、もっと微細な判定法なのである。例えば、同じ色味でも、光沢があるかないか、透明か濁っているかで、その意味するところは全く違ってくる。透明で光沢がある赤を好む人は知的で優しいが、暗くて濁った赤を好む人は知的優秀性がないばかりか、性欲のことだけを考えているという具合である。

さらにこの書は、単に恋人の性格や志向するものを判定するだけではなく、その相手とどのように接したらいいかというアドバイスも付け加えているので、恋人の心がつかみかねている人、ちょっと気になる人にどう接したらいいかと悩んでいる人にはうってつけの本といえるだろう。

また、この色による分析は、恋人だけに当てはまるものではない。最も近くて遠い存在、自分自身を判定するのにも役に立つ。気がつかなかった自分の可能性や欠点を、この書はズバリと指摘してくれるはずだ。

●本書関連ページ
二八・三〇・三二

麻原彰晃の世界シリーズ



「麻原彰晃の世界」は、麻原尊師の説法、講演、対談、インタビューなどをテーマ別に編集した、尊師ファン必読のシリーズである。

宗教だけではなく、科学、医学、音楽、育児、社会問題等、あらゆる分野に精通した尊師ならではの本シリーズは、発刊以来、尊師の魅力と真理の法の素晴らしさを、多くの人たちにアピールし、共感を呼び起こしている。

麻原彰晃の世界 PART1
幸福に至る四つの実践



麻原彰晃
B6判 2500円

ついに登場した尊師説法集第一弾。仏教の基本ともいえる「四預流支」を多彩な側面から縦横無尽に説いた説法群は、魂の解放を願う人にはもちろんのこと、幸福な人生を求めるすべての人に本当の生き方を指し示している。

人はなぜ麻原彰晃を尊師と仰ぎ、彼のもとに集まるのか、その答えがこの本に集約されている。現代に甦った覚者の法を堪能したい方には最適の一冊である。

●本書関連ページ
一五二・一六〇・一六二・一九六

麻原彰晃の世界 PART2
尊師、麻原彰晃が斬る!



麻原彰晃
B6判 980円

願望成就の秘法、UFO&宇宙人、医学、幼児教育、音楽、食養、輪廻転生etc……。麻原彰晃尊師の魅力たっぷりの説法に、歌手鹿島とも子さんとの対談も加わって、ますます充実した「麻原彰晃の世界」。

真理を通して事象を見れば、何が正しくて何が正しくないか、何が利益があり何が利益がないかが一目瞭然となってくる、実生活に役立つ智慧の発見ができる貴重な書である。

●本書関連ページ
一九八

麻原彰晃の世界 PART3
真実! 六道輪廻



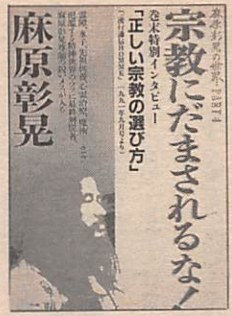
麻原彰晃
B6判 980円

六道とは、輪廻とは……。仏教思想の基礎ともいえる六道輪廻の真実を、麻原尊師と高弟たちの体験談が証明。『STEP TO 真理』を読んで〝輪廻転生〟に興味を持たれた方には最適の書である。

臨死体験、大霊界、チャネリングなど、ちまたで話題の間違いだらけの死生観に終止符を打ち、迷妄に苦しむ現代人に、正しい生き方、そして正しい死に方を指し示す衝撃の書である。

●本書関連ページ
四二・一五八

麻原彰晃の世界 PART4
宗教にだまされるな！



麻原彰晃
B6判 980円

霊障、水子供養、先祖供養、心霊治療、守護霊、魔術など、氾濫する精神世界のウソに、麻原彰晃尊師の鋭いメスが入る。

この世にはびこる間違った宗教を打破し、真理に基づいた正しい宗教をズバリと説き示したこの書を読んだあなたは、決して宗教にだまされることはなくなるだろう。

本当の幸福とやすらぎを得たい方に。

●本書関連ページ
六二・一二八・一六四・一六六・一八二・一八六・一八八・一九〇・二〇〇

麻原彰晃の世界 PART5
絶対の真理



麻原彰晃
B6判 980円

すべてを解き明かす〝カルマの理法〟がここに。なぜ幸福なのか？　なぜ不幸なのか？　運命の鍵を握る〝カルマの法則〟。すべての人がこの法則に支配されていることを豊富な実例が証明する。この一冊は、悪いカルマに縛られているあなたを、確実に幸福へ導くだろう。

『STEP TO 真理』を読んで、カルマの法則をもっと詳しく知りたいと思った方には必読の書。

●本書関連ページ
七四・八〇・八二・九二・九四・九六・一〇二・一〇八・一一三

麻原彰晃の世界 PART8
仏教真理 六波羅蜜



麻原彰晃
B6判 800円

在家修行者の修行を飛躍的に進める六つの極限〝六波羅蜜〟。〝八正道〟と並び、仏教の根幹をなす教えをただ一人の最終解脱者、麻原彰晃尊師が正確かつわかりやく伝授する、実践者向きの書。

布施・持戒・忍辱・精進・禅定・智慧の六つのステージを本書の解説にのっとって実践をするならば、どんな方でも、必ずや最高の幸福を手に入れることができるだろう。

●本書関連ページ
九〇・一三一

麻原彰晃の世界 PART10
仏教真理 五蘊無我



麻原彰晃
B6判 650円

人気シリーズ第十弾は、麻原尊師がわかりやすく説く仏教の真理「五蘊無我」。我々を構成する形状・容姿、感覚、表象、経験の構成、識別（五蘊）を浄化し、愛欲界を経て神聖天へ、そして、最終的には完全に五蘊を止滅し、不死へと至る教えを集大成した、瞑想家待望の書である。

巻末には、貴重な質疑応答集を収録し、より具体的な説法集となった。

●本書関連ページ
一四四・一四六・一四八・一五〇

麻原彰晃の世界 PART15
絶対幸福への道



麻原彰晃
B6判 620円

二千六百年前、釈迦牟尼は在家の修行者に、布施と持戒、そして簡単な瞑想を説かれた。その真意は、多くの宗教が説くように、現世的御利益のためではなく、来世天界に転生するための修行だったのである。

心を成熟させ、絶対幸福へ至るための最短、最速の方法、それが布施と持戒である。そのメカニズムを科学的に説いたこの書は、仏教実践における在家幸福への道を説く、在家修行者座右の書といえよう。

●本書関連ページ
七二・八六・九八・一二四・一九二・一九四

麻原彰晃の世界 PART16
麻原彰晃 方便品



麻原彰晃
B6判 720円

難解な仏典の比喩やエピソードに込められた釈迦牟尼の深遠な教えの真髄を、最終解脱者、麻原彰晃尊師が巧みな方便でわかりやすく解説。二千六百年前に説かれた真実の教えが、現代人に卑近な比喩で生き生きと甦っている。

文字だけに頼る学者とは違って、釈迦牟尼と同じ修行者である尊師だからこそわかる仏典に秘められた秘儀・奥儀までを明かした仏典ファン必読の一冊。

●本書関連ページ
八八・一四二・一八四・二〇四

本書で取り上げなかったテーマについても、麻原尊師は様々な著作を発表しておられる。
気になっていること、不思議に思っていること、悩んでいることがあったなら、ここでご紹介する書籍を一読されてはいかがだろうか。

イニシエーション



B6判 2163円

本来ならば選ばれた弟子にのみ伝授される秘儀をおしみなく公開。さらに、今日の日本と世界の動向の正確な予言——。麻原尊師があなたを真実の世界へと導く。

すべてが思いのままになる
超能力秘密の開発法



B6判 980円

人が修行によって〝人間〟を超えようとするとき、必ず人知を超えた力が身につく。超能力のつかない修行などニセモノだ！ 麻原彰晃尊師が贈る究極の秘儀伝授。

ガン・エイズだって怖くない!!
超能力 秘密のカリキュラム



B6判 1100円

アレルギー性鼻炎からガン・エイズまで、西洋医学の限界を破る治療法を病名別に詳しく紹介。さらに、超健康体、超能力をもたらす秘儀を満載。

キリスト宣言



B6判 550円

この世に存在する多くの偽予言者、偽預言者、偽キリストたちを粉砕する、キリストの教えのすべてを明かした衝撃の書。麻原尊師が説くイエスの真実。

再臨・裁き・終末
キリスト宣言 PART2



B6判 550円

神の審判のとき、この世は破壊する——『聖書』に示された破局のときとは？ イエス・キリストの大予言の徹底解読で明らかになった近未来を示す戦慄の書。

参考図書

原始仏典講義 一



A5判　2550円

どんな学者も修行者も解き明かせなかった釈迦牟尼の真理の法を、最終解脱者、麻原彰晃尊師が鋭く解説。いにしえの真実が、ここに生きた教えとして復活した。

幸福の科学の会員よ聞きなさい！

真実の仏陀の教えはこうだ！



B6判　980円

こんなにも違う、真の仏陀の教えと幸福の科学主宰、大川隆法氏の教え。すべての仏典を熟知した麻原尊師が、大川流仏法の大ウソを正す、痛快な一冊。

百問百答



B6判　980円

「人生うまくいかないな」と嘆いている方に、すべてを知り尽くした麻原彰晃尊師が〝運命転換の道〟を伝授する。実際に幸福を得た人々の体験も収録。

1999の謎

ノストラダムス秘密の大予言



B6判　600円

自らの神秘力によって様々な奇跡を見せた尊師が明かす衝撃の真実。遥かなる時を経て、甦ったノストラダムスの驚異の大予言。その真実を知ったあなたは……。

「黙示録大預言」の秘密のベールを剥ぐ

滅亡の日



B6判　1854円

『聖書』の秘儀中の秘儀といわれ、その難解さゆえに多くの議論の的になってきた『ヨハネの黙示録』。麻原尊師がその謎を徹底的に解読した衝撃の書。

「黙示録大預言」完全解読

滅亡から虚空へ（続・滅亡の日）



B6判　1900円

前著『滅亡の日』で明らかにされた大破局の後に来る新たなる闘いとは？　だれにも解けなかった預言書のすべてがここに明らかにされた。

麻原彰晃の世界 PART6

願望成就の秘法



B6判 980円

思いのままに人生を生きられたらどんなに素晴らしいことだろう……。心からの幸福を願うすべての人々に、麻原彰晃尊師が仏教の願望成就の秘訣をそっと伝授する。

麻原彰晃の世界 PART7

仏教真理 八正道



B6判 800円

原始仏教の根幹をなす〝八正道〟を、麻原尊師が正確かつ現代人にわかりやすく説いた。従来の仏典解説書では得られない生き生きとした教えの再現。

麻原彰晃の世界 PART9

尊師、聖地インドを行く



B6判 750円

釈迦牟尼の悟りの地、初転法輪の地、入滅の地など、仏教発祥の地インドで説かれた尊師の教えの集大成。直弟子に向けた最高の奥儀も掲載。

麻原彰晃の世界 PART11

自己を超えて神となれ！



B6判 820円

「自己を超えて神となれ」などの演題で、一般の人にも理解しやすい内容で、東大をはじめ、京大、気象大など、九一年の大学祭で大人気を博した尊師大学講演特集。

麻原彰晃の世界 PART12

仏教真理 十二縁起



B6判 620円

〝十二縁起の法〟は、絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜へと至るプロセスである。この過程を自ら体験された麻原尊師が、詳細に解き明かす〝十二縁起の法〟のすべて。

麻原彰晃の世界 PART13

これが尊師！



B6判 570円

各界から注目を集めている麻原彰晃尊師の雑誌・テレビのインタビュー特集。最終解脱者の純粋観照智が、宗教、人生観、科学などあらゆる分野を鋭く斬る。

参考図書

麻原彰晃の世界 PART14

宗教の条件



B6判 570円

宗教ブームといわれる昨今、ちまたには様々な宗教が氾濫している。その中から間違いなく本物の宗教を選び出すための条件を、あますところなく尊師自らが説く。

麻原彰晃の世界 PART17

世界は尊師を待っている



B6判 1030円

過渡期を迎えたロシア。変貌を遂げる伝統的仏教国スリランカ。立場こそ違え〝真実の教え〟を心から求める両国から国賓として招かれた麻原尊師の講演、対談集。

麻原彰晃の世界 スペシャル

約束の大地



B5判 オールカラー 1200円

インド・チベット・ラオス……。仏教ゆかりの地を尊師、麻原彰晃が行く。尊師が初めて明かす高度瞑想・秘儀の数々。その魅力を結集させたファン待望の書。

英訳版シリーズ

尊師説法集

The Teachings of the Truth
The Teachings of the Truth Vol.2

A5判 600円（各巻）

「イニシエーション」英訳版

Supreme Initiation

A5変形判 2163円

「キリスト宣言」の英訳版

Declaring Myself the Christ

A5判 980円

モスクワからあなたに――

オウム真理教放送「エウアンゲ



麻原彰晃尊師の声が あなたの耳を直撃！

麻原尊師が電波にのってあなたのもとへ。
宗教、音楽、科学、神秘……。
盛りだくさんの内容と、
次から次への新しい発見で
眠気も吹っ飛ぶこの時間！
さあ、あなたも今日から尊師を聴こう！

"オウム真理教ネット"



※ただ今、新入会員の方に素敵なプレゼント(えんじょい・はぴねす最新号)をさしあげています。

●なお、その他詳細は下記までお問い合わせください。

〒168 東京都杉並区宮前3-8-11
"オウム真理教ネット" 事務局　TEL 03-5370-1721

好評！あなたとオウムをつなぐ

パソコン通信、

オウムについてもっと詳しく知りたい……
教義その他について、いろいろと聞きたいことがある……
オウムの人たちの生の声を聞いてみたい……
そんなあなたに最適な情報ネットワーク

"オウム真理教ネット"のご紹介

TEL番号	03-5370-1726（三回線） Tri-P利用可能（CXAUMNET）
通信速度	1200/2400bps
通信条件	BITS-8 PARITY-NONE STOP-1
プロトコル	X-MODEM Y-MODEM(-G)
ゲストID	GUEST
運用時間	24時間
入会方法	ゲストログイン後、 SYSOPあてメールにて申請

面倒くさい手続きはいっさいありません。オウムに興味をお持ちの方、聞いてみたいことがある方は、今すぐお気軽にご利用ください。

すべての人々に幸福を

オウム真理教 AUM SHINRIKYO



その修行ステージの高さゆえ、
〝イエシエ──完全なる絶対なる神の叡智〟と
チベット仏教の高僧より称えられる麻原彰晃尊師。
最高の智慧と神通力を有した
日本でただ一人の最終解脱者です。
その麻原尊師が、あなたに贈る幸福へのプログラム。

病から解放されたい……

最高の幸福を得たい……

解脱と悟りを得、神通力をほしいままにしたい……

こんなあなたの願いを、
麻原尊師が仏教・ヨーガ・密教の
あらゆる秘儀を駆使して、
速やかに、そして確実にかなえます。

※資料請求券を添付したハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

STEP TO 真理
資料請求



病苦からの解放
新しい医学理論をもとに

〝一億総半病人時代〟といわれる現代、医学の進歩とは裏腹に病に苦しむ人は後を断ちません。そこで、オウム真理教は病へのアプローチとして、仏教理論や宇宙哲学を取り入れた「唯心的理論物理学」に基づいた医学の研究を進めています。

このオウム真理教の新医療は、心の浄化によって手術をせずにガンを消滅させることに成功するなど、現代医学では及ばない素晴らしい成果を挙げています。

これらの研究は現代医学の壁を破るために日夜努力を続けているオウム真理教の医師団によって科学的な検討がなされ、未来の医学を切り開く大きな力となっています。

難病・奇病の治療から超健康体・健康美の獲得まで――オウム真理教の修行と真理の実践は、病で苦しむ多くの人々を幸福にしているのです。



最高の幸福

満ち足りた人生と幸せな転生を

近年の経済的繁栄はわたしたちに恵まれた生活をもたらしました。その反面、複雑になった社会は、わたしたちに新たな悩みや問題をも与えるようにもなっています。また、何不自由ない生活のはずなのに、ふと空しさや寂しさに襲われることもあります。――わたしたちは豊かさを享受する一方で心を見つめることを怠ってきたのかもしれません。

厳しい修行の末、魂の最高の状態を得られた麻原彰晃尊師は、〝生まれる前――生まれてから――死んだ後〟という長いタイムスケールの中で、何が本当の幸福なのか、どうすればその幸福を得ることができるのかを指し示してくださっています。



解脱と悟り

最高の叡智をあなたに

長い間あこがれてやっと手に入れた幸せ、でも、その幸せはいつまでも続くものでしょうか。優しい恋人はいつか心変わりをしてしまうかもしれません。やっと手に入れた地位も追われる日が来ないとだれが言い切れるでしょうか。よしんば、その幸せにずっと包まれていたとしても、わたしたちは死を境にしてすべてと決別しなければならないのです。そう考えると、わたしたちが描いている幸福は、いずれは苦しみをもたらすものだということがわかります。それは、この世に存在するすべてのものが移り変わるもの、つまり無常を根本としているからなのです。

古来からこの真実に気づいた多くの人が、本当の幸福を得るにはどうしたらよいかと模索し続けてきました。そして覚者サキャ神賢（仏陀釈迦牟尼）をはじめとする聖者方が、無常を超えた絶対的な幸福・心の平安、つまり解脱と悟りを得られたのです。そして今、オウム真理教では麻原彰晃尊師の指導のもと、多くの弟子たちがこの解脱・悟りの境地に達し、究極の幸福を得ています。

宗教の枠を超えて

――オウム真理教の多彩な活動

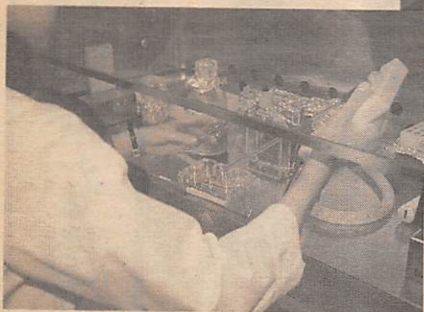


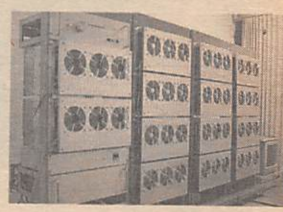
多様化した現代社会の価値観に応じ、
麻原彰晃尊師は、そしてオウム真理教は、
幅広い活動を展開しています。
それは、既成の宗教の観念を打ち破り、
一人でも多くの人に真理を
わかりやすく伝えたいという姿勢の現われなのです。

科学

スーパーコンピュータによるマントラの再現機器、バイオテクノロジーによるイニシエーションの開発など、修行の向上のためのシステムが開発されています。







アストラル・テレポーター

教育

一般社会の弊害のない恵まれた環境のもとで、学歴主義の片寄りのある教育を脱し、“豊かな心”“健やかな体”“智慧”を育むための教育機関、「真理学園」を開設しています。



「真理学園」でのびのびと学ぶ子供たち





最新の医療技術と神秘医学を合体させた医療を行なっている

医学

西洋医学や東洋医学、さらには尊師の神通で得た異次元の医学など、難病克服のために様々な医学が研究されています。「オウム真理教附属医院」では、その効果が実を結び、多くの方が病の苦しみから解放されています。





尊師自らがメイン・パーソナリティを務められる

ラジオ放送

宗教・音楽・科学・神秘等、麻原尊師とオウム真理教の生の姿をお伝えするラジオ番組「エウアゲリオン・テス・バシレイアス」が、ロシアから日本へ、そして全世界へ向けて毎日放送されています。

翻訳

従来の観念的な経典解釈を排し、サキャ神賢がお説きになった教えをそのままに再現するため、パーリ語原典からの緻密な翻訳を進めています。そのダイナミックでわかりやすい訳は、パーリ語で経典を学び実践している、テーラヴァーダ仏教（上座部仏教）の本場スリランカの高僧や学者にも高く評価されています。

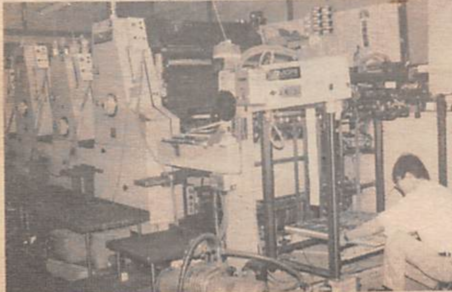


最古の経典を翻訳するため、コンピュータシステムも開発された

出版

本当の幸福とは、真理とは、そして解脱・悟りとは……。多くの人にオウム真理教の本当の姿を知っていただくために、編集から印刷・製本まで、一貫した本づくりが行なわれています。







膨大な書籍も、すべて出家修行者の手によって作られている

説法の祭典・大説法祭

真理の法をわかりやすく伝えるために、麻原彰晃尊師の説法と歌、舞踏・ビデオ等を交えた「説法の祭典」、さらに、法を求めるすべての人のために、衛星生中継でその模様を全国各地に伝える「大説法祭」を開催しています。



華やかな大説法祭の一コマ



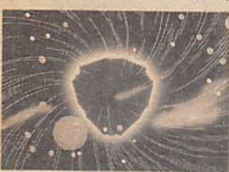




アニメーションも交えた「創世期」の舞台

オペレッタ

経典翻訳によって裏づけられた麻原尊師の瞑想体験をもとにして、死後の世界の実相や、宇宙創造と魂の輪廻の真実を、音楽や歌・舞踏・アニメーション等で表現した総合芸術を全国および世界各国で公演しています。







死後の実相を描き出した「死と転生」

アストラル音楽

瞑想に熟達した者だけが聴くことのできる高次元のアストラル世界で鳴り響いている妙なる音——。麻原尊師によって、それらの音が数多くの美しい曲となりました。瞑想曲として、情操教育の一環として役立てられています。



多くの人を魅了したアストラル音楽コンサート



たくさんのアストラル音楽が発表されている





アニメーションも真理の流布に活躍している



アニメーション

訳出された原始仏典や、麻原尊師の体験された神通の世界を生き生きと描いたアニメーションが制作されています。真理の教えや神秘の世界が、わかりやすくダイナミックに——。「動く経典」として好評を博しています。



健康食品

食品の持つカルマを浄化し、サットヴァのプラーナを強めるためにマントラ再現装置によって修法された食品を開発し、心身の浄化、修行の進歩、健康な体づくりに役立てられています。



アストラル・テレポーターで修法された食品

体験談

真理でこんなに幸福に！

❖安定した生活　清水和代

やすらぎは豊かな暮らしから



返しても返しても雪だるま式に増える借金のため、一家心中でもしなくてはならなくなるのではと思って毎日を生活しておりました。

そんなとき、麻原尊師のご著書『生死を超える』を読んで本物だという手ごたえを感じ、すぐに入信の運びとなりました。それから、運命は大きく変わっていったのです。

オウム真理教に入信後、尊師のシャクティーパット（特殊なエネルギー移入）を受けると、心がとても温かくなり、いつも安定した状態でいられるようになりました。

そして、仕事の合間を縫って道場に通ううちに娘たちも入信し、家族で修行をするようになると、暗くなりがちだった家庭の中が一気に光に満ちあふれたように明るくなったのです。

さらに、何千万という借金が一挙に返済できたという夢みたいなことが起こったのでした。

それまで住んでいた借家を追い出され、家賃分ぐらいの返済で買えるような中古の家を買ったのですが、その土地が大きく値上がりし、倍以上の値段で売れました。

そのお蔭で借金はすべて返済することができ、長い間苦しんできた借金苦から解放されたのです。（愛知県　四十三歳）

体験談

❖超健康体獲得！　前嵜正廣

ビジネスマンの強い味方



小さな企業ならどこでもそうでしょうが、管理職としてのわたしは、一人で何役も何役もこなして働いていました。日々のストレスは、酒・タバコ・ギャンブル・グルメなどで解消できていると思っていました。

しかし、三十五歳過ぎから、慢性風邪・消化不良・胸やけ・目やに・寝汗・高血圧などの慢性的な症状が目立ってきました。

そんなときオウム真理教に出会い、修行をしてみると、不思議とみるみる心が変化していったのです。仕事がら時間との戦争であったわけですが、同じように仕事していながら、ストレスがたまらなくなったのです。

今では、体の不調は完璧になくなり、白髪も黒く変わり、痔までが治りました。

（東京都　四十歳）

❖病撃退！　豆多千秋

蓄膿症——膿の塊が出て全快



十七歳のときに蓄膿（ちくのう）症（しょう）になりました。それ以来、絶えず頭が重く、嫌な臭いの鼻汁が出続け、ひどいときには息をする度に頭に激痛が走り、起き上がることもできないような状態でした。病院に行っても、鍼（はり）を打っても、いっこうに良くなりませんでした。



そんなとき、オウム真理教に入信して浄化法を始めると、たくさんの鼻汁と痰(たん)が出続けました。それが一週間くらい続き、最後に血の混ざった膿の塊が出てきました。その瞬間、今までの頭痛がすっかりなくなり、頭に穴が開いたように鼻が通り、鼻汁も痰も出なくなりました。

つらかった三年間が今では嘘のようです。（大阪府　二十歳）

❖ビジネス成功！　主任へランクアップ　林　泰男



オウム真理教に入信以来、コツコツと修行していたら、徐々に性格的に解放されてきて、どんどん明るくなって、自分を表現できるようになってきました。そして、次第に自分の生き方に対する姿勢も積極的になってきて、どんな仕事でも前向きにこなすことができるようになったのです。

その結果、会社からは信頼され、平の社員から主任へとランクアップしました。当然給料も上がり、その上、何かと自由に仕事をさせてくれるという特別待遇をしてくれるようにまでなったのです。

入信から一年も経たないうちにこの変化。いきなりやってきた〝棚からぼた餅〟のようなこれらの変化に、自分ながらあっけにとられています。（東京都　三十歳）

体験談

❖学力アップ！ 成績トップに

溝口博文



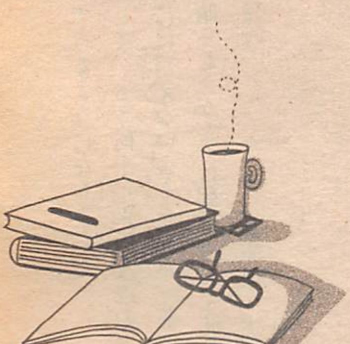
わたしは高校のとき、オウム真理教に入信するまではいつもパッとしない成績でしたが、行法を行ない始めてから集中力がつき、短い時間でたくさんのことを覚えることができるようになりました。

また、長時間の勉強も平気になり、飽きることなく集中できるようになりました。

また、各教科ごとに分析して問題を予想することができるようになり、高校三年のときには、最後の期末テストを除いてずっと一番でした。しかも、驚いたことに最後のテストでわたしの代わりに一番になったのは、同じ日にオウム真理教に入信した友人だったのです。

このとき、改めてオウム真理教の修行法はすごいと思ったのでした。

（広島県　二十歳）



❖ハッピーラブ！　大塚規之

素敵な女性が集まってきた



昔から、うわべを取り繕うのに懸命だったわたしは、心では素敵な異性を求めていたのですが、なかなか心の疎通をすることができませんでした。

しかし、オウム真理教に入信してしばらく経つと、わたしの心の殻は自然になくなっており、周りには空気のように自然に、心安らぐ女性が集まっているのでした。

以前は外見で女性をはかっていたのですが、今は相手の心の清らかさを喜び、その素直さに感心し、畏敬（いけい）の念を持つことができるようになりました。

そして、もう何十年来の友達のように、他人には言えないような悩み、夢、真理の素晴らしさなど、真剣に楽しく語り合っています。

（兵庫県　三十歳）



体験談

❖心の安定　吉岡 実

移り気なわたしが別人に！



わたしは子供のころから「好奇心が服を着て歩いている」と友人から言われるほど落ち着きがなく、一瞬たりともひと所にいることがなく、よく動き回っていました。

　ところが修行を始めると、徐々に集中力がつき始め、興味の対象がすぐ変わるといった移り気なところや、雑なところがなくなりました。精神的にも安定して、わたしなりに不動心といったものが得られたと思っています。

　たとえるならば、わたしの好きな言葉に「明鏡止水」という言葉があります。以前のわたしは、この言葉とはほど遠かったわけですが、今の自分はまさにこの「鏡」のように物事すべてを映し出し、波風の一切ない「水面」のように落ち着いて、全く別人のようになったと感じています。

（大阪府　二十五歳）



横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2
　　　　コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F
船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
那覇支部　098 (869) 7707
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
高崎支部　0273(46)1573
〒370-12　群馬県高崎市倉賀野町下稲荷前1081－5
深谷出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所　03 (3476) 5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3　プリメーラ道玄坂317号
〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor),
New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hügel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部 (AUM SACCA SANGHA ASSOCIATION)
Sorahena, Watta, Anglugaha, Galle, Sri Lanka

本部・各支部のご案内

富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部（杉並道場）03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4　井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1
チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384
松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F



麻原彰晃尊師プロフィール

仏教、ヨーガの修行に取り組むこと約8年、1986年にヒマラヤにて最終解脱を果たす。オウム真理教創設以来、全国的な規模で布教活動を行ない、全国に20、海外(ニューヨーク、ボン、スリランカ)に3つの支部を持つに至る。また、多くの弟子を育て、これまでに350名以上の弟子を解脱へと導く。

その活動は宗教にとどまらず、科学、医学、音楽、文筆、教育等にも及ぶ。『超能力秘密の開発法』『イニシエーション』『マハーヤーナ・スートラ』『タターガタ・アビダンマ』等、数多くのベストセラーを発表している。

海外での活動も活発で、修行の本場、インド、チベットの数多くの聖者たちと交流を結んでいるほか、伝統的仏教国スリランカやラオスから国を挙げて招待されるなど、その仏教的実践は国際的に高く評価されている。

また、政治・文化の転換期を迎えた激動のロシア共和国からも招かれ、ロシアの発展のための援助を行なうほか、ロシアからの日本向け・世界向けのラジオ放送を開始するなど、目ざましい活動を展開している。

★

1992年8月1日・初版発行
1992年8月20日・第2版発行

発行所　宗教法人 オウム真理教
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5
電話　03(3327)8565

STEP TO 真理 Shinri

★

宇宙の構造・カルマの法則・輪廻転生――
だれもが知りたい本当のことを、麻原彰晃尊師が真理の教えにのっとってやさしくレクチャー。さらに、イラストと図表があなたの理解をお手伝いします。真理の扉の前にたたずむ方のための、オウム真理教入門書です。

非売品